# 雷電山遺跡

平成6年3月

宇都宮市教育委員会

# 序

雷電山遺跡の所在します宇都宮南部地域は，県内でも最大級の古墳である笹塚古墳，塚山古墳が築造された地域であり，当時は田川・姿川流域の中心的な位置を占めていた所であります。

現在，この地域も道路の整備が進み，その両脇には中小の店舗や宅地が立ち並び，昔の面影が段々と失われつつあります。今回も民間の宅地開発に伴い遺跡が壊されるとのことから，記録保存のための調査を実施しました。

本遺跡は，大正年間に多量の石製模造品が出土したとの記録があり，また，一時は東日本最大の古墳ではないかとの指摘もされ，多くの方々の注目を集めている遺跡であります。今回の調査では，東日本最大との指摘は否定されましたが，整然とした住居配置の見られる特異な遺跡であることが判明しました。それらの成果を本書ではまとめておりますので，読者の皆様におかれましては，是非ご活用頂ければと存じます。

末文になりましたが，発掘調査にあたりご指導を頂きました宇都宮市文化財保護審議委員会の塙静夫・大金宣亮・橋本澄朗各先生，また，調査にご協力頂きました三州不動産株式会社に対しまして，厚く感謝の意を表する次第であります。

平成６年３月

宇都宮市教育委員会教育長
藤　田　昌　平

# 例　　言

1．本書は宇都宮市江曽島町３丁目757-4他に所在し，民間宅地造成に伴う雷電山遺跡の記録保存のための発掘調査報告書である。

2．本調査は，三州不動産株式会社が費用を負担し，宇都宮市教育委員会が主体となり，平成２年３月14日～同年４月18日まで発掘調査を実施した。

3．調査面積は約2,000㎡である。

4．遺跡地における測量，写真撮影等は上野とも子，糸永郁美，賀来孝代の協力を得て，定岡明義，梁木誠，大塚雅之，神野安伸，今平利幸がこれにあたった。

5．遺構，遺物の整理，実測等は，大森八重子，大野節子，賀来孝代，横堀聡の協力を得て，今平利幸がこれにあたった。また，遺物の写真撮影は横堀聡，大澤順子，清水豊，賀来孝代がこれにあたった。

6．本書の執筆は今平が担当した。

7．本遺跡出土の遺物及び図面・写真は，宇都宮市教育委員会で保存している。

8．発掘調査の関係者は次のとおりである。

〔指導助言〕国士舘大学教授　大川　清
宇都宮大学教授　石部正志
宇都宮市文化財保護審議委員会委員　塙　静夫
同　大金宣亮
同　橋本澄朗

〔事務局〕

| 〈発掘調査時〉 | | 〈報告書作成時〉 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 教育長 | 藤田昌平 | 教育長 | 藤田昌平 | 博物館建設推進班長 | 渡辺　卓 |
| 教育次長 | 田辺雄三 | 教育次長 | 近能忠良 | 博物館建設推進班 | 白井義雄 |
| 文化課長 | 河越昌司 | 文化課長 | 安達光政 | 同 | 片山　繁 |
| 文化振興係長 | 藤田秀樹 | 文化振興係長 | 北条和久 | 同 | 阿部邦男 |
| 文化振興係 | 斎藤全男 | 文化振興係 | 湯沢孝夫 | 同 | 青木　徹 |
| 同 | 白井義雄 | 同 | 臼井成志 | | |
| 同 | 湯沢孝夫 | 同 | 高栖良子 | | |
| 同 | 小松俊雄 | 文化財保護係長 | 定岡明義 | | |
| 同 | 高栖良子 | 文化財保護係 | 手塚英男 | | |
| 文化財保護係長 | 定岡明義 | 同 | 梁木　誠 | | |
| 文化財保護係 | 手塚英男 | 同 | 小松俊雄 | | |
| 同 | 梁木　誠 | 同 | 大塚雅之 | | |
| 同 | 大塚雅之 | 同 | 神野安伸 | | |
| 同 | 神野安伸 | 同 | 今平利幸 | | |

〔調査補助員〕　池田友保，大塚清，小松寅雄，高藤利三郎，塚田幸子，吉沢良助，渡辺礼子，大森八重子，大野節子，上野とも子，糸永郁美，賀来孝代，入江タカ子，入江文子，入江通子，白井チセ子，広田愛子

9．発掘調査及び報告書作成に関しては，次の諸機関，諸氏の御協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。(敬称略)

栃木県教育委員会文化課，栃木県埋蔵文化財センター，三州不動産株式会社，株式会社オオノ測量，株式会社パレオ・ラボ，秋元陽光，阿部知己，甘粕健，池田真規，石橋知明，岩崎卓也，倉田英，後藤信祐，小森哲也，小森紀男，斎藤光利，篠崎三男，篠原祐一，下津谷達夫，関口淳，芹沢清八，田熊清彦，田代隆，塚原孝一，中村亨史，中山晋，根岸昌子，野田武治，橋本博文，花岡武久，比田井克仁，大野茂男，大賀恵美，藤田典夫，安永真一，吉川純子

# 凡　　例

1．挿図の縮尺は，遺構1／60，カマド1／30，遺物1／3で，第34図（柱穴列跡）のみ1／120で示した。また，遺物実測図番号と図版の遺物番号とは一致する。

2．断面図基準線は標高であり，平面図の方位は磁北を示す。

3．挿図中の□は炉，■は粘土を示す。

4．文中および図版中の略号は，ＳＩは住居跡，ＳＫは土坑を意味する。

5．遺構実測図の土層説明においては，次の略号を使用した。

ロームブロック…ロームＢ　今市パミス…ＩＰ　七本桜パミス…ＳＰ　鹿沼パミス…ＫＰ

6．土器観察表内の（Ｈ）は土師器を示し，（Ｓ）は須恵器を示す。

7．本遺跡の略号は，Ｕ.Ｅ.Ｒ.Ｓである。

# 目　　次

序　文
例　言
凡　例
Ⅰ　調査の経過と方法
　1　発掘調査の経過……1
　2　調査の方法……1
Ⅱ　位置と環境
　1　地理的環境……5
　2　歴史的環境……5
Ⅲ　調査結果
　1　竪穴住居跡と出土遺物……9
　2　土坑と出土遺物……38
　3　柱穴列跡……40
Ⅳ　その他の遺物
　1　縄文時代の遺物……41
　2　古墳時代以降の遺物……43
Ⅴ　まとめ
　1　遺物について……44
　2　遺構について……52

# 挿図目次

第1図　トレンチ配置図……2
第2図　遺構配置図……3
第3図　地形と調査地区……4
第4図　周辺遺跡分布図……6
第5図　ＳＩ－01平・断面図……9
第6図　ＳＩ－01出土遺物実測図……10
第7図　ＳＩ－02平・断面図……12
第8図　ＳＩ－02出土遺物実測図……13
第9図　ＳＩ－03平・断面図……14
第10図　ＳＩ－03出土遺物実測図……15
第11図　ＳＩ－04Ａ・Ｂ平・断面図……16
第12図　ＳＩ－04Ａ出土遺物実測図……17
第13図　ＳＩ－04Ｂカマド平・断面図……17
第14図　ＳＩ－04Ｂ出土遺物実測図(1)……18
第15図　ＳＩ－04Ｂ出土遺物実測図(2)……19
第16図　ＳＩ－05平・断面図……21
第17図　ＳＩ－05埋土上層遺物出土状態図……22
第18図　ＳＩ－05出土遺物実測図(1)……22

第19図　ＳＩ－05出土遺物実測図(2)……23
第20図　ＳＩ－05出土遺物実測図(3)……24
第21図　ＳＩ－05出土遺物実測図(4)……25
第22図　ＳＩ－05出土遺物実測図(5)……26
第23図　ＳＩ－05出土遺物実測図(6)……27
第24図　ＳＩ－06平・断面図……29・30
第25図　ＳＩ－06出土遺物実測図……32
第26図　ＳＩ－07Ａ・Ｂ平・断面図……33
第27図　ＳＩ－07Ａ出土遺物実測図……34
第28図　ＳＩ－07Ｂ出土遺物実測図……34
第29図　ＳＩ－08平・断面図……36
第30図　ＳＩ－08出土遺物実測図……37
第31図　土坑平・断面図……38
第32図　ＳＫ－01出土遺物実測図……39
第33図　ＳＫ－02出土遺物実測図……39
第34図　柱穴列跡平・断面図……40
第35図　縄文時代の遺物……41
第36図　古墳時代以降の遺物……43
第37図　器形分類(1)……45
第38図　器形分類(2)……46
第39図　Ｄ・Ｅ類法量比較図……50
第40図　ＳＩ－06変遷模式図……52
第41図　雷電山遺跡変遷図……52

# 表　目　次

第１表　周辺遺跡一覧表……7
第２表　ＳＩ－01土器観察表……11
第３表　ＳＩ－02土器観察表……13
第４表　ＳＩ－03土器観察表……15
第５表　ＳＩ－04Ａ土器観察表……17
第６表　ＳＩ－04Ｂ土器観察表……20
第７表　ＳＩ－05土器観察表……28
第８表　ＳＩ－06土器観察表……31
第９表　ＳＩ－07Ａ土器観察表……34
第10表　ＳＩ－07Ｂ土器観察表……34
第11表　ＳＩ－08土器観察表……37
第12表　ＳＫ－01土器観察表……39
第13表　ＳＫ－02土器観察表……39
第14表　古墳時代以降の土器観察表……43
第15表　器種構成表……49
第16表　住居跡一覧……54
第17表　古墳時代中期後半編年表……55

# 図版目次

ＰＬ１　①　遺跡遠景
　　②　調査区全景（北より）
ＰＬ２　①　調査区全景（南東より）
　　②　ＳＩ－01完掘状態（南より）
　　③　ＳＩ－01遺物出土状態（南より）
　　④　ＳＩ－01遺物出土状態（No８）
　　⑤　ＳＩ－02完掘状態（南より）
ＰＬ２　⑥　ＳＩ－02石製模造品（No11・12）
　　⑦　ＳＩ－03完掘状態（南より）
　　⑧　ＳＩ－03遺物出土状態（南西より）
ＰＬ３　①　ＳＩ－03粘土出土状態（南より）
　　②　ＳＩ－04Ａ・Ｂ完掘状態（南より）

PL 3 ③ SI－04A・B遺物出土状態（南より）
④ SI－04B遺物出土状態(北東より)
⑤ SI－04Bカマド（南より）
⑥ SI－05完掘状態（南より）
⑦ SI－05遺物出土状態（南より）
⑧ SI－05遺物出土状態（南より）
PL 4 ① SI－05遺物出土状態
② SI－05遺物出土状態（No32）
③ SI－05南壁際（No 5 他，東より）
④ SI－05土製鏡出土状態
⑤ SI－05鉄製品出土状態
⑥ SI－06完掘状態（南より）
⑦ SI－06カマド（南より）
⑧ SI－06カマド内玉類出土状態
PL 5 ① SI－06南土坑（南より）
② SI－06南土坑（No 1，東より）
③ SI－07A・B完掘状態（南より）
④ SI－07B南土坑（西より）
⑤ SI－08完掘状態（南より）
⑥ SI－08遺物出土状態より(南より)
⑦ SK－01完掘状態（南より）
⑧ SK－01遺物出土状態（南より）
PL 6 ① SK－01遺物出土状態（北より）
② SK－01遺物出土状態（南より）
③ SK－02完掘状態（南より）
④ SK－02遺物出土状態（南より）
⑤ SK－03完掘状態（南より）
⑥ SK－04完掘状態（南より）
⑦ 調査作業風景
⑧ 調査作業風景
PL 7 ① SI－01出土土器
② SI－02出土土器
PL 8 ① SI－03出土土器
② SI－04A出土土器
③ SI－04B出土土器(1)
PL 9 ① SI－04B出土土器(2)
PL10 ① SI－04B出土土器(3)
② SI－05出土土器(1)
PL11 ① SI－05出土土器(2)
PL12 ① SI－05出土土器(3)
PL13 ① SI－05出土土器(4)
PL14 ① SI－06出土土器
PL15 ① SI－07A出土土器
② SI－07B出土土器
③ SI－08出土土器
PL16 ① SK－01出土土器
② SK－02出土土器
③ 表採土器
PL17 ① SI－02 No10・11・12
② SI－04B No28
③ SI－04A No 5
④ SI－05 No39
⑤ SI－05 No40
⑥ SI－05 No41
⑦ SI－06 No17・18・19
⑧ SI－08 No 7
⑨ SI－08 No 8
⑩ SI－08 No 9
PL18 ① 縄文時代の遺物
② SI－06カマド出土炭化米
③ SI－06カマド出土炭化米(下より)

# Ⅰ　調査の経過と方法

## 1　調査の経過

平成２年２月22日，㈱オオノ測量の大野茂男氏より，宇都宮市江曽島に所在する雷電山遺跡内において民間住宅地造成の計画があることが，本市都市計画課を通じ教育委員会文化課に通報された。23日に土地所有者の大賀氏と現地で協議の結果，26日の週に立ち合いの確認調査を実施することを決定する。27日に発掘承諾書をオオノ測量に依頼し，翌日発掘承諾書が提出される。３月12日，㈱オオノ測量より14日に立ち合いをお願いするとの連絡が入る。14日，立ち合い調査を実施。南北２本，東西２本のトレンチを設定し（第１図参照），重機で表土から50㎝程掘り下げる。その結果５～６軒分の竪穴住居跡のプランを確認したため，原因者である三州不動産と今後の進め方を協議する。協議の結果，翌日から１か月間の調査期間の中で調査を行うことが決まる。翌５日から重機による表土剝ぎを開始し，19日から本調査に入り，４月18日に終了する。

## 2　調査の方法

まず始めに，トレンチ調査により遺構の確認調査を行った。この結果，５～６軒分の竪穴住居跡が確認できたため，その範囲を重機により面的に広げた。第２図は遺構配置図であるが，竪穴住居跡が10軒，土坑が４基確認できた。尚，調査に入る前にこの場所は馬の飼育小屋兼調教場として使用されていたためか一度整地作業が行われており，その際に一部深く掘り込んだ箇所があり，その部分は遺構が破壊されている。

測量杭は任意に５ｍ間隔で設定した。また，標高は水準点までの距離が遠いことから，付近の道路上に設定された標高点（103.9ｍ）を使用した。

基本層序は，１黒色土（砂粒，小石少量）→２明灰褐色土（砂多量，粘土少量）→３黒褐色土→ローム地山の順で，遺構の確認は地表下40㎝のローム地山直上で行った。尚，１，２は５～20㎝と薄い層で整地層である。

### （発掘日誌抄）

３月19日　ジョレンがけにより遺構のプラン確認。全体の写真撮影。

20日　ＳＩ－02，ＳＩ－05掘り下げ開始。ＳＩ－02より石製模造品（勾玉）出土。

22日　ＳＩ－03掘り下げ開始。ＳＩ－03の覆土に粘土が多量含まれる。ＳＩ－05より土製鏡・鉄器等出土。

23・24日　ＳＩ－01掘り下げ開始。

26日　ＳＩ－04Ａ・Ｂ，ＳＩ－06掘り下げ開始。ＳＩ－01～ＳＩ－03のセクション写真撮影。

27日　ＳＩ－01～ＳＩ－03のセクション図作成。ＳＩ－02ベルト除去。

28日　ＳＩ－01ベルト除去。ＳＫ－01・ＳＫ－02掘り下げ，セクション図作成。セクション写真撮影。ＳＩ－08掘り下げ開始。

30日　ＳＩ－01・ＳＩ－02・ＳＫ－02遺物写真撮影，取り上げ。ＳＩ－03粘土層断ち割り。

31日　ＳＩ－01柱穴確認。ＳＩ－08掘り下げ。

4月3日　ＳＩ－05セクションベルト除去。ＳＩ－07，ＳＩ－08掘り下げ。ＳＩ－08で張り出し状土坑確認。

5～7日　ＳＩ－03遺構写真撮影。粘土部分除去。ＳＫ－01遺物平面図後取り上げ。ＳＩ－05遺物出土状態写真撮影。ＳＩ－08張り出し状土坑掘り下げ。

9・10日　ＳＩ－02，ＳＩ－03柱穴セクション図作成，写真撮影。ＳＩ－04Ａ・Ｂセクション図作成。ＳＩ－05柱穴掘り下げ。ＳＩ－06遺物平面図後取り上げ。ＳＩ－08セクション除去。

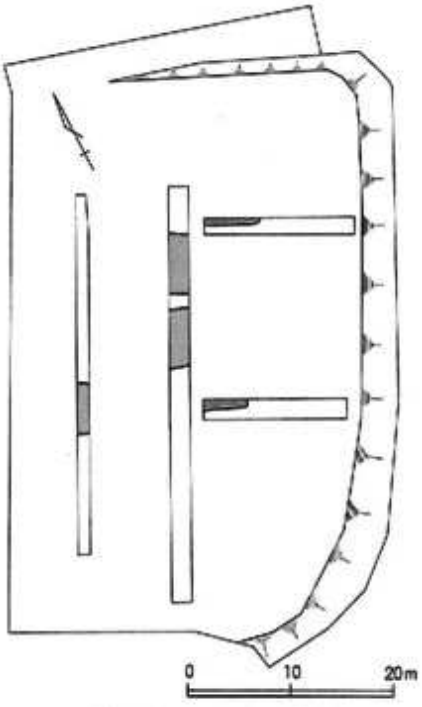
11日　ＳＩ－01貼床除去。ＳＩ－02遺構平面図作成。ＳＩ－08遺物平面図。

12日　ＳＩ－03遺構平面図作成。ＳＩ－04Ａ・Ｂ遺物出土状態写真撮影。ＳＩ－06カマド切開，セクション図作成。写真撮影。ＳＩ－07Ｂ柱穴掘り下げ。ＳＩ－08遺物取り上げ。

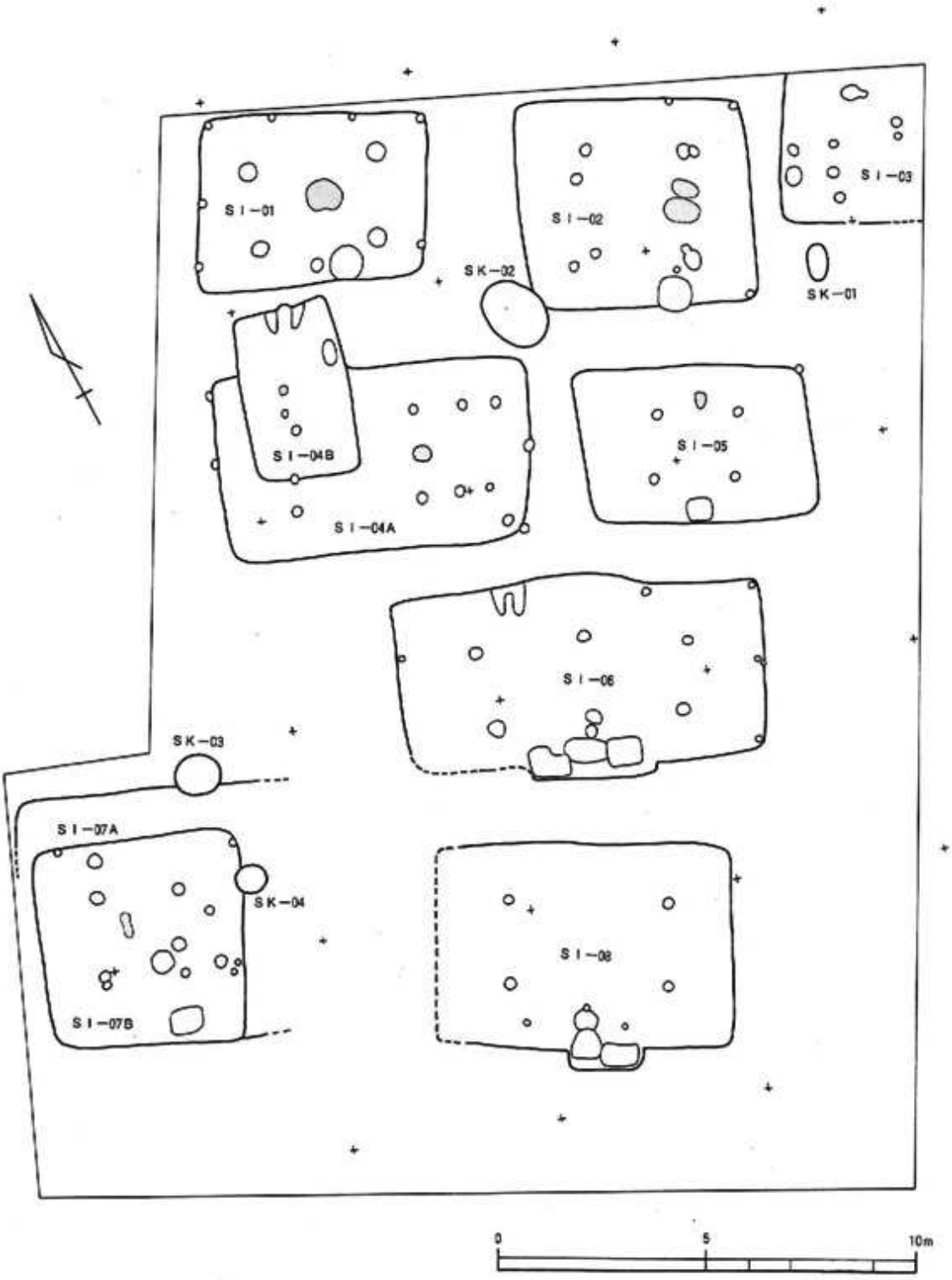
15・16日　ＳＩ－05，ＳＩ－08遺構平面図作成。ＳＩ－07遺物・遺構平面図作成。ＳＩ－04Ａ・Ｂ遺物取り上げ。

17日　ＳＩ－04Ｂカマド平面図，ＳＩ－06遺構平面図作成。

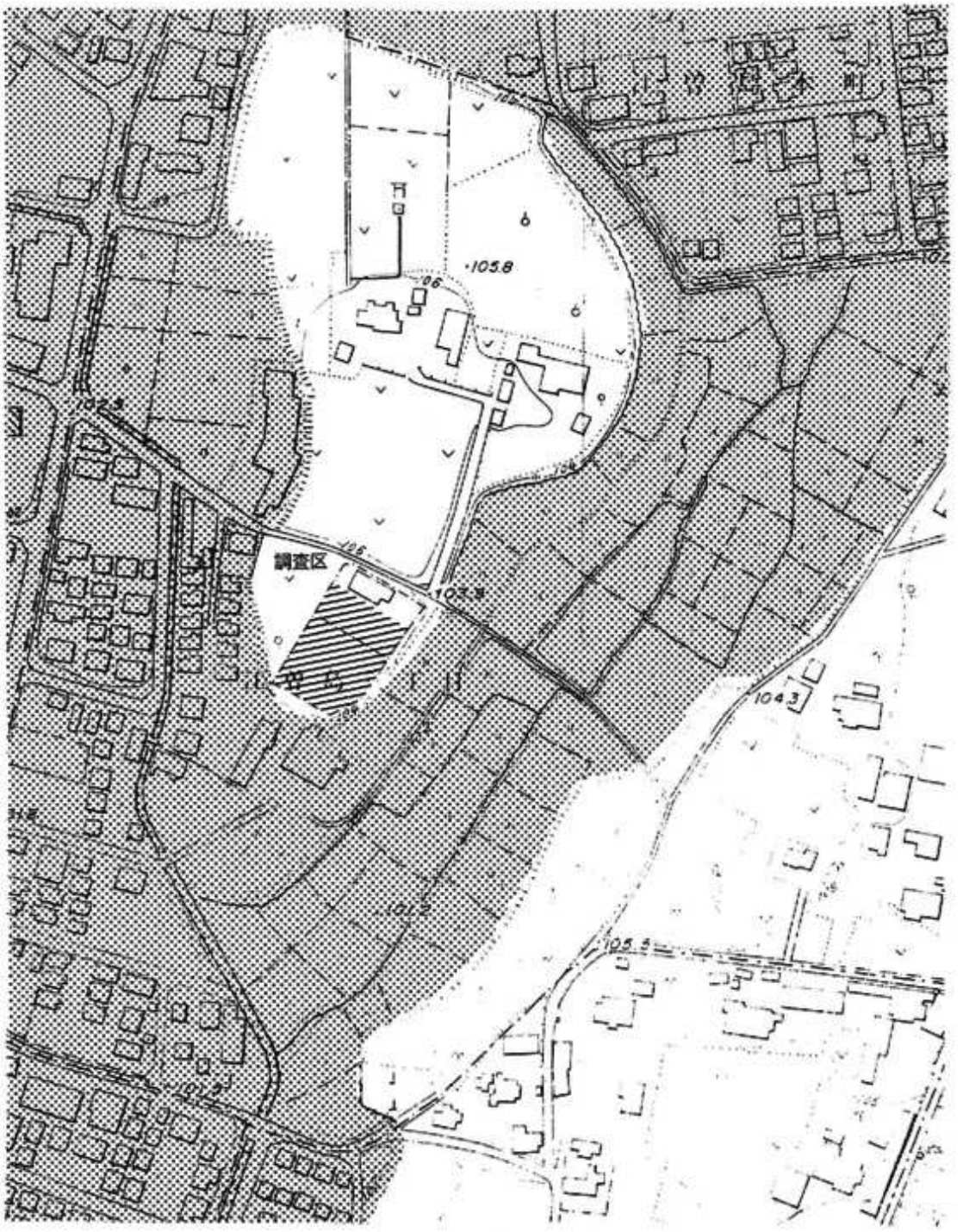
18日　ＳＩ－06貼床部分一部断ち割り。断ち割り部分から勾玉出土。調査終了。器材等撤去。




第１図　トレンチ配置図


SI−01
SI−02
SI−03
SK−01
SK−02
SI−04B
SI−04A
SI−05
SI−06
SK−03
SI−07A
SK−04
SI−07B
SI−08
0
5
10m

第2図　遺構配置図




第３図　地形と調査地区

# Ⅱ　位置と環境

## 1　地理的環境

雷電山遺跡は宇都宮中心街から南南西約４km，東武線江曽島駅から東方約700ｍに位置する。本遺跡の周辺の地形を概観すると，鬼怒川の支流である田川と思川の支流である姿川が南流し，両河川に挟まれた地域に宝木台地と沖積低地が形成されている。本遺跡は，この宝木台地が幾つかの小河川により形成された多数の舌状台地のうちの１つの台地の南端部に位置する。標高約105ｍに立地し沖積地との比高は約３ｍである。東方約1.5kmのところには田川が，西方約1.8kmのところには姿川が南流する。細かに見れば，台地の北側に小さな浸食谷がはいることから，独立しており，その平面形は前方後円形状を呈する。第３図からもわかるように，現在はこの台地西側縁辺まで多数の宅地が立ち並び，当時の面影を残す部分は少なくなっている。今回の調査区域は，台地上の前方部状の東側部分（第３図　部分）である。

## 2　歴史的環境

第４図からもわかるように，田川右岸の宝木台地上には多数の遺跡が存在する。図面中央部がやや空白地帯に見えるが，ここは昭和18年中島飛行機宇都宮製作所がこの地に造られた際に整地作業が行われ幾つかの遺跡が壊されている可能性が考えられる。現在は昭和32年から陸上自衛隊北宇都宮駐屯地として使用されている。以下，時代ごとに周辺遺跡について概観してみる。

**縄文時代**

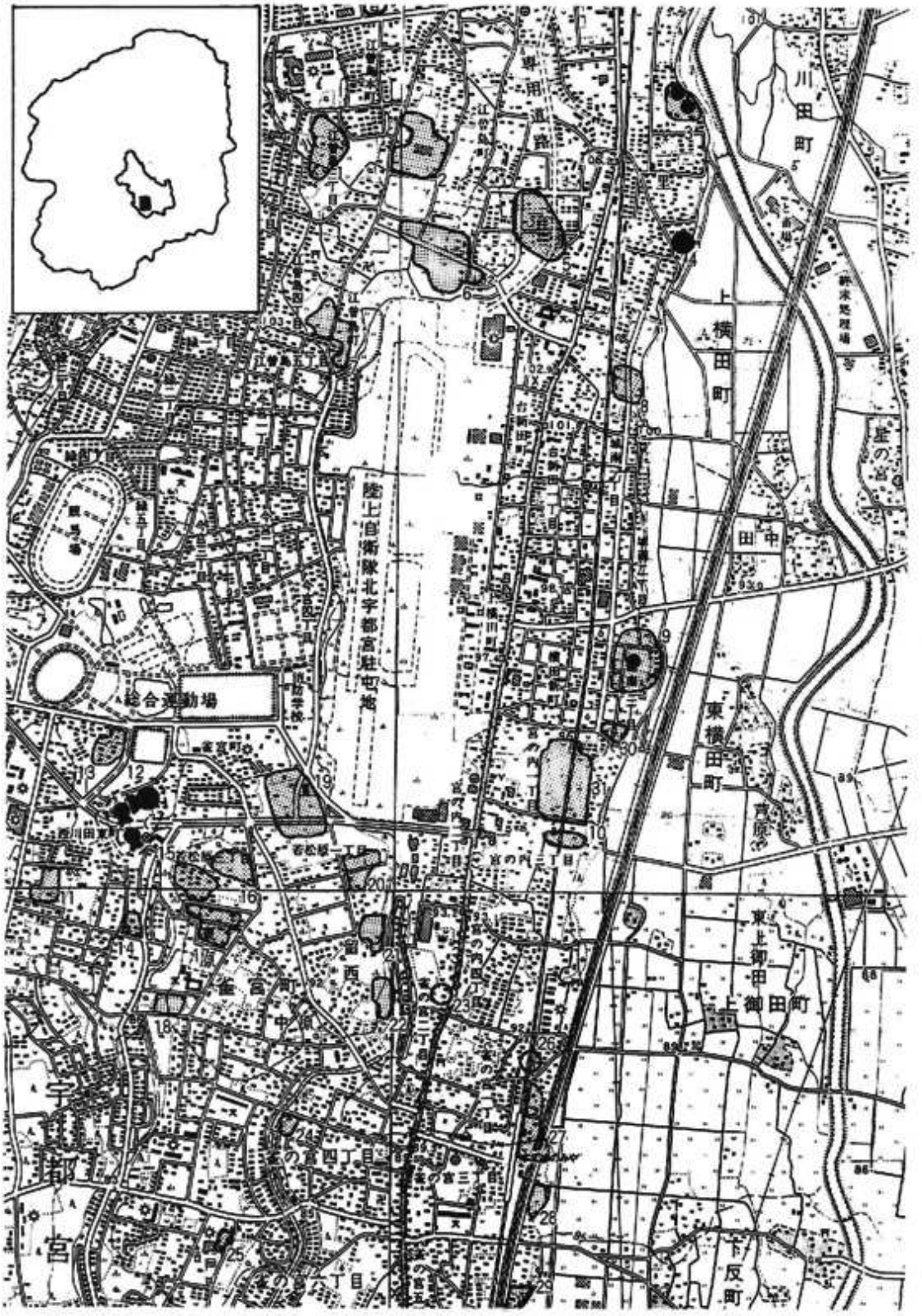
本遺跡周辺においては，旭ケ丘団地北遺跡(11)，旭ケ丘団地遺跡(14)，二軒屋遺跡(15)，若松原遺跡(16)，西原北遺跡(17)が存在する。現在までのところ第４図左下寄りに見られるのみである。11・14と15・16・17は両方ともやや離れているがそれぞれ１つの遺跡に括ることが出来ると考えられる。尚，14と15の間には谷が入り込んでいる。以上５遺跡のうち，二軒屋遺跡(15)は下野考古学研究会の手によって発掘調査が行われ，縄文時代中期の袋状土坑等が確認されている。

**弥生時代**

弥生時代の遺跡としては，縄文時代と同様二軒屋遺跡(15)，若松原遺跡(16)，西原北遺跡(17)が挙げられる。先にも述べたように，15～17は一つの遺跡と考えられ，かなり大規模な弥生時代の遺跡と考えられる。特に二軒屋遺跡(15)は栃木県弥生時代後期の標式遺跡となっている。しかし，昭和13年の寺内武夫，篠崎善之助両氏による発掘調査以来，良好な資料は増えておらず，未だこの遺跡の全体像は見えてこない。

**古墳時代**

第１表からもわかるようにかなり古墳時代の遺跡が多い地域である。まず，古墳についてみて




第4図　周辺遺跡分布図（1：25000）

| No | 遺　跡　名 | 所　在　地 | 種　別 | 時　期 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 雷電山遺跡 | 江曽島３丁目 | 集落跡・古墳 | 古墳・中世 | |
| 2 | 並松遺跡 | 江曽島町1057他 | 集落跡 | 古墳～平安 | |
| 3 | 台内手遺跡 | 江曽島町1277他 | 集落跡・古墳 | 古墳～平安 | 円墳２基 |
| 4 | 大山祇神社古墳 | 上横田707他 | 古　墳 | 古　墳 | 円墳（径30ｍ） |
| 5 | 江曽島北遺跡 | 江曽島町1324他 | 集落跡 | 古墳～平安 | |
| 6 | 関道遺跡 | 江曽島町1152他 | 集落跡 | 古墳～奈良 | 昭和61年調査 |
| 7 | おしめ尽遺跡 | 江曽島町124他 | 集落跡 | 古墳～平安 | |
| 8 | 大房林遺跡 | 上横田町824-4 | 集落跡 | 古墳～平安 | |
| 9 | 城南３丁目遺跡 | 城南３丁目 | 古墳・集落跡 | 古墳～中世 | 古墳２基，平成５年調査 |
| 10 | 宮の内Ａ・Ｂ遺跡 | 宮の内・上横田 | 集落跡 | 奈良・平安 | 平成３年度調査 |
| 11 | 旭ケ丘団地北遺跡 | 丘庫塚町309-3 | 集落跡 | 縄　文 | |
| 12 | 塚山古墳群 | 丘庫塚町663-1 | 古墳群 | 古　墳 | 前方後円墳３基，円墳５基 |
| 13 | 塚山北遺跡 | 丘庫塚町1807-5 | 集落跡 | | |
| 14 | 旭ケ丘団地遺跡 | 丘庫塚町164-28 | 集落跡 | 縄　文 | |
| 15 | 二軒屋遺跡 | 雀宮町1117-5他 | 集落跡 | 縄文～古墳 | |
| 16 | 若松原遺跡 | 雀宮町1118-1他 | 集落跡 | 縄文～古墳 | |
| 17 | 西原北遺跡 | 雀宮町1115-2他 | 集落跡 | 縄文～古墳 | |
| 18 | 若松原南遺跡 | 雀宮町1109-1他 | 集落跡 | 古　墳 | |
| 19 | 北若松原遺跡 | 北若松原1-1665 | 集落跡 | 古　墳 | 平成３年・５年調査 |
| 20 | 一向寺別院遺跡 | 雀宮町1665-3他 | 集落跡 | 古　墳 | |
| 21 | 溜西遺跡 | 雀宮町1080-43 | 集落跡 | 古　墳 | |
| 22 | 溜西南遺跡 | 雀宮町1072-1 | 集落跡 | 古　墳 | |
| 23 | 十里木古墳 | 雀宮226-1他 | 古　墳 | 古　墳 | 消滅（前方後円墳？） |
| 24 | 雀の宮四丁目遺跡 | 雀の宮４丁目 | 集落跡 | | |
| 25 | 大谷田遺跡 | 雀宮町986-60 | 集落跡 | | |
| 26 | 綾女塚古墳 | 雀宮125-18他 | 古　墳 | 古　墳 | 消滅（前方後円墳） |
| 27 | 雀宮東浦遺跡 | 雀宮町329-13他 | 散布地 | 奈良・平安 | |
| 28 | 雀宮駅東遺跡 | 雀宮町401-2他 | 集落跡 | 奈良・平安 | |
| 29 | 牛塚東遺跡 | 雀宮町438-1他 | 集落跡 | 古墳～中世 | 平成２年調査 |
| 30 | 城南３丁目南遺跡 | 城南３丁目 | 集落跡 | | 平成５年調査 |
| 31 | 宮の内１丁目遺跡 | 宮の内１丁目 | 古墳・集落跡 | 古墳～中世 | 平成５年度調査 |

第１表　周辺遺跡一覧表

みる。本遺跡も以前大和久震平氏によって大形の前方後円墳との指摘があった。確かに第3図を見ると前方後円墳が崩れたような形をし，これから彷製獣形鏡をはじめ4面の鏡と勾玉，鏡，楯，斧等の石製模造品が出土したとのことなどから，古墳との見解が出されたのも無理はない。しかし，今回の調査により，その前方部と考えられる部分からやや時期は下るものの，ほぼ同時代の集落跡が確認されたことから，少なくともこの台地全部が古墳であるとの見解は否定された。ただし，その出土遺物の内容からすると，この独立した台地の何処かにもっと規模の小さな古墳が存在した可能性は考えられる。この他の古墳については，田川沿いの宝木台地縁辺に円墳のみで構成される古墳群が点在するのに対し，雷電山遺跡南方約2.5kmのところに塚山古墳群が存在する。この古墳群は，全長約100mの前方後円墳が1基と帆立貝式前方後円墳が2基の他多数の円墳で構成されている。この塚山古墳は，この時期の古墳としては県内最大級である。この古墳群はほぼ5世紀後半から6世紀初頭にかけての古墳群と考えられていることから，古墳群の存続時期と雷電山遺跡の存続時期とは一部重なると考えられる。

この時代の集落跡も第1表からもわかるように多数存在する。

**奈良・平安時代**

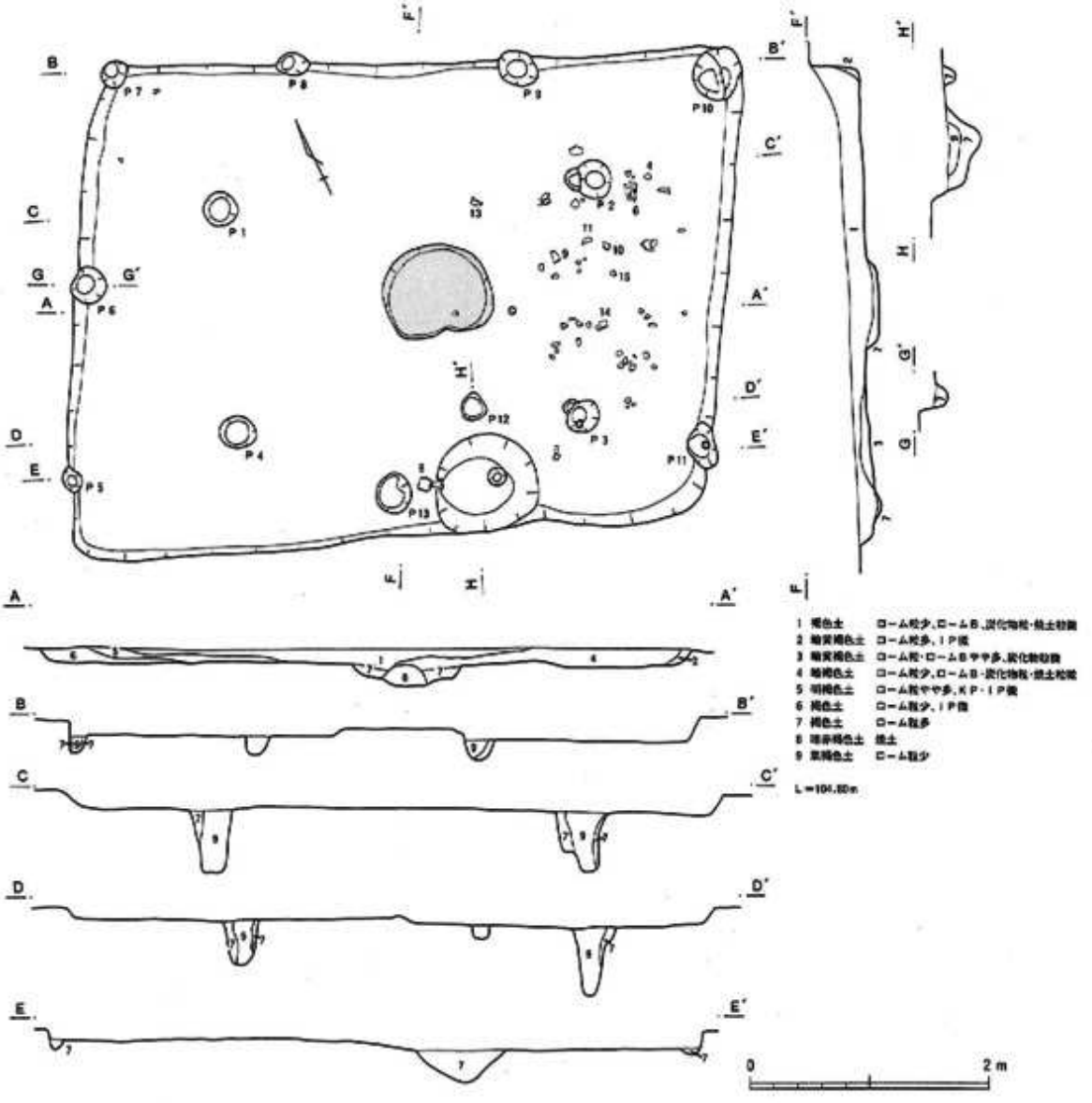
分布図内でのこの時代の集落跡は大きく2グループに分けられる。雷電山遺跡の周辺にある江曽島北遺跡(5)，関道遺跡(6)，おしめ尽遺跡(7)等の台地内の小河川流域に立地するグループと，田川の右岸台地縁辺上に立地する大房林遺跡(8)，城南3丁目遺跡(9)，宮の内1丁目遺跡(31)，雀宮東浦遺跡(27)，牛塚東遺跡(29)等である。後者は飛び飛びに立地しており，もう少し細かく分かれる。具体的には，8で1つ，9・10・30・31で1つ，27～29で1つの集落範囲と考えることができる。尚，城南3丁目遺跡(9)や牛塚東遺跡(29) のように中世まで続く遺跡がこの田川右岸台地縁辺に見られることは注目される。

# Ⅲ　調査結果

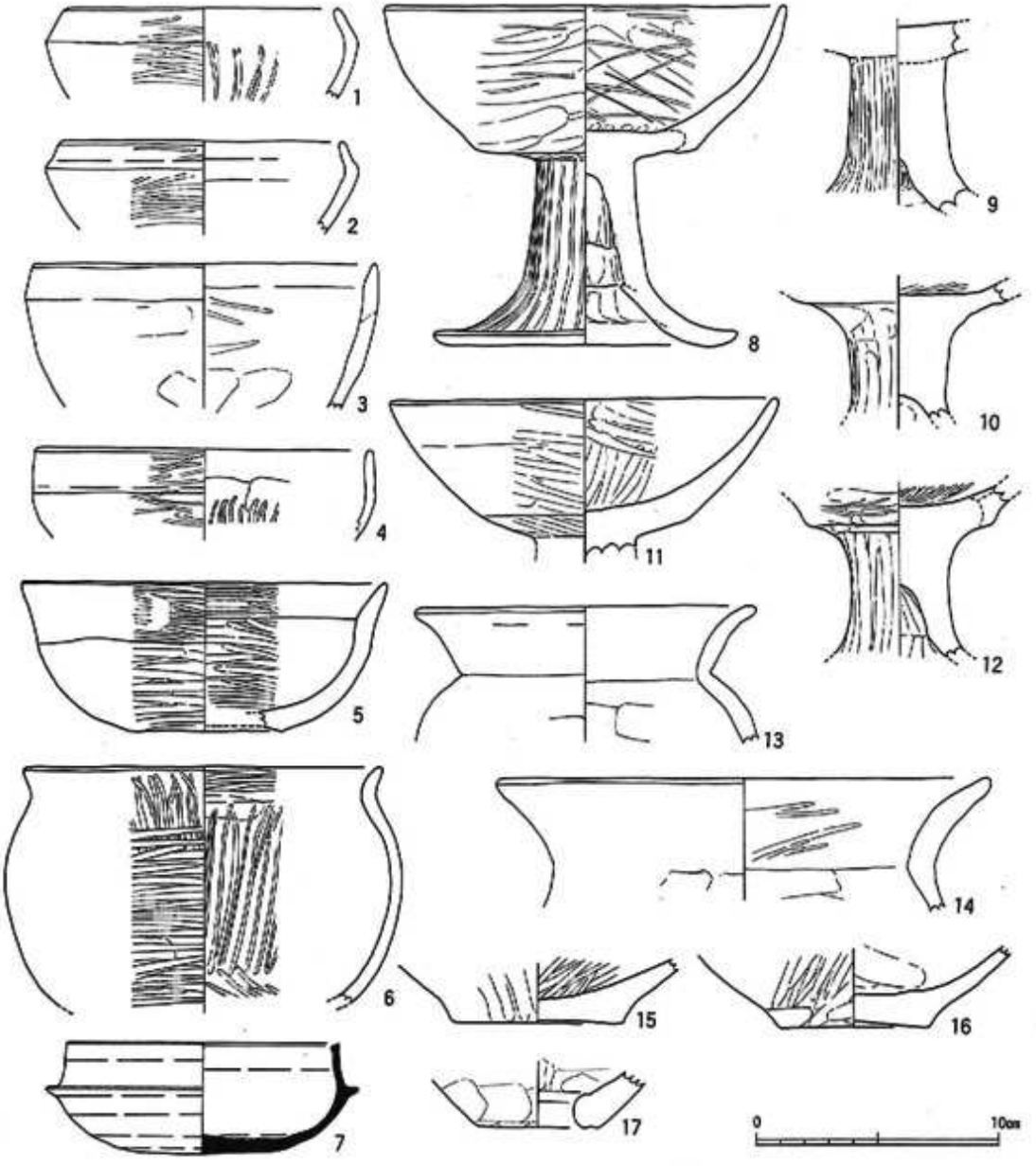
## 1　竪穴住居跡

竪穴住居跡は10軒確認できた。全体図からわかるように，各住居跡の主軸をほぼ同じくし，整然と配置されている様子が窺える。また，平面形が長方形のものが多いのも特異である。

以下，各住居跡毎に従い遺構と遺物の内容を記述する。




第5図　ＳＩ－01平・断面図




第6図　ＳＩ－01出土遺物実測図

ＳＩ－01

位置　調査区北西端　平面形　西壁に較べ東壁がやや短いが概ね東西方向に長い長方形　規模　東西5.4m×南北3.9m　主軸方向　N－25°－E　床面　黒色土混じりのやや軟弱な床，貼床を剝がすと凸凹な掘り方が確認できた。　壁　壁高は10cmほどであるが，やや傾斜をもって立ち上がる。　柱穴　主柱穴は４本（Ｐ１～４），壁柱穴が７本（Ｐ５～11）のほか２本のピット（Ｐ12・13）が確認できた。この内，Ｐ12は出入り口施設に関係したピットの可能性が考えられる。主柱穴間の心々距離は北側の方がやや長い。各柱穴は深さは，Ｐ１・Ｐ２が50cm，Ｐ３が55cm，Ｐ４

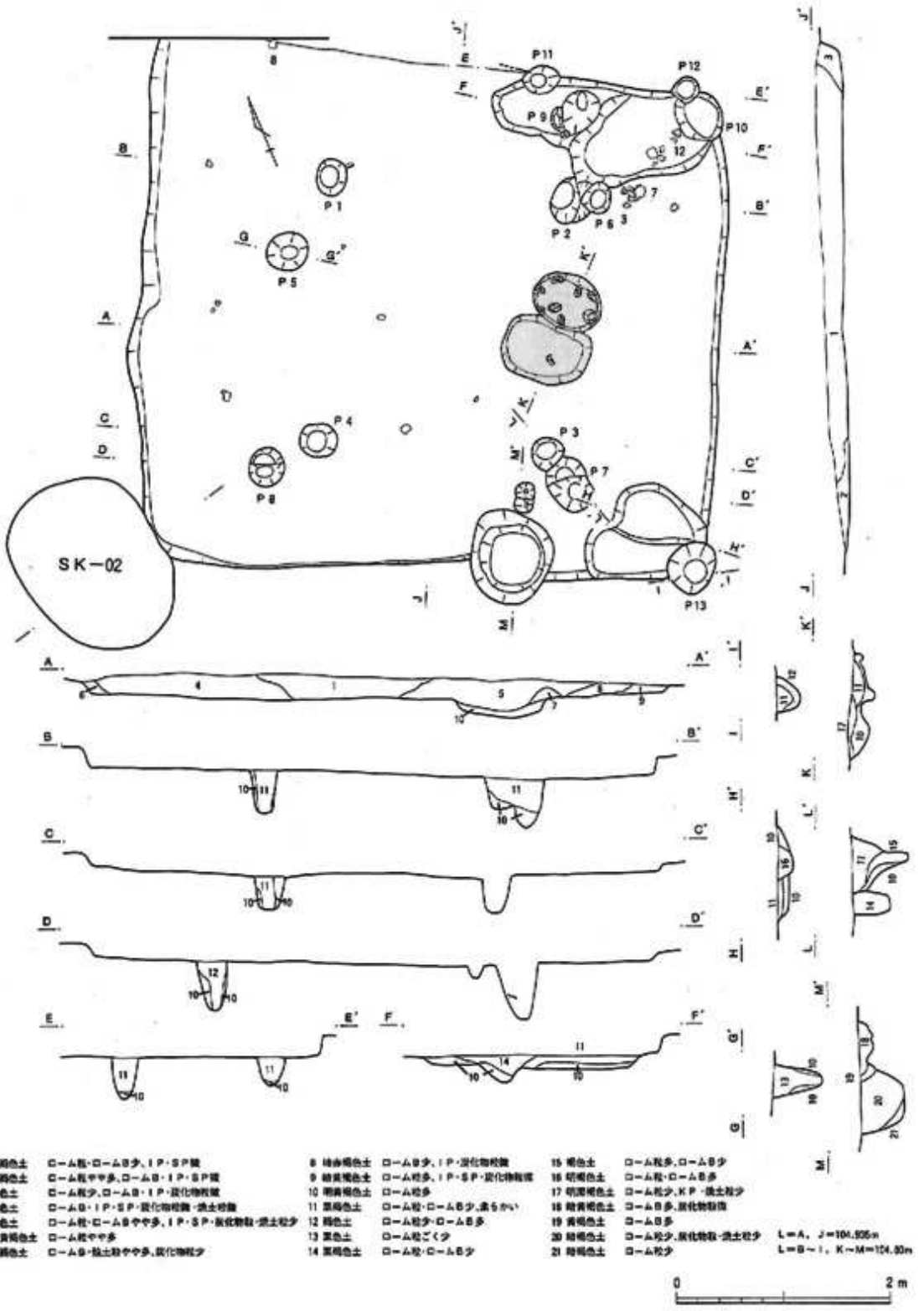
| No | 器種 | 寸法(cm) 口径 | 器高 | 底径 | 形態分類 | 成・整形手法分類 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 出土状態 | 残存量 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 坏(H) | 11.0 | − | − | C | a 1 | 長石，輝石 | 良好 | 赤褐色 | 覆土 | 1/10 | |
| 2 | 坏(H) | 11.5 | − | − | C | e | 長石，石英，小石 | 良好 | 赤褐色 | 覆土 | 1/10 | |
| 3 | 鉢(H) | 14.2 | − | − | D | | 長石 | 普通 | 淡褐色 | 覆土 | 1/8 | |
| 4 | 坏(H) | 13.7 | − | − | B | a 1 | 石英，輝石，赤色スコリア粒 | 良好 | 暗赤褐色 | 覆土 | 1/10 | |
| 5 | 坏(H) | 15.0 | 6.1 | − | A 1 | d 2 | 黒色粒 | 良好 | 橙褐色 | 覆土 | 1/5 | |
| 6 | 鉢(H) | 14.8 | − | − | C | b 1 | 石英，白色粒 | 良好 | 暗褐色 | 覆土 | 1/5 | 外面煤付着 |
| 7 | 坏(S) | 11.2 | 4.6 | − | | | 白色粒 | 良好 | 青灰色 | 覆土 | 1/2 | |
| 8 | 高坏(H) | 16.6 | 13.9 | 12.6 | A 1 | a 3 | 雲母，輝石，赤色スコリア粒 | 良好 | 赤褐色 | 覆土 | 2/5 | |
| 9 | 高坏(H) | − | − | − | C | | 輝石 | 普通 | 暗赤褐色 | 覆土 | 1/5 | |
| 10 | 高坏(H) | − | − | − | C | | 石英，輝石，小石 | 普通 | 淡褐色 | 覆土 | 1/5 | |
| 11 | 高坏(H) | 16.0 | − | − | A | a 3 | 輝石，白色粒 | 普通 | 赤褐色 | 覆土 | 1/5 | |
| 12 | 高坏(H) | − | − | − | A | a 1 | 石英，輝石 | 普通 | 淡褐色 | 覆土 | 1/5 | |
| 13 | 甕(H) | 14.0 | − | − | A | a | 小砂粒 | 良好 | 暗赤褐色 | 覆土 | 1/20 | |
| 14 | 甕(H) | 20.4 | − | − | A | | | 良好 | 暗褐色 | 覆土 | 1/20 | |
| 15 | 甕(H) | − | − | 7.0 | | | 輝石，赤色スコリア粒，小石 | 普通 | 褐色 | 覆土 | 1/32 | 内面1部剥落 |
| 16 | 甕(H) | − | − | 6.2 | | | 小礫粒，輝石 | 普通 | 暗褐色 | 覆土 | 1/32 | 外面煤付着 |
| 17 | 甑(H) | − | − | 5.0 | A | | 石英，輝石 | 良好 | 黒褐色 | 床面 | 破片 | 単孔（径3cm） |

第2表・ＳＩ−01土器観察表

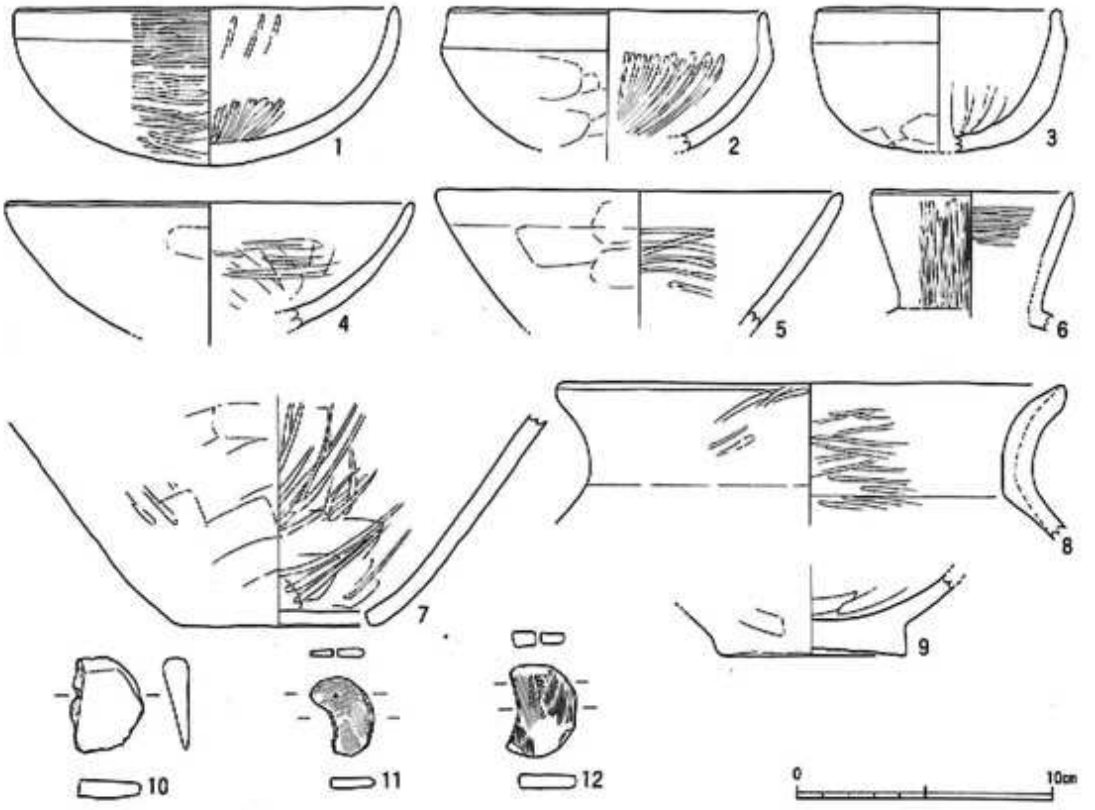
が40cm，Ｐ５〜11が10〜15cm，Ｐ12が10cm，Ｐ13が８cmである。　**貯蔵穴**　南壁の中央やや東寄りにある。径80cmのやや歪んだ円形である。深さは深いところでも25cmほどである。　**炉**　ほぼ中央にある。長軸90cm，短軸70cmの楕円形で，深さ17cmほどに掘り窪められ，中央に焼土の塊が残る。　**覆土の状況**　自然埋没　**遺物**　実測可能な遺物は土師器坏４点，鉢２点，甕５点，甑１点，須恵器坏身１点が出土した。遺物の出土状態は，面的には住居跡の東半分に偏り，床直は17だけであるが，１〜３，５，７，12，16以外は下層出土である。

ＳＩ−02

**位置**　調査区北中央　**平面形**　北壁が調査区外に一部かかってしまいはっきりしない部分もあるが，西壁に較べ東壁がやや短い東西方向に長い長方形　**規模**　東西5.4ｍ×南北4.6ｍ　**主軸方向**　Ｎ−21°−Ｅ　**床面**　黒色土混じりのやや軟弱な床。　**壁**　壁高は北側と西側が20cmほどであるが，南側と東側は10cm以下と浅く，やや傾斜をもって立ち上がる。　**柱穴**　主柱穴は４本２組が考えられる。具体的には(Ｐ１〜４)と(Ｐ５〜８)で，Ｐ３とＰ７の切り合い関係から便宜上前者をＩ期，後者をⅡ期とする。Ⅰ期主柱穴は内側に位置し，床面からの深さはＰ１が40cmと深い他はＰ２〜４が約30cmとやや浅目であるのに対し，Ⅱ期主柱穴は外側に位置し，床面からの深さはＰ５〜８の４本とも45〜50cmと深い。壁柱穴も２期想定され，住居廃絶時(Ⅱ期)における壁柱穴はＰ11〜13であるが，Ｐ10との切り合い関係から，より古い段階(Ⅰ期)の壁柱穴と考えられ，それとほぼ同様の大きさのＰ９もその可能性が考えられる。この他，Ｐ14は出入り口施設に関係したピットの可能性が考えられる。主柱穴間の心々距離は，Ⅰ期としたＰ１−Ｐ２が2.2ｍ，Ｐ




第7図　S I −02平・断面図




第８図　ＳＩ－02出土遺物実測図

| No | 器種 | 寸法（cm） | | | 形態分類 | 成・整形手法分類 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 出土状態 | 残存量 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 口径 | 器高 | 底径 | | | | | | | | |
| 1 | 坏(H) | 15.0 | 6.1 | － | B 2 | b 1 | 石英，輝石，砂粒 | 良好 | 褐色 | 覆土 | 4/5 | |
| 2 | 坏(H) | 12.3 | － | － | C | a 4 | 石英，輝石，砂粒 | 普通 | 外褐色，内淡褐色 | 覆土 | 1/6 | |
| 3 | 鉢(H) | 9.6 | 5.6 | － | D | | 砂粒・白色粒やや多 | 普通 | 灰色 | 覆土 | 1/5 | |
| 4 | 高坏(H) | 15.9 | － | － | | | | 普通 | 褐色 | 覆土 | 1/6 | |
| 5 | 鉢(H) | 16.0 | － | － | D | | 石英・輝石多 | 普通 | 淡褐色 | 覆土 | 1/8 | |
| 6 | 坩(H) | 5.9 | － | － | | | 石英，輝石 | 普通 | 褐色 | 覆土 | 1/10 | |
| 7 | 甑(H) | 8.0 | － | － | A | a | 石英，輝石，砂粒 | 普通 | 褐色 | 覆土 | 1/16 | 外面一部煤付着 |
| 8 | 甕(H) | 20.0 | － | － | B | b 1 | 石英，輝石 | 良好 | 暗褐色 | 覆土 | 破片 | 外面黒色物付着 |
| 9 | 甕(H) | － | － | 7.3 | | | 石英，輝石 | 良好 | 暗褐色 | 覆土 | 1/32 | No 8 と同一個体 |

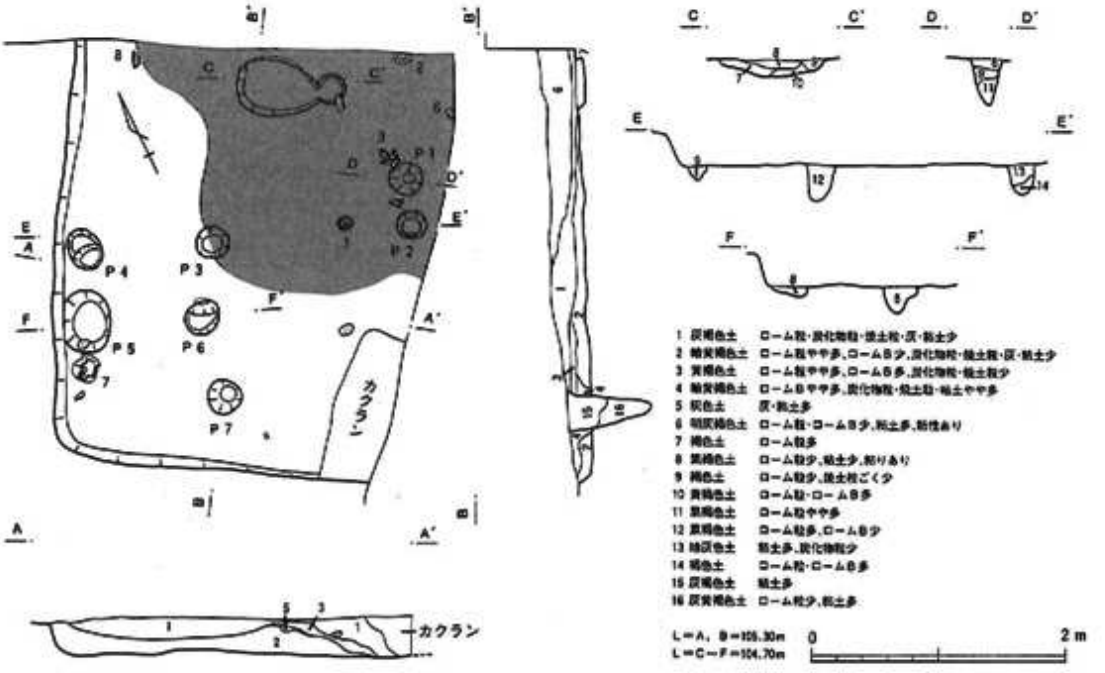
第３表　ＳＩ－02土器観察表

３－Ｐ４が2.1m，Ⅱ期としたＰ５－Ｐ６とＰ７－Ｐ８とも2.9mである。　**貯蔵穴**　南壁の中央やや東寄りにあり，南壁から若干張り出して設置されている。長軸90cm，短軸77cmのやや不整な方形である。深さは40cmである。　**炉**　住居跡東寄りで，東側主柱穴間のほぼ中央に位置する。これも主柱穴同様２期考えられ，その切り合い関係から北側が古く，南側が新しい。それぞれの規模は，北側が長軸65cm，短軸50cmの楕円形でさらに小さな穴が８か所掘られている。南側が長軸72cm，短軸55cmの楕円形である。焼土は６層に少量であるが見られる。　**覆土の状況**　自然埋没　**遺物**　実測可能な遺物は，土師器坏２点，鉢２点，甕２点，小形壺(坩)１点，高坏１点，甑

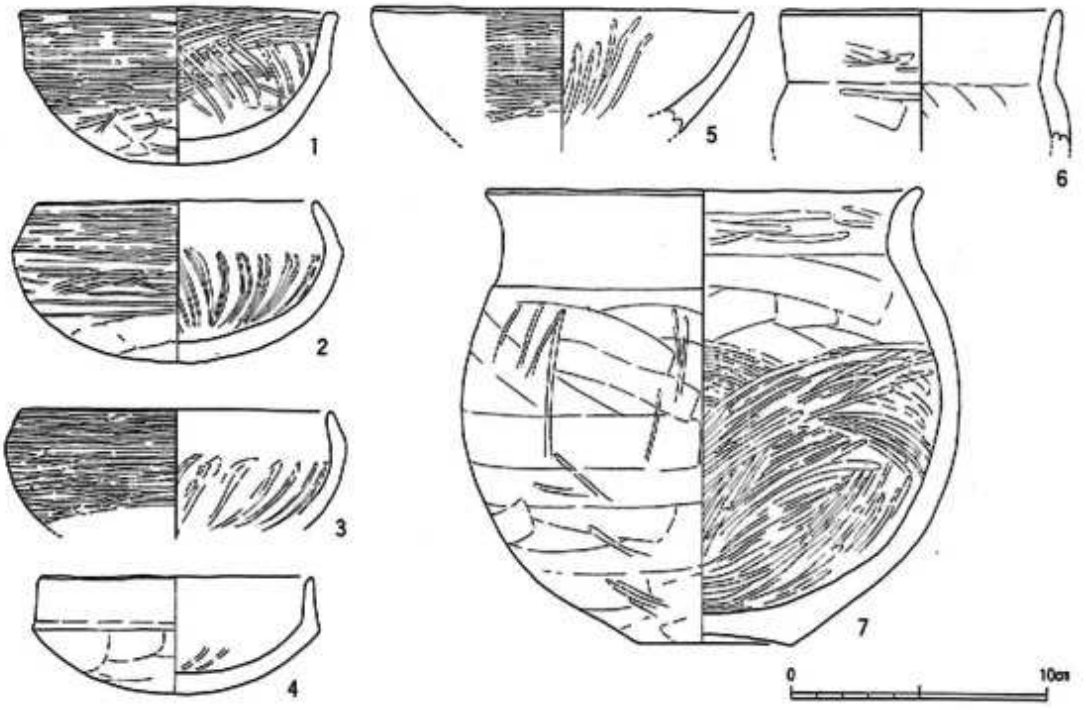
1点，砥石(泥岩)1点，滑石製模造品勾玉(緑色片岩)2点が出土した。遺物の出土状態は，遺物量自体が少なく散在して出土している。図示したものを含めほとんどが上層出土のもので，下層からは10の砥石と11・12の石製模造品と3，7，8の土器だけである。

SI－03

**位置**　調査区北東隅　**平面形**　北壁と東壁が調査区外及び後世の攪乱により不明である。　**規模**　不明　**主軸方向**　N－23°－E　**床面**　黒色土混じりのやや軟弱な床。　**壁**　壁高は西側が30cmであるが，南側は10cmと浅く，両方ともやや傾斜をもって立ち上がる。　**柱穴**　全体像がわからないため，はっきりとは言えないが，P1～3が主柱穴の可能性が考えられる。尚，P7は切り合い関係から新しい。床面からの深さは，P1が37cm，P2が25cmである。　**貯蔵穴**　確認できなかった。　**炉**　調査区北壁寄りに不整形な浅目の掘り込みが確認でき，層に焼土を少量混入するが，炉と断定するまでには至らない。　**覆土の状況**　人為的な埋土。2の暗黄褐色層の上に，粘土を多量に含む1・8層が載る。　**遺物**　実測可能な遺物は，土師器坏4点，鉢1点，甕2点，高坏1点が出土した。遺物の出土状態は，遺物量は少ないが完形に近いものが多い。3が床直で，7が2層出土のほかは，1・2・6は6層中に含まれる。




第9図　SI－03平・断面図



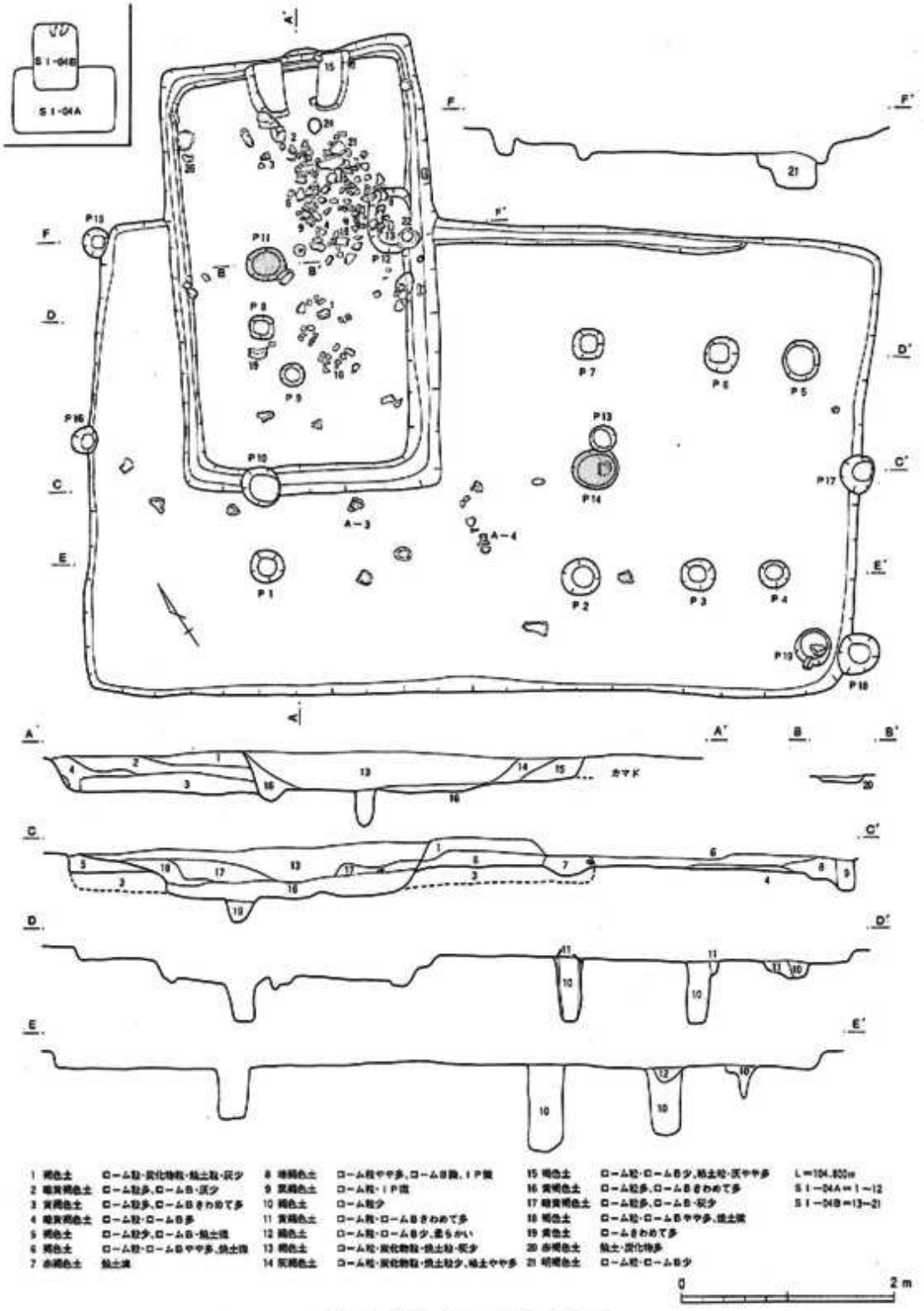

第10図　ＳＩ－03出土遺物実測図

| No | 器種 | 寸法（cm） | | | 形態分類 | 成・整形手法分類 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 出土状態 | 残存量 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 口径 | 器高 | 底径 | | | | | | | | |
| 1 | 坏(H) | 12.5 | 6.1 | － | E | f | 石英，赤色スコリア粒 | 良好 | 外淡褐色，内赤褐色 | 覆土 | 完形 | |
| 2 | 坏(H) | 11.0 | 6.3 | － | D | a 1 | 石英，赤色スコリア粒 | 普通 | 赤褐色 | 覆土 | 4/5 | |
| 3 | 坏(H) | 12.2 | － | － | C | a 1 | 石英，赤色スコリア粒 | 良好 | 赤褐色 | 床面 | 2/3 | |
| 4 | 坏(H) | 10.8 | 4.1 | － | E | a 4 | 赤色スコリア粒多 | 普通 | 褐色 | 覆土 | 1/4 | |
| 5 | 高坏(H) | 15.0 | － | － | | a 1 | 石英，砂粒 | 良好 | 暗褐色 | 覆土 | 1/8 | |
| 6 | 鉢(H) | 11.0 | － | － | B | | 石英，輝石，砂粒 | 良好 | 乳白色 | 覆土 | 1/12 | |
| 7 | 甕(H) | 17.1 | 17.7 | 6.1 | B | | 石英，輝石，砂粒 | 良好 | 赤褐色 | 覆土 | 4/5 | 外面煤付着 |

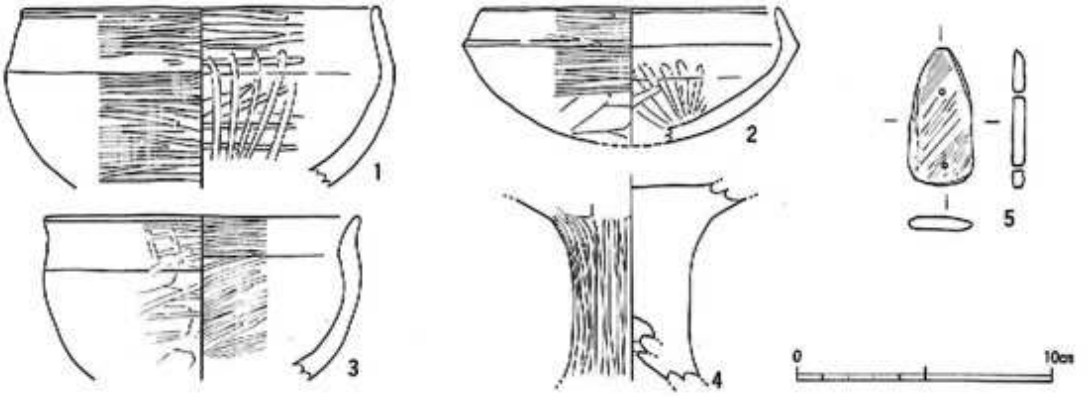
第４表　ＳＩ－03土器観察表

ＳＩ－04Ａ

**位置**　ＳＩ－01南壁に近接　**平面形**　東西方向に長い長方形。　**切り合い関係**　ＳＩ－04Ｂに切られる。　**規模**　東西7.0ｍ×南北4.2ｍ。　**主軸方向**　Ｎ－26°－Ｅ　**床面**　西2/3が黒色土混じりの貼床で，それ以外はローム地山の床面である。　**壁**　壁高は10cmと浅く，ほぼ垂直に立ち上がる。　**柱穴**　Ｐ１～３・Ｐ６～８の６本が主柱穴，Ｐ４・Ｐ５は浅く補助的な柱と考えられる。Ｐ15～18は壁柱穴である。　**炉**　中央東寄り（Ｐ14）に円形のものが１つ。　**覆土の状況**　自然埋没。　**遺物**　実測可能な遺物は，土師器坏３点，高坏１点，滑石製模造品剣形（緑色片岩）１点が出土した。



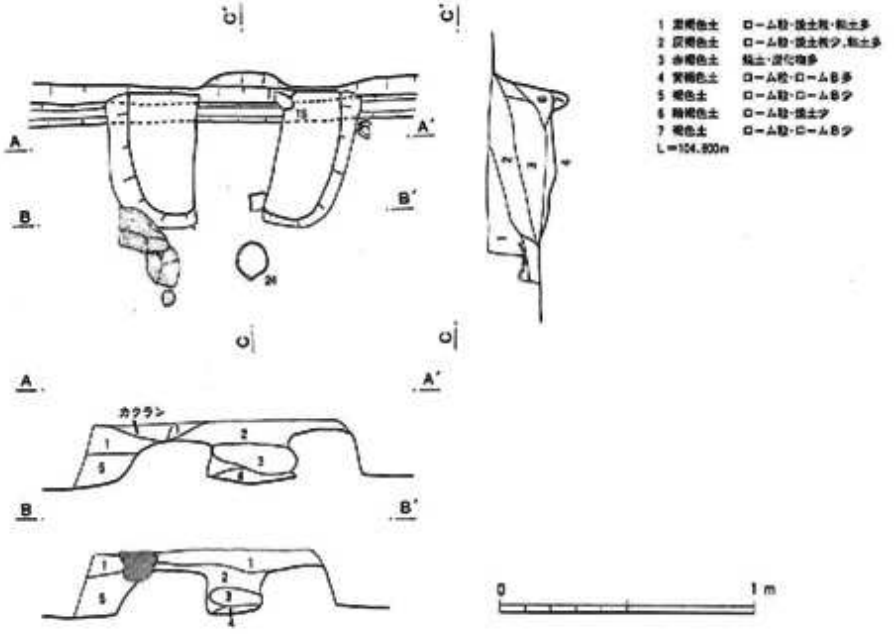

第11図　ＳＩ－04Ａ・Ｂ平・断面図



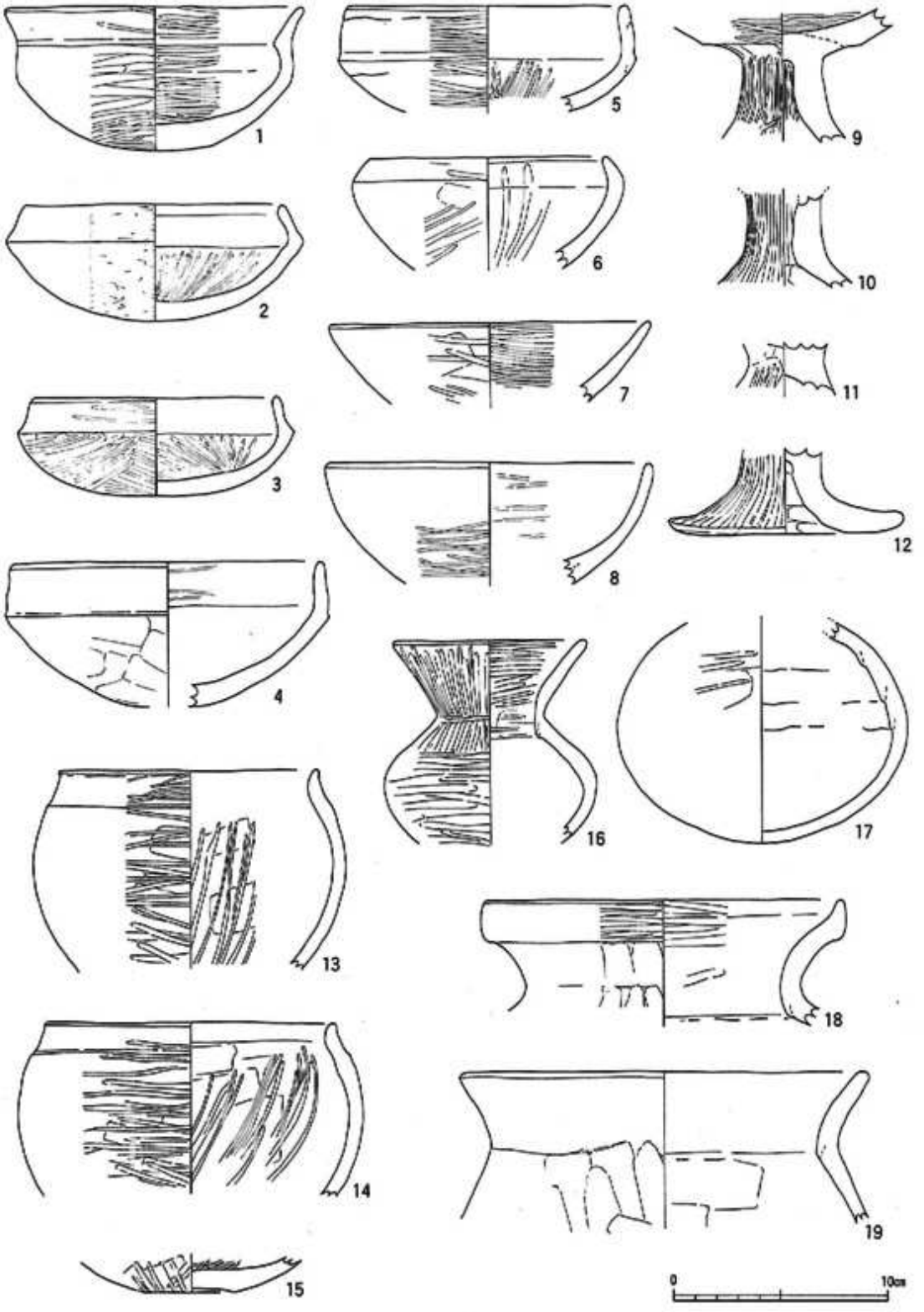

第12図　ＳＩ－04Ａ出土遺物実測図

| No | 器種 | 寸法 (cm) 口径 | 器高 | 底径 | 形態分類 | 成・整形手法分類 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 出土状態 | 残存量 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A1 | 坏(H) | 14.0 | － | － | C | | やや密，白色粒，小石 | 普通 | 内褐色，外黒褐色 | 覆土 | 1/4 | 外面漆仕上げ |
| A2 | 坏(H) | 11.6 | － | － | C | a 1 | 石英，輝石，赤色スコリア | 普通 | 橙褐色 | 覆土 | 1/3 | |
| A3 | 坏(H) | 12.2 | － | － | A | d 2 | 石英，輝石，赤色スコリア | 良好 | 褐色 | 覆土 | 1/10 | |
| A4 | 高坏(H) | － | － | － | C | | 石英，輝石，小石 | 普通 | 淡褐色 | 覆土 | 1/3 | |

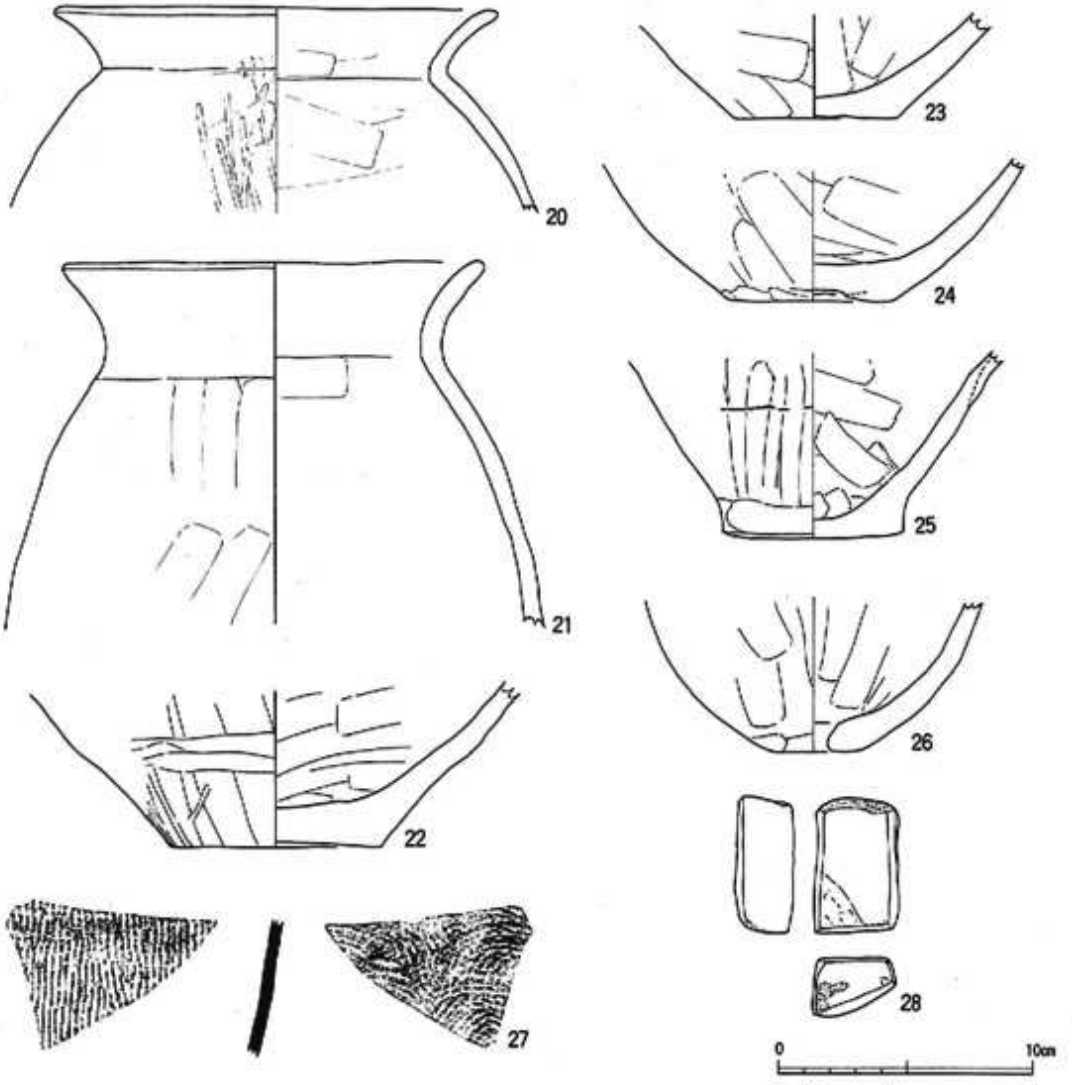
第５表　ＳＩ－04Ａ土器観察表




第13図　ＳＩ－04Ｂカマド平・断面図




第14図　ＳＩ－04Ｂ出土遺物実測図(1)




第15図　ＳＩ－04Ｂ出土遺物実測図(2)

ＳＩ－04Ｂ

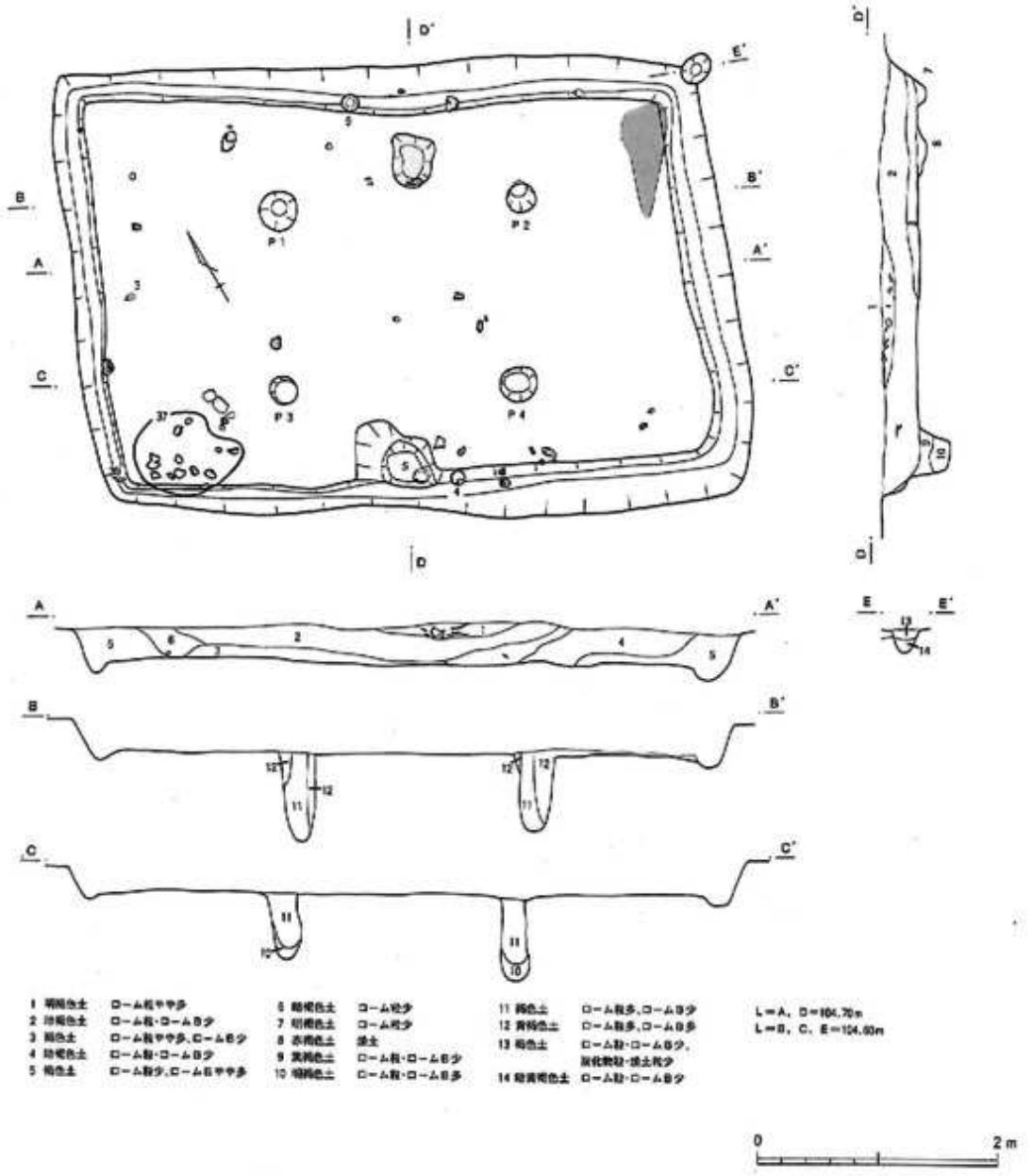
**位置**　ＳＩ－01南側に近接　**平面形**　南北方向に長い長方形。　**切り合い関係**　ＳＩ－04Ａを切る。　**規模**　東西2.45ｍ×南北4.0ｍ。　**主軸方向**　Ｎ－28°－Ｅ　**床面**　ローム地山の硬い床面である。　**壁**　壁高30cmとやや深めで，ほぼ垂直に立ち上がる。　**柱穴**　Ｐ９の１本のみである。　**貯蔵穴**　Ｐ12が貯蔵穴の可能性が考えられる。　**炉**　Ｐ11が焼土が多いことから炉の可能性がある。　**カマド**　北側中央に位置する。粘土混じりの土で袖を作り，焚き口部分の補強材に使ったものと思われる凝灰岩が西袖の上に載って出土している。　**覆土の状況**　自然埋没。　**遺物**　実測可能な遺物は，土師器坏６点，甕７点，高坏６点，鉢３点，坩２点，壺１点，甑１点，砥石１点が出土している。遺物の出土状態は，１が床直の他は，ほとんどが一括投棄された状態で出土した。

| No | 器種 | 寸法(cm) 口径 | 器高 | 底径 | 形態分類 | 成・整形手法分類 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 出土状態 | 残存量 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 坏(H) | 14.0 | 6.6 | − | A 2 | d 2 | 石英，赤色スコリア粒 | 普通 | 暗褐色 | 床面 | 3/5 | |
| 2 | 坏(H) | 12.0 | 5.4 | − | D | a 1 | 石英，輝石，赤色スコリア | 良好 | 暗褐色 | 覆土 | 4/5 | |
| 3 | 坏(H) | 11.4 | 4.6 | − | D | a 1 | 石英，輝石 | 良好 | 暗赤褐色 | 覆土 | 3/7 | |
| 4 | 坏(H) | 14.4 | 6.7 | − | E | | 砂粒，赤色スコリア粒 | 普通 | 暗褐色 | 覆土 | 1/8 | 内面に付着物 |
| 5 | 坏(H) | 13.0 | − | − | E | a 1 | 輝石 | 良好 | 暗褐色 | 覆土 | 1/10 | |
| 6 | 坏(H) | 11.0 | − | − | C | b 1 | 輝石，赤色スコリア粒 | 普通 | 褐色 | 覆土 | 1/6 | |
| 7 | 高坏(H) | 15.0 | − | − | | a 2 | 石英，小砂粒 | 良好 | 褐色 | 覆土 | 1/10 | |
| 8 | 高坏(H) | 15.0 | − | − | | a 2 | やや密，石英，赤色スコリア粒 | 普通 | 橙褐色 | 覆土 | 1/10 | |
| 9 | 高坏(H) | − | − | − | A | a 2 | 輝石，赤色スコリア粒 | 普通 | 暗赤褐色 | 覆土 | 1/3 | |
| 10 | 高坏(H) | − | − | − | A | | 輝石 | 良好 | 暗赤褐色 | 覆土 | 1/6 | |
| 11 | 高坏(H) | − | − | − | | | 輝石 | 普通 | 褐色 | 覆土 | 1/10 | |
| 12 | 高坏(H) | − | − | 11.0 | A 1 | | 石英，輝石 | 普通 | 橙褐色 | 覆土 | 1/3 | |
| 13 | 鉢(H) | 12.0 | − | − | A | a 1 | 石英，輝石 | 良好 | 暗褐色 | 覆土 | 1/5 | |
| 14 | 鉢(H) | 13.4 | − | − | A | a 2 | 石英，輝石 | 良好 | 赤褐色 | 覆土 | 2/3 | |
| 15 | 鉢(H) | − | − | 3.9 | | | 石英，輝石 | 普通 | 暗褐色 | 覆土 | 1/8 | |
| 16 | 壷(H) | 9.0 | − | − | A | a | 石英，輝石 | 普通 | 褐色 | 覆土 | 2/5 | |
| 17 | 壷(H) | − | − | − | B | | やや密 | 普通 | 褐色 | 覆土 | 1/3 | 一部赤彩 |
| 18 | 壷(H) | 16.6 | − | − | B | b 1 | 砂粒，石英，輝石 | 普通 | 暗褐色 | 覆土 | 1/20 | |
| 19 | 甕(H) | 19.0 | − | − | A | a | 小石，石英，赤色スコリア粒 | 普通 | 褐色 | 覆土 | 1/5 | 一部黒色物付着 |
| 20 | 甕(H) | 17.2 | − | − | A | b 2 | 砂粒，小石，赤色スコリア粒 | 普通 | 橙赤褐 | 覆土 | 1/15 | |
| 21 | 甕(H) | 16.4 | − | − | A | a | 砂粒やや多，小石 | 普通 | 褐色 | 覆土 | 1/10 | |
| 22 | 甕(H) | − | − | 8.2 | | | 石英，輝石，赤色スコリア粒 | 良好 | 褐色 | 覆土 | 1/6 | 内面一部剥落 |
| 23 | 甕(H) | − | − | 6.4 | | | 石英，輝石 | 普通 | 暗褐色 | 覆土 | 1/10 | 内外面剥落 |
| 24 | 甕(H) | − | − | 6.4 | | | 砂粒，輝石，赤色スコリア粒 | 普通 | 褐色 | 覆土 | 1/10 | 外面煤付着 |
| 25 | 甕(H) | − | − | 7.0 | | | 小石 | 普通 | 褐色 | 覆土 | 1/12 | |
| 26 | 甑(H) | − | − | 3.4 | A | | 石英，輝石 | 普通 | 赤褐色 | 覆土 | 1/10 | 穿孔部径1.2cm |
| 27 | 甕(S) | − | − | − | | | 緻密 | 良好 | 青灰色 | 覆土 | 破片 | |

第6表　ＳＩ−04Ｂ土器観察表

## ＳＩ−05

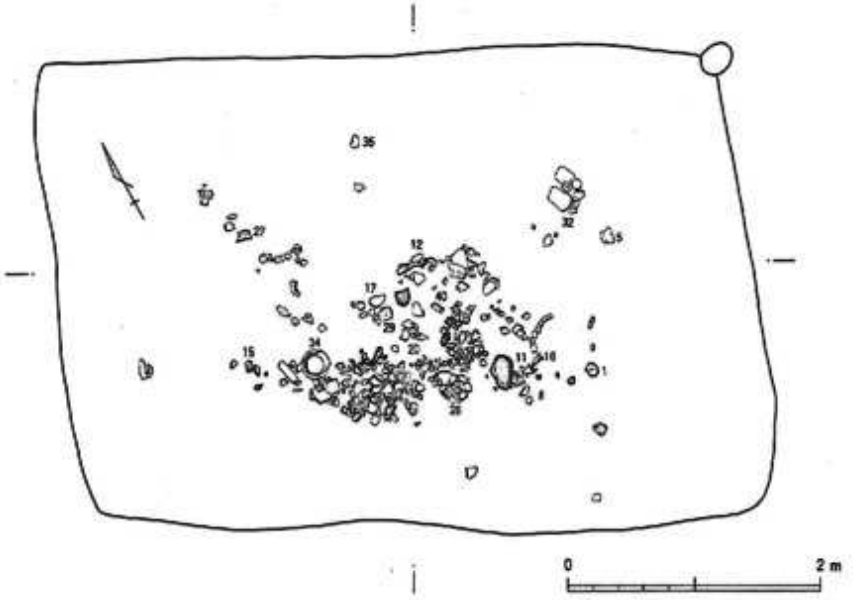
**位置**　ＳＩ−02の南側に近接　**平面形**　やや歪むが東西に長い長方形　**規模**　東西5.45ｍ×南北3.65ｍ　**主軸方向**　Ｎ−25°−Ｅ　**床面**　北東隅と南東隅に貼床をもつ他は，比較的硬い床面である。　**壁**　壁高は30cmで，やや傾斜をもって立ち上がる。また，幅15cm程の壁溝が全周する。**柱穴**　主柱穴が４本(Ｐ１〜４)。床面からの深さはＰ１が74cm，Ｐ２が60cm，Ｐ３が58cm，Ｐ４が71cmである。主柱間の心々距離はＰ１−Ｐ２が2.0ｍ，Ｐ３−Ｐ４が1.90ｍである。　**貯蔵穴**　南壁のほぼ中央に位置する。長軸65cm，短軸45cmの不整形で，深さは25cm。　**炉**　ほぼ主軸上の北壁寄りに位置する。深さは８cmと浅いが，ローム地山がよく焼けており赤褐色を呈していた。**覆土の状況**　自然埋没。　**遺物**　実測可能な遺物は，土師器坏７点，鉢２点，甕16点，小形壺(坩)１点，甑１点，須恵器蓋坏１点，坏身１点，甑１点，甕２点，砥石(39凝灰岩，40泥岩)２点，土製



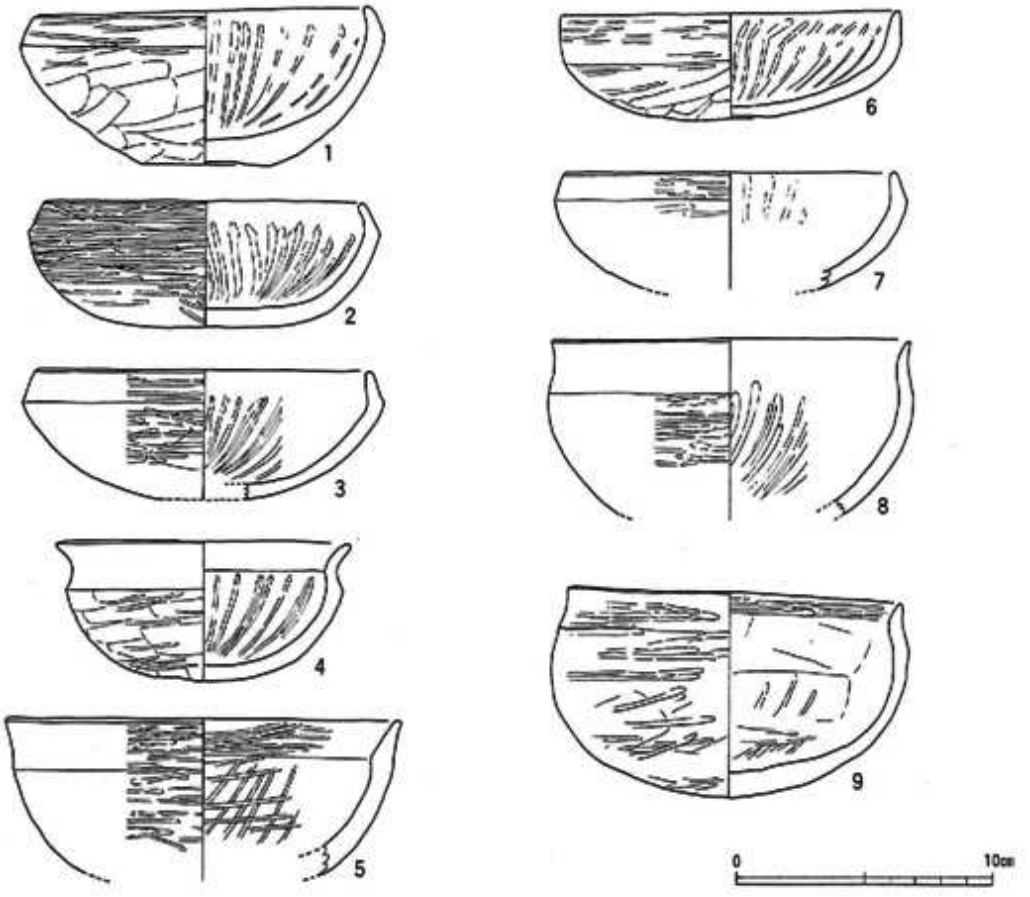

第16図　ＳＩ－05平・断面図

模造品鏡(径 3.5cm) 1 点が出土した。遺物の出土状態は，床に近い下層のものと，セクション図からもわかるように1層中に投機された状態で多量に出土した土器群（第17図参照）に分かれる。

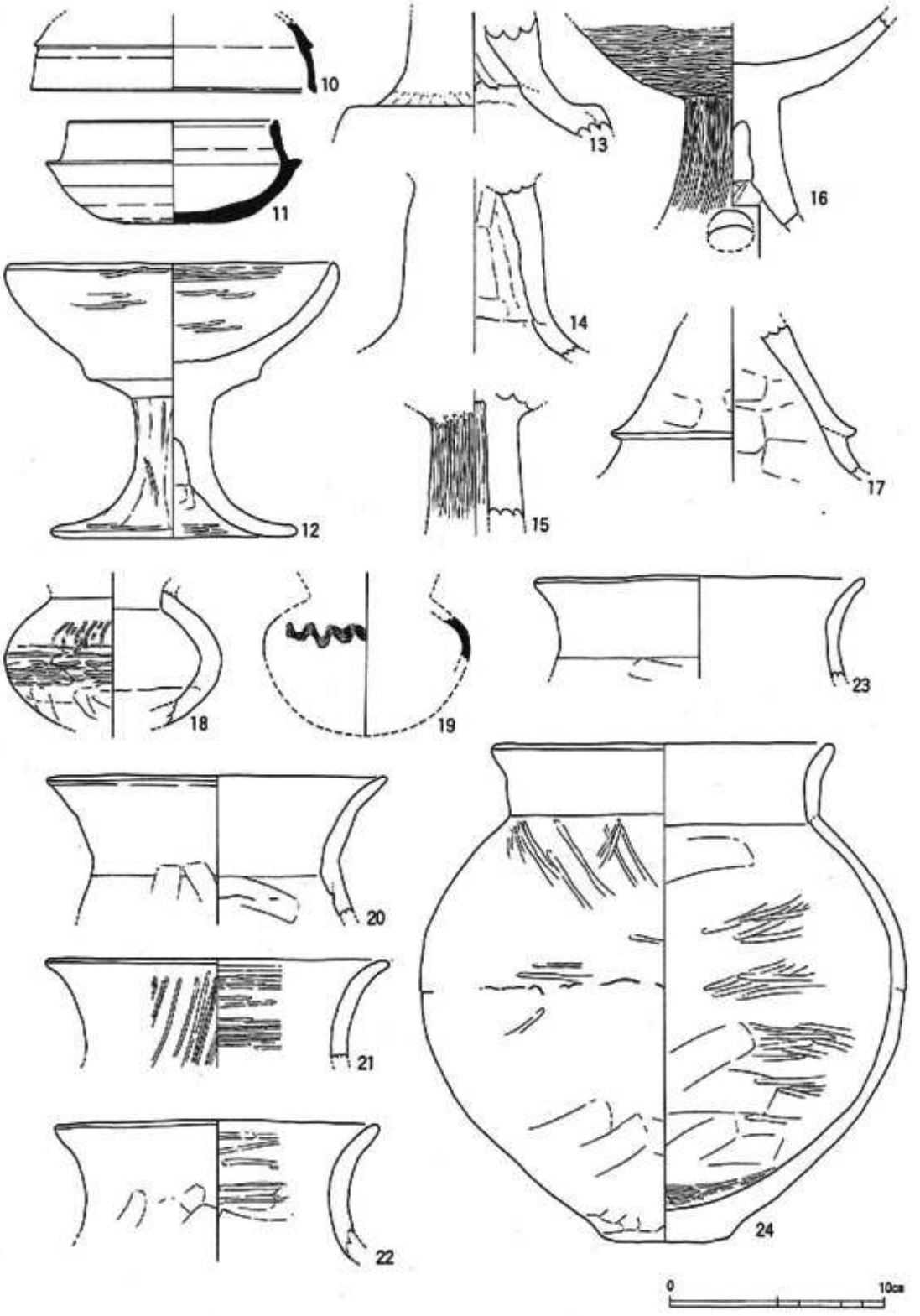
床直は4・5・9・34・37で，下層は3・7・40・41である。その他はすべて上層からの出土である。



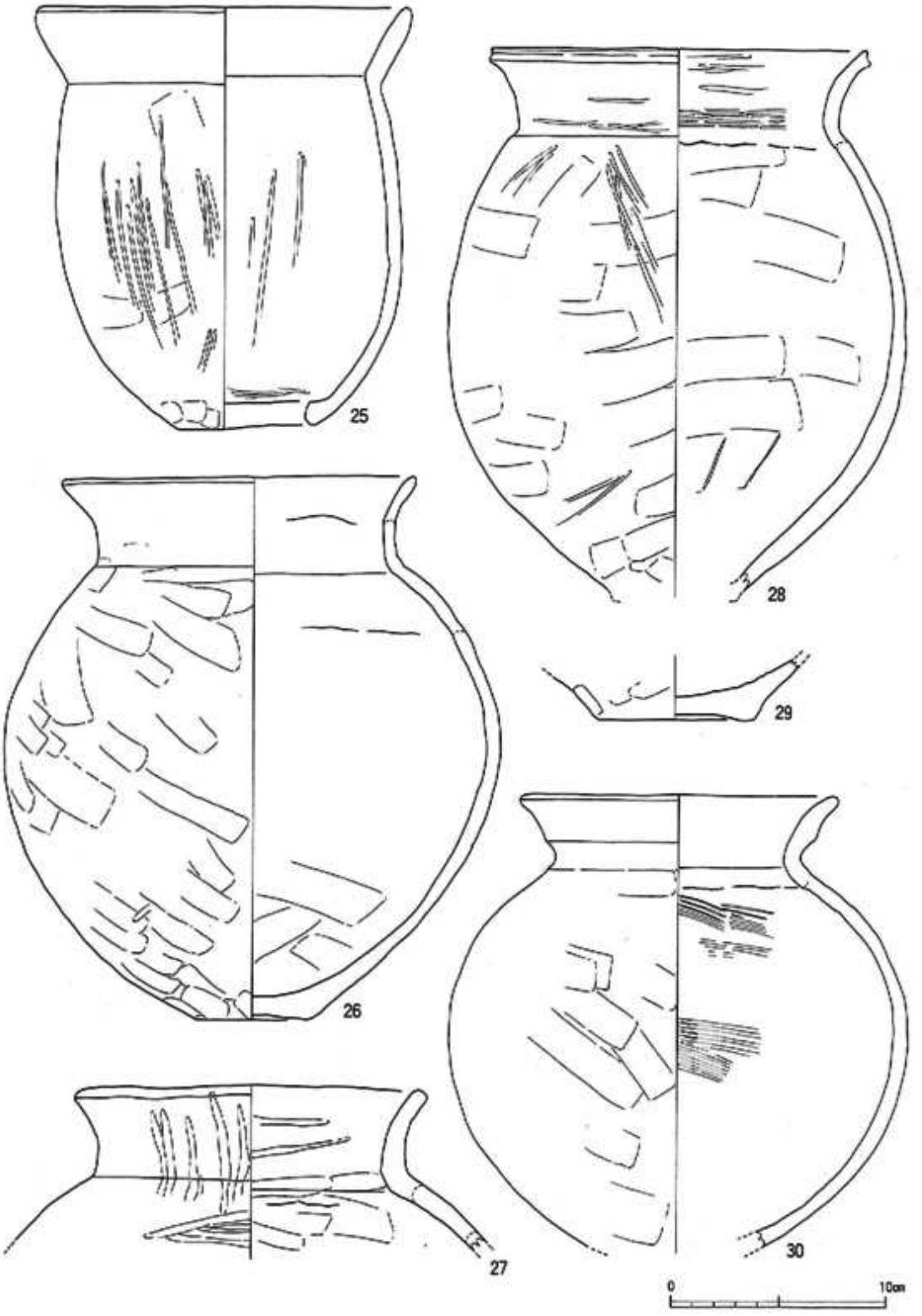

第17図　ＳＩ－05埋土上層遺物出土状態図



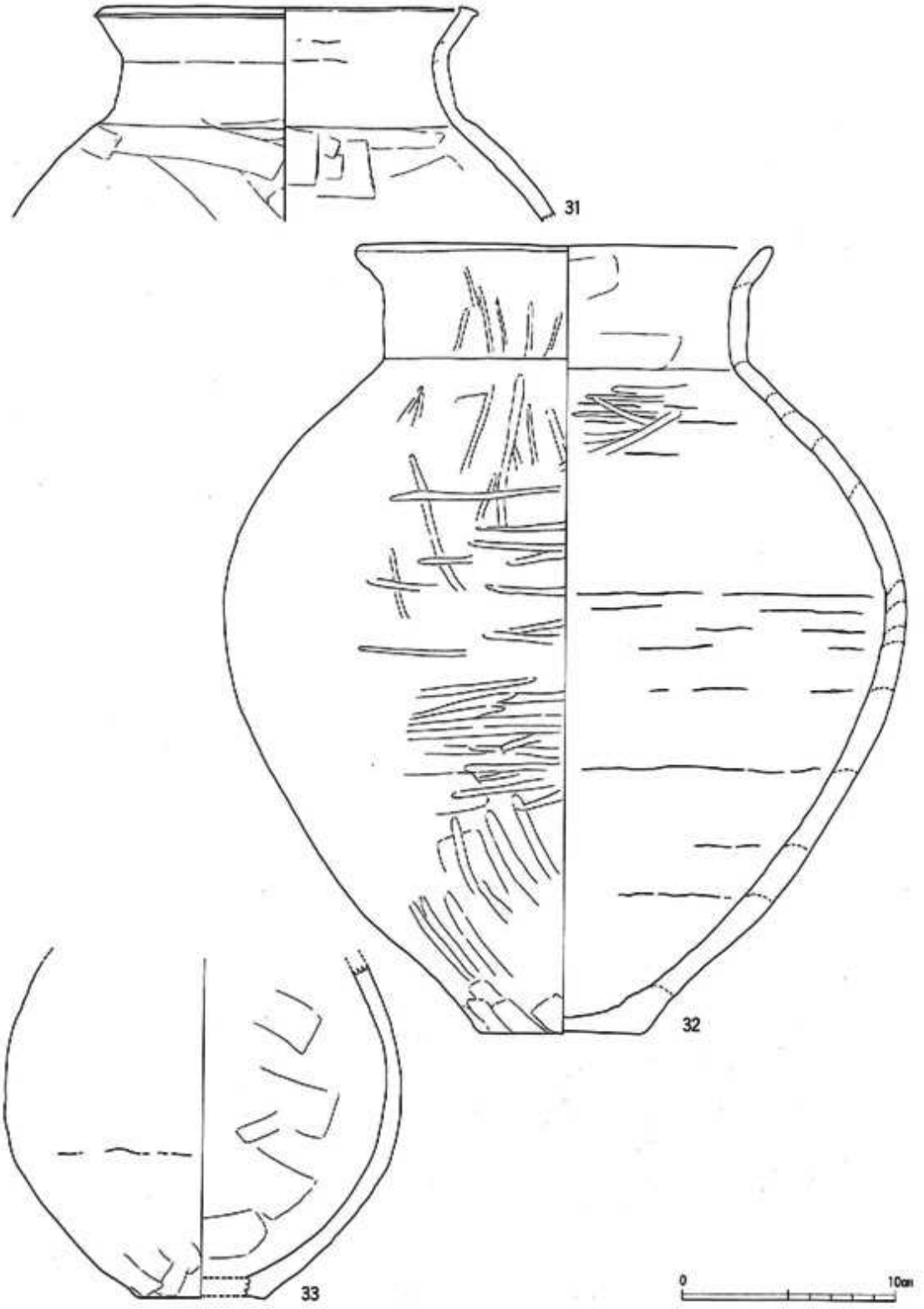

第18図　ＳＩ－05出土遺物実測図(1)



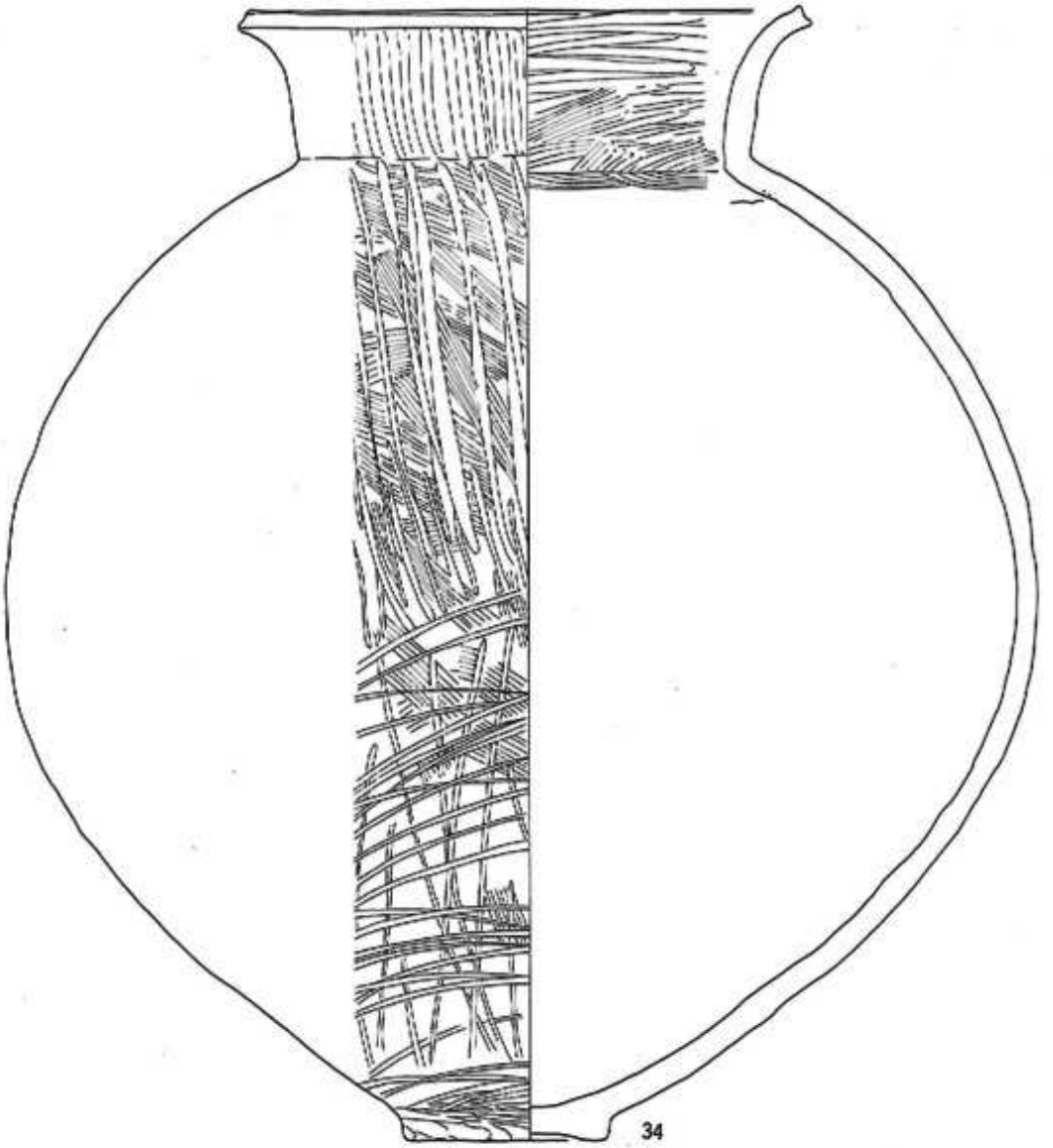

第19図　ＳＩ－05出土遺物実測図(2)



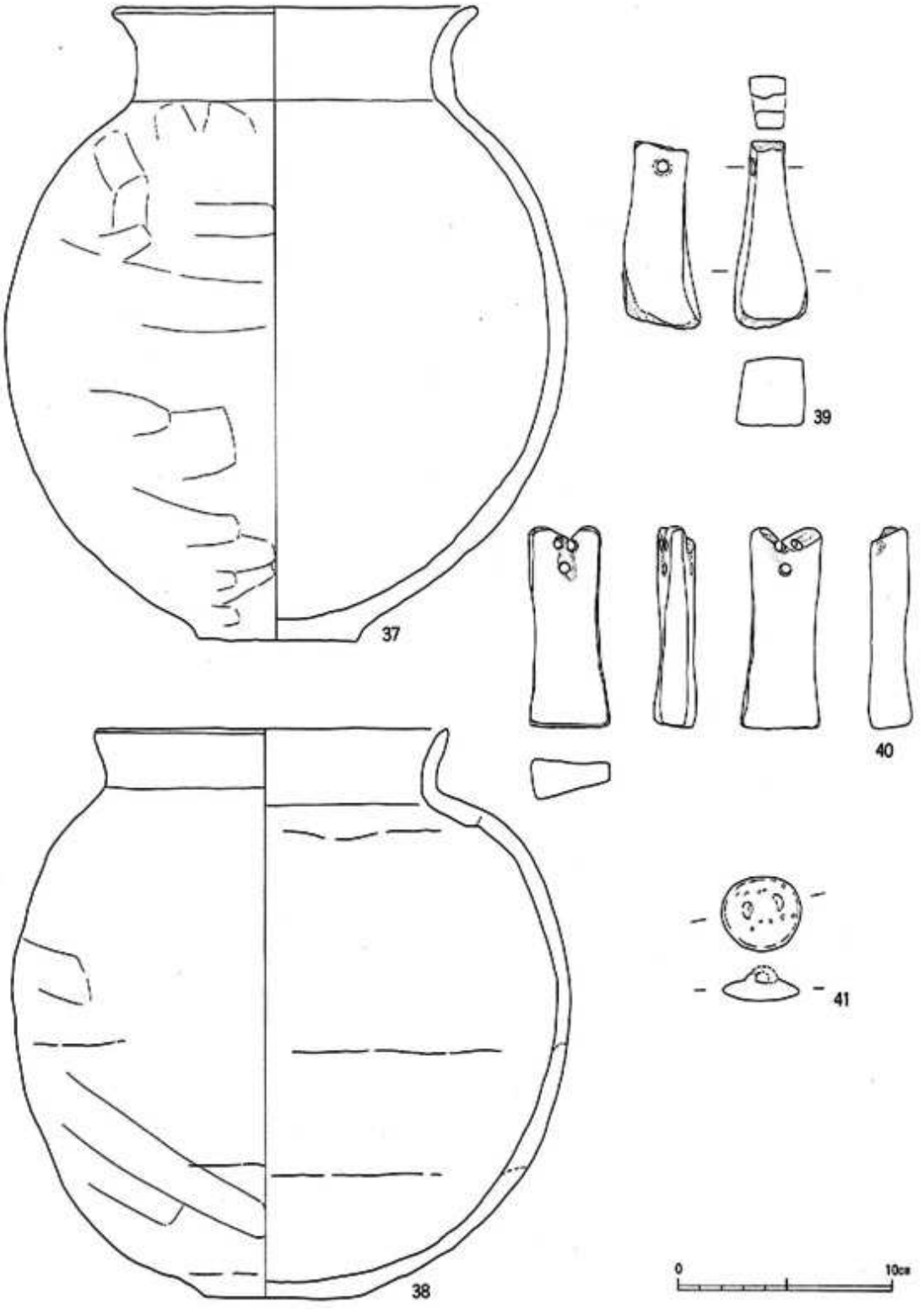

第20図　ＳＩ－05出土遺物実測図(3)




第21図　ＳＩ－05出土遺物実測図(4)



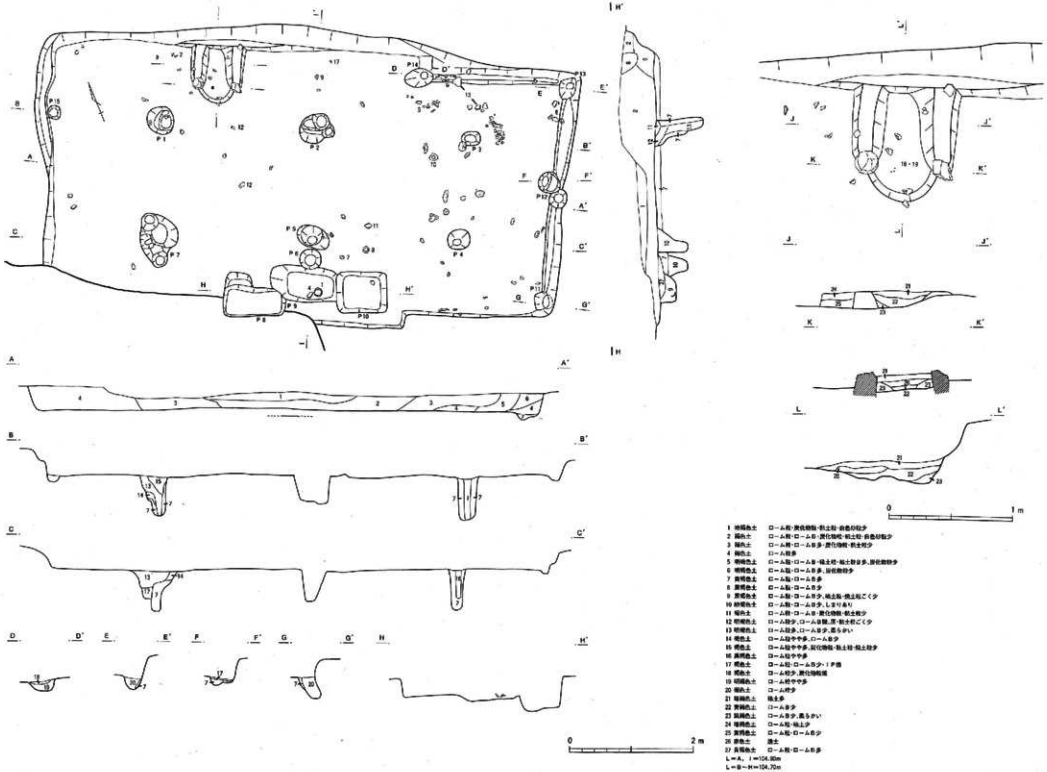

第22図　ＳＩ－05出土遺物実測図(5)




第23図　ＳＩ－05出土遺物実測図(6)

| No | 器種 | 寸法 (cm) 口径 | 器高 | 底径 | 形態分類 | 成・整形手法分類 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 出土状態 | 残存量 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 坏(H) | 13.0 | 6.2 | 5.0 | C 1 | b 2 | 砂粒，小石，赤色スコリア粒 | 普通 | 橙褐色 | 床面 | 完形 | 外面漆付着？ |
| 2 | 坏(H) | 12.5 | 4.9 | − | C 2 | a 1 | 砂粒，赤色スコリア粒多 | 良好 | 赤褐色 | 覆土 | 4/5 | |
| 3 | 坏(H) | 13.1 | 5.1 | − | C 2 | a 1 | 砂粒，赤色スコリア粒 | 良好 | 赤褐色 | 覆土 | 1/2 | |
| 4 | 坏(H) | 11.5 | 5.5 | − | A 2 | a 2 | 砂粒 | 普通 | 褐色 | 床面 | 4/5 | |
| 5 | 坏(H) | 15.4 | − | − | A | c 2 | 砂粒 | 普通 | 褐色 | 覆土 | 1/6 | |
| 6 | 坏(H) | 13.2 | 4.1 | − | B 1 | b 2 | 砂粒，赤色スコリア粒少 | 普通 | 橙褐色 | 床面 | 完形 | |
| 7 | 坏(H) | 13.0 | − | − | C 2 | | 砂粒，赤色スコリア粒 | 普通 | 赤褐色 | 覆土 | 1/8 | |
| 8 | 鉢(H) | 14.1 | − | − | A | a 2 | 砂粒，赤色スコリア粒やや多 | 良好 | 褐色 | 覆土 | 1/6 | 外面煤付着 |
| 9 | 鉢(H) | 13.1 | 8.1 | − | A | b 2 | 砂粒 | 良好 | 褐色 | 覆土 | 4/5 | |
| 10 | 蓋(S) | 13.2 | − | − | | | 緻密 | 良好 | 青灰色 | 覆土 | 1/20 | 一部自然釉付着 |
| 11 | 坏(S) | 9.6 | 4.7 | − | | | 緻密 | 良好 | 青灰色 | 覆土 | 1/5 | |
| 12 | 高坏(H) | 15.1 | 12.7 | 11.5 | A 1 | 2 2 | 砂粒やや多 | 普通 | 暗赤褐色 | 覆土 | 4/5 | |
| 13 | 高坏(H) | − | − | − | D | | | 普通 | 褐色 | 覆土 | 1/4 | |
| 14 | 高坏(H) | − | − | − | A 1 | | 砂粒多 | 普通 | 淡褐色 | 覆土 | 1/4 | |
| 15 | 高坏(H) | − | − | − | A | | 緻密 | 普通 | 褐色 | 覆土 | 1/5 | 摩滅激しい |
| 16 | 高坏(H) | − | − | − | A 2 | | 砂粒やや多 | 良好 | 橙褐色 | 覆土 | 1/3 | |
| 17 | 高坏(H) | − | − | − | D | | 砂粒 | 普通 | 褐色 | 覆土 | 1/12 | |
| 18 | 壺(H) | − | − | − | A | a | 赤色スコリア粒やや多 | 普通 | 淡褐色 | 覆土 | 1/6 | |
| 19 | 甕(S) | − | − | − | | | 緻密 | 良好 | 灰褐色 | 覆土 | 破片 | |
| 20 | 甕(H) | 15.8 | − | − | B | a | 砂粒，小石やや多 | 普通 | 淡褐色 | 覆土 | 1/32 | |
| 21 | 甕(H) | 16.0 | − | − | | b 1 | 砂粒少 | 普通 | 褐色 | 覆土 | 1/32 | |
| 22 | 甕(H) | 15.0 | − | − | B | | 砂粒 | 普通 | 褐色 | 覆土 | 1/32 | |
| 23 | 甕(H) | 15.4 | − | − | B | | 砂粒多 | 普通 | 褐色 | 覆土 | 1/20 | 外面煤付着 |
| 24 | 甕(H) | 16.0 | 23.1 | 6.0 | B | | 砂粒，赤色スコリア粒 | 普通 | 暗褐色 | 覆土 | 2/3 | 全体に煤付着 |
| 25 | 甕(H) | 17.4 | 19.5 | 6.5 | A | a | 砂粒 | 普通 | 褐色 | 覆土 | 4/5 | 二次焼成 |
| 26 | 甕(H) | 16.4 | 25.2 | 5.4 | B | a | 砂粒，小石 | 普通 | 暗褐色 | 覆土 | 完形 | 内面剥離，外面煤付着，二次焼成 |
| 27 | 甕(H) | 16.4 | − | − | B | | 砂粒，小石 | 良好 | 暗褐色 | 覆土 | 1/8 | |
| 28 | 甕(H) | 17.4 | − | − | C | b 1 | 砂粒，小石 | 普通 | 褐色 | 覆土 | 1/2 | 二次焼成 |
| 29 | 甕(H) | − | − | 7.2 | | | 砂粒やや多，赤色スコリア粒 | 良好 | 暗赤褐色 | 覆土 | 1/32 | 二次焼成 |
| 30 | 壺(H) | 14.8 | − | − | A | d 3 | 砂粒やや多 | 普通 | 暗褐色 | 覆土 | 1/3 | 二次焼成，煤付着 |
| 31 | 甕(H) | 17.9 | − | − | C | a | 砂粒，小石，赤色スコリア粒 | 普通 | 暗褐色 | 覆土 | 1/5 | 二次焼成 |
| 32 | 甕(H) | 19.5 | 36.6 | 7.5 | B | | 砂粒，小石やや多 | 良好 | 暗褐色 | 覆土 | 1/2 | 内面著しく剥落 |
| 33 | 甕(H) | − | − | 6.0 | | a | 砂粒，小石やや多 | 普通 | 暗褐色 | 覆土 | 1/5 | 二次焼成 |
| 34 | 甕(H) | 21.6 | 44.1 | 8.0 | C | | 砂粒，石英，黒色粒 | 良好 | 褐色 | 覆土 | 1/4 | 内面著しく剥落 |
| 35 | 甕(S) | − | − | − | | | 緻密 | 良好 | 青灰色 | 床面 | 破片 | |
| 36 | 甕(S) | − | − | − | | | 緻密 | 良好 | 青灰色 | 覆土 | 破片 | |
| 37 | 甕(H) | 19.0 | 29.1 | 7.4 | B | a | 砂粒，小石 | 普通 | 暗褐色 | 覆土 | 1/2 | 全面煤付着 |
| 38 | 甕(H) | 16.5 | 26.1 | 7.0 | D | a | 砂粒 | 良好 | 暗褐色 | 床面 | 2/3 | 二次焼成 |

第7表　S I −05土器観察表



1 明褐色土　ローム粒・炭化物粒・軟土粒・白色砂粒少
2 褐色土　ローム粒・ローム小・炭化物粒・軟土粒・白色砂粒少
3 褐色土　ローム粒・ローム多少・炭化物粒・軟土粒少
4 褐色土　ローム粒多
5 明褐色土　ローム粒・ローム多・焼土粒・軟土粒多少,炭化物粒少
6 明褐色土　ローム粒・ローム多少,炭化物粒少
7 黄褐色土　ローム粒・ローム多少
8 黄褐色土　ローム粒・ローム中少
9 黄褐色土　ローム粒・ローム中少,焼土粒・焼土粒ごく少
10 明褐色土　ローム粒・ローム中少,しまりあり
11 褐色土　ローム粒・ローム中・炭化物粒・軟土粒少
12 明褐色土　ローム粒少,ローム主體,炭・軟土粒ごく少
13 明褐色土　ローム粒小,ローム多少,黒ちがい
14 褐色土　ローム粒中少,ローム中少
15 褐色土　ローム粒中少,炭化物粒・焼土粒・軟土粒少
16 黒褐色土　ローム粒中少
17 褐色土　ローム粒・ローム中少・ＩＰ跡
18 褐色土　ローム粒少,炭化物粒微
19 明褐色土　ローム粒中少
20 褐色土　ローム粒少
21 黒褐色土　焼土多
22 黄褐色土　ローム多少
23 黒褐色土　ローム多少,黒ちがい
24 暗褐色土　ローム粒・焼土少
25 黄褐色土　ローム粒・ローム中少
26 暗色土　焼土
27 赤褐色土　ローム粒・ローム中少

L＝A、I＝104.30m
L＝B～H＝104.70m
L＝J～L＝104.60m

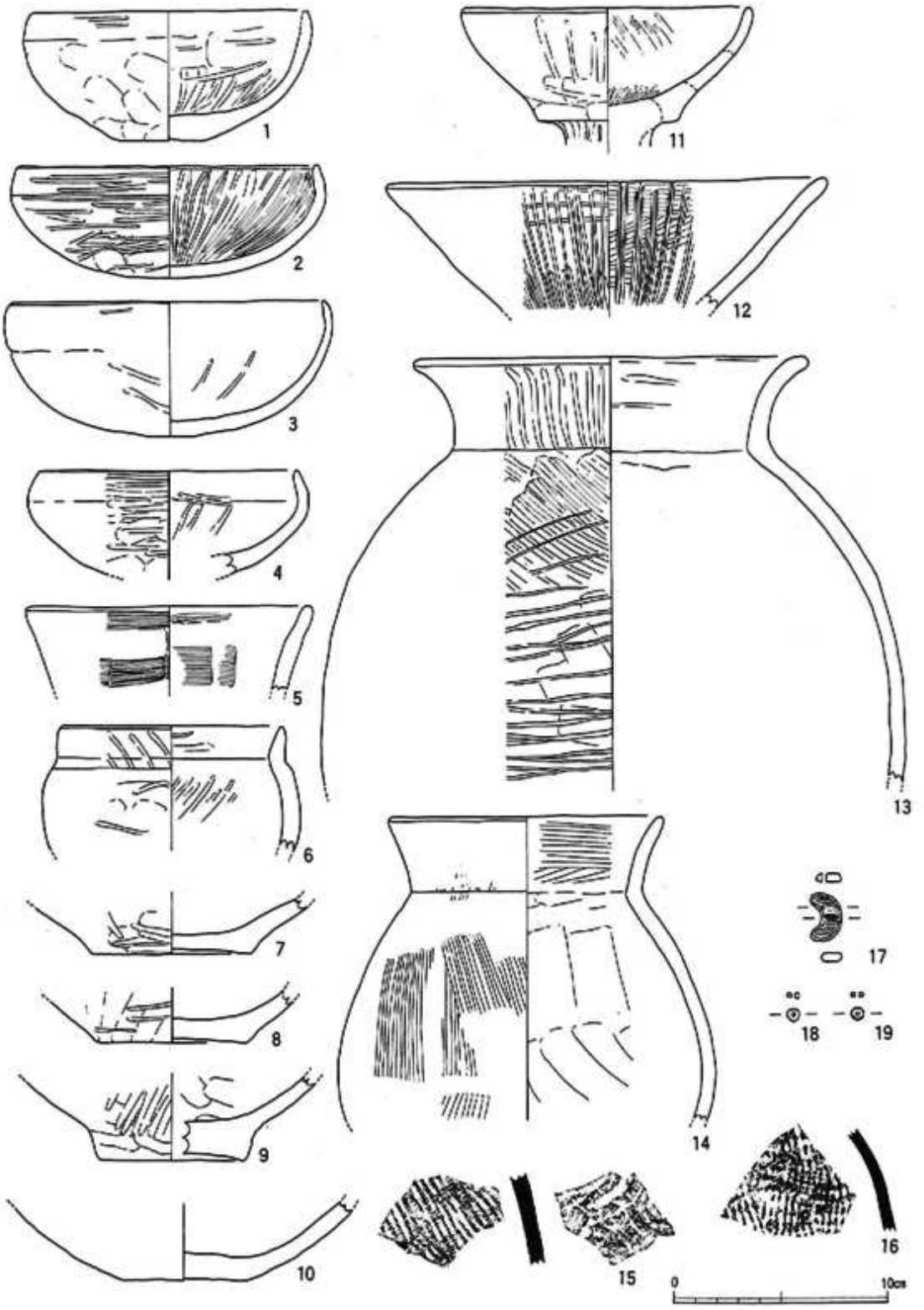
第24図　ＳＩ－06平・断面図

S I－06

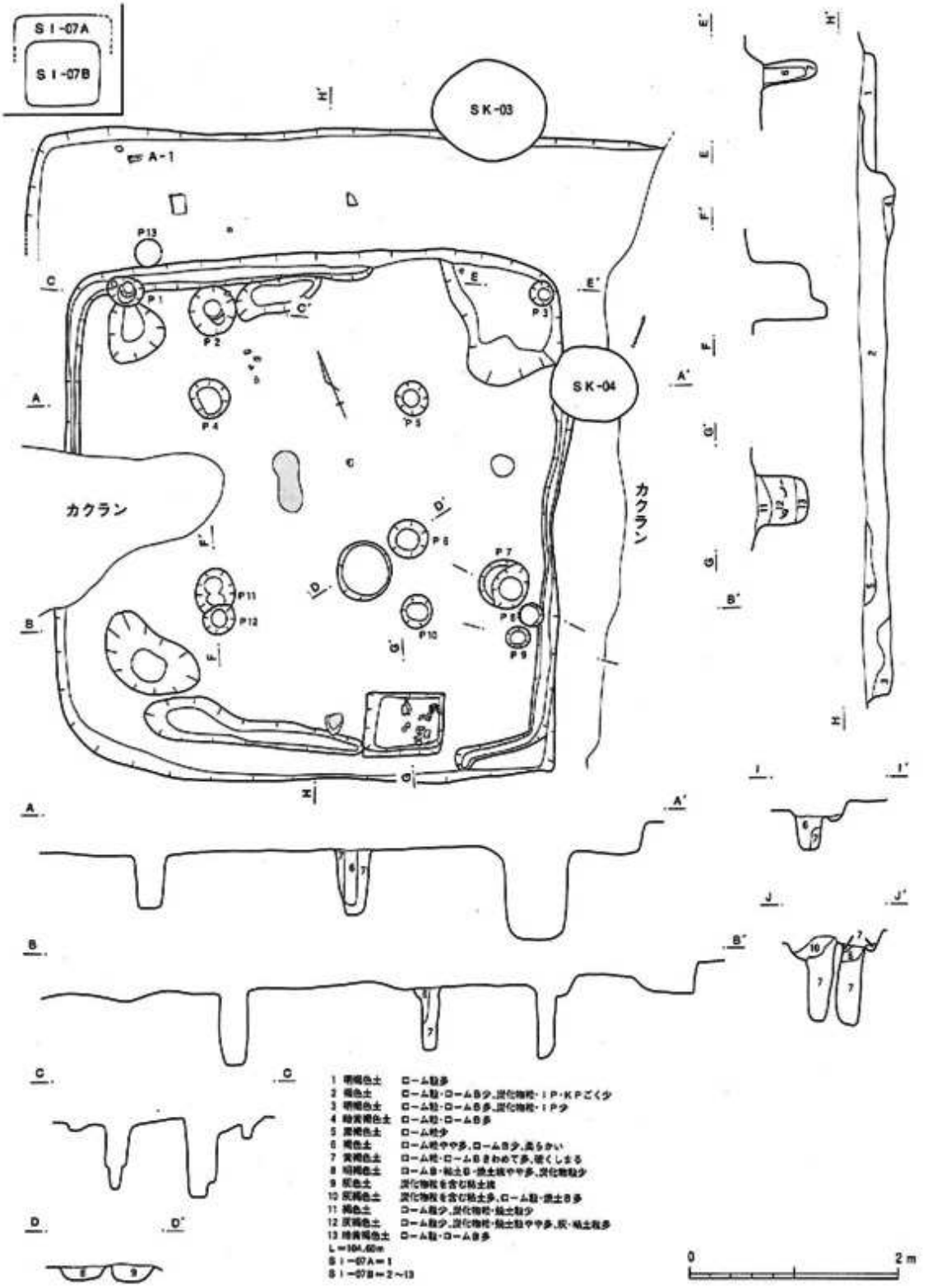
**位置**　調査区ほぼ中央　**平面形**　南西壁が攪乱により削平されてしまっていたため，はっきりしない部分があるが，基本的には東西に長い長方形。尚，東から1/3くらいの所で，北壁及び南壁とも90°に折れが入り鉤の手になる。　**規模**　東西8.45m×南北4.7m　**主軸方向**　N－23°－E　**床面**　黒色土混じりのやや軟弱な床。南北方向の断ち割りにより10cm程貼床されていることを確認。　**壁**　やや傾斜をもって立ち上がる。また，東壁と北壁東寄り1/3に幅25cm程の壁溝が巡る。　**柱穴**　P1・P2・P7は最低2回の切り合いがみられ，P5・P6もかなり近接した位置にある。それに対し，P3・P4はそれぞれ単独で存在する。このことから主柱穴は，4本(P1・P2・P6・P7)から6本(P1～P5・P7)へと増築の際に増えたのではないかと考えられる。壁柱穴は西壁に1本(P15)の他は，壁溝のある部分に4本(P11～P14)確認できた。**貯蔵穴**　ほぼ中央に3基(P8～P10)確認できた。そのうち中央のものは人為的に埋め戻されていた。いずれも平面形は長方形を基本とし，エレベーションからもわかるように西から順に深くなる。それぞれの規模を西から順にみてみると，P8は長軸1m，短軸45cm，深さ30cm，P9は長軸1.05m，短軸55cm，深さ35cm。P10は長軸81cm，短軸64cm，深さ55cm。　**カマド**　中央より西よりの北壁に設置する。両袖には凝灰岩質の石を使用。カマドの火床から白玉3個出土。　**覆土の状況**　自然埋没。　**遺物**　実測可能な遺物は，土師器坏4点，鉢1点，甕8点，高坏2点，須恵器甕2点，滑石製模造品勾玉(緑色片岩)1点，白玉3点が出土した。遺物の出土状態は，図示したもののほとんどが下層出土である。その中でも10は床直，1・3・4が土坑内出土，17が床下，18・19がカマド内出土である。尚，平面図からわかるように石の出土が目立つ。

| No | 器種 | 寸法(cm) 口径 | 器高 | 底径 | 形態分類 | 成・整形手法分類 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 出土状態 | 残存量 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 坏(H) | 12.7 | 5.9 | 4.1 | B1 | c2 | 輝石 | 不良 | 暗褐色 | P9内 | ほぼ完形 | 二次焼成 |
| 2 | 坏(H) | 14.5 | 5.2 | － | B2 | b1 | 石英，輝石 | 良好 | 暗褐色 | 覆土 | 7/8 | |
| 3 | 坏(H) | 14.6 | 6.2 | － | B2 | | 輝石，小石，赤色スコリア粒 | 不良 | 淡褐色 | 覆土 | 1/2 | 二次焼成 |
| 4 | 坏(H) | 12.0 | － | － | C | | 石英，輝石，赤色スコリア粒 | 普通 | 褐色 | P9内 | 1/4 | |
| 5 | 甕(H) | 13.3 | － | － | | d2 | 石英，赤色スコリア粒 | 良好 | 褐色 | 覆土 | 1/20 | |
| 6 | 鉢(H) | 10.2 | － | － | B | | 輝石，赤色スコリア粒 | 普通 | 赤褐色 | 覆土 | 1/12 | |
| 7 | 甕(H) | － | － | 7.0 | | | 石英，小石 | 普通 | 褐色 | 覆土 | 1/32 | |
| 8 | 甕(H) | － | － | 7.0 | | | 輝石，赤色スコリア粒 | 普通 | 暗褐色 | 覆土 | 1/32 | |
| 9 | 甕(H) | － | － | 6.6 | | | 輝石，小石，赤色スコリア粒 | 普通 | 暗褐色 | 覆土 | 1/32 | |
| 10 | 甕(H) | － | － | 5.7 | | | 石英，輝石，赤色スコリア粒 | 不良 | 褐色 | 覆土 | 1/32 | |
| 11 | 高坏(H) | 12.6 | － | － | A | | 石英，輝石 | 良好 | 赤褐色 | 覆土 | 1/8 | 内面著しく剥落 |
| 12 | 高坏(H) | 20.6 | － | － | | a1 | 砂粒 | 良好 | 橙褐色 | 床面 | 1/10 | |
| 13 | 甕(H) | 18.4 | － | － | B | c | 石英，輝石，小石 | 普通 | 褐色 | 覆土 | 1/3 | 内面剥落 |
| 14 | 甕(H) | 12.8 | － | － | A | d1 | 石英，輝石，砂粒 | 良好 | 褐色 | 覆土 | 2/3 | 二次焼成 |
| 15 | 甕(S) | － | － | － | | | 緻密 | 良好 | 暗灰褐色 | 覆土 | 破片 | |
| 16 | 甕(S) | － | － | － | | | 緻密 | 良好 | 暗灰色 | 覆土 | 破片 | |

**第8表　S I－06土器観察表**




第25図　ＳＩ－06出土遺物実測図

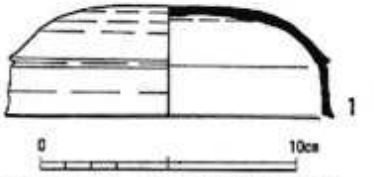



第26図　SI－07A・B平・断面図

## ＳＩ－07Ａ

**位置**　調査区南西隅　**平面形**　東側に大きな攪乱があるのと，西側の一部も同様に攪乱を受けているため全体像がわからない。　**切り合い関係**　ＳＩ－07Ｂに入れ子状に切られる。また，ＳＫ－03を切っている。　**規模**　不明　**主軸方向**　Ｎ－21°－Ｅ　**床面**　ローム地山の硬い床。　**壁**　やや傾斜をもって立ち上がる。　**柱穴**　位置的にＰ２，Ｐ３，Ｐ８，Ｐ12が主柱穴の可能性がある。　**炉**　不明　**覆土の状況**　自然埋没。

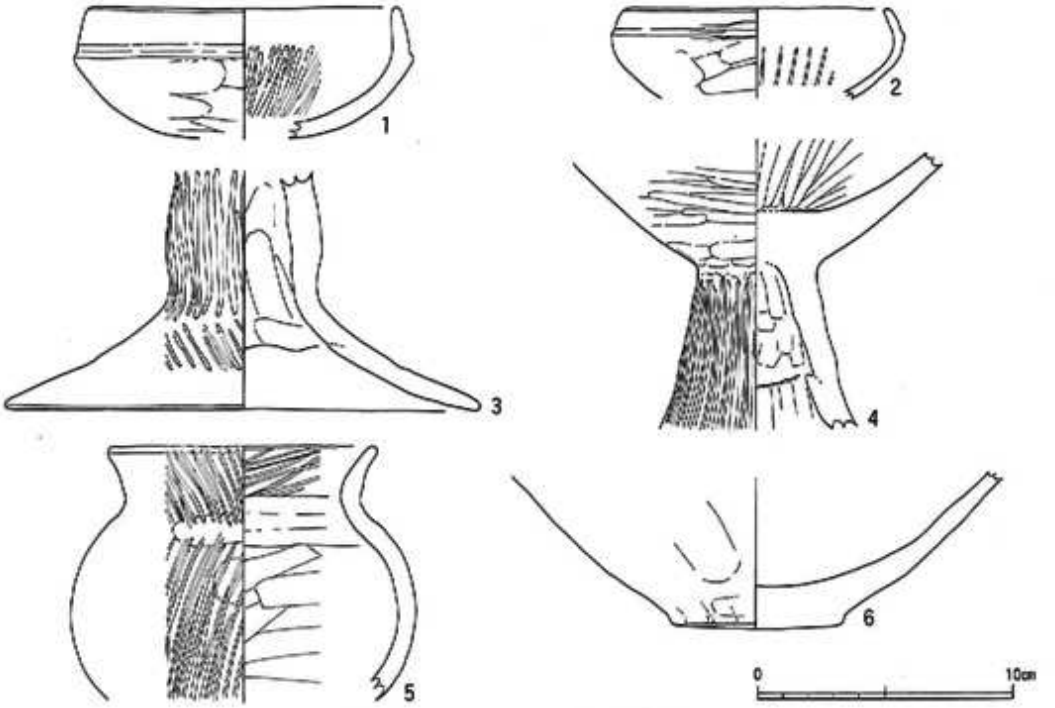
**遺物**　実測可能な遺物は，須恵器蓋坏１点のみである。




第27図　ＳＩ－07Ａ出土遺物実測図

| No | 器種 | 寸法（cm） | | | 形態分類 | 成・整形手法分類 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 出土状態 | 残存量 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 口径 | 器高 | 底径 | | | | | | | | |
| 1 | 蓋(S) | 12.8 | 4.3 | － | | | 緻密，白色粒 | 良好 | 青灰色 | 覆土 | 4/5 | |

第９表　ＳＩ－07Ａ土器観察表




第28図　ＳＩ－07Ｂ出土遺物実測図

| No | 器種 | 寸法（cm） | | | 形態分類 | 成・整形手法分類 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 出土状態 | 残存量 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 口径 | 器高 | 底径 | | | | | | | | |
| 1 | 坏(H) | 12.0 | － | － | D | a 4 | 輝石，赤色スコリア粒 | 普通 | 橙褐色 | 覆土 | 1/4 | |
| 2 | 坏(H) | 10.4 | － | － | D | a 3 | 白色粒 | 良好 | 赤褐色 | 土坑 | 1/8 | |
| 3 | 高坏(H) | － | － | 18.5 | A 1 | | 輝石，赤色スコリア粒，砂粒 | 普通 | 淡褐色 | 覆土 | 1/4 | |
| 4 | 高坏(H) | － | － | － | B | a 1 | 輝石 | 良好 | 赤褐色 | 土坑 | 1/3 | |
| 5 | 甕(H) | 10.4 | － | － | A | c | 砂粒，輝石 | 普通 | 暗赤褐色 | 土坑 | 1/2 | 外面一部摩滅 |
| 6 | 甕(H) | － | － | 6.6 | | | 石英多，赤色スコリア粒 | 普通 | 褐色 | 覆土 | 1/32 | 内面剥落 |

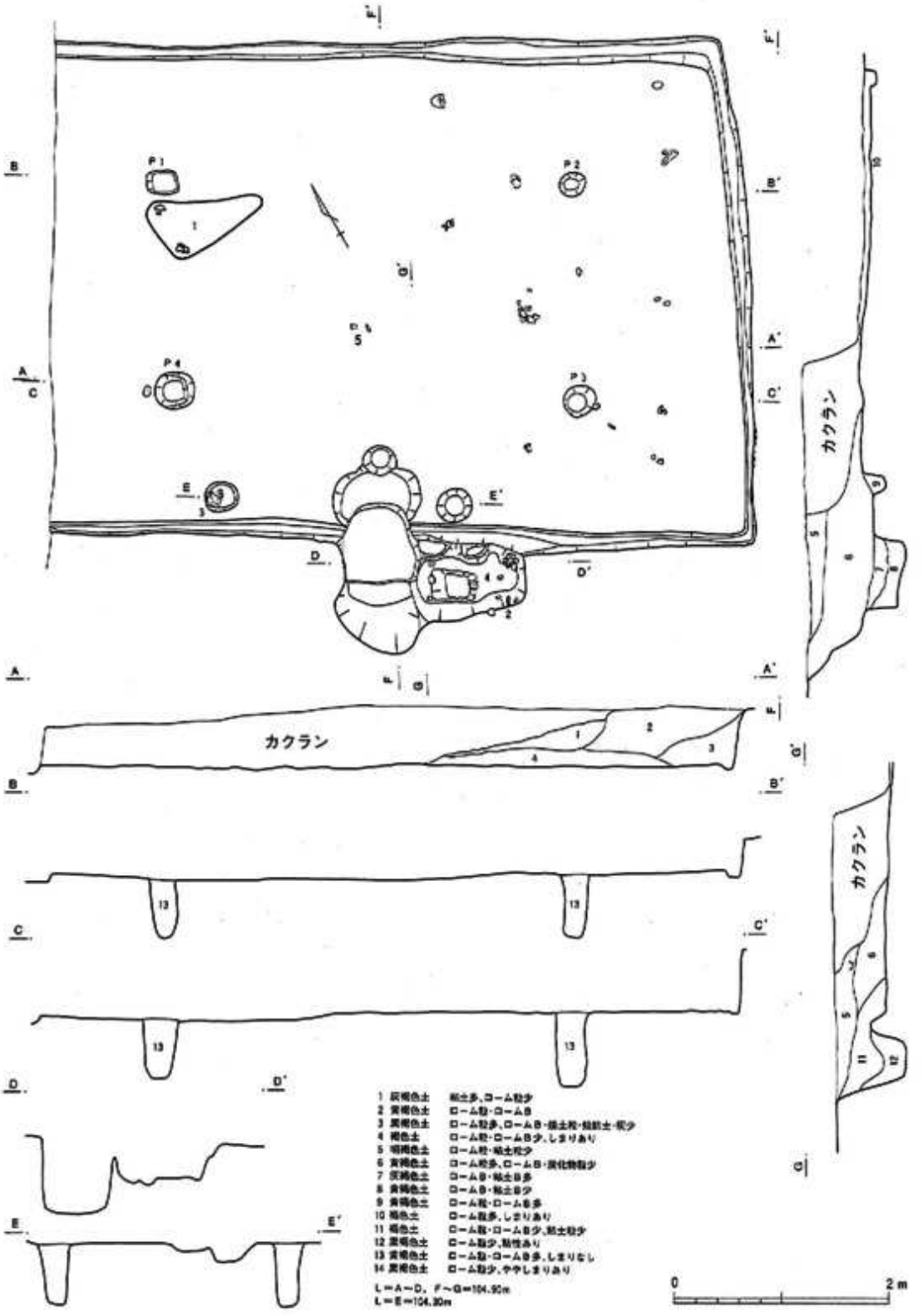
第10表　ＳＩ－07Ｂ土器観察表

ＳＩ－07Ｂ

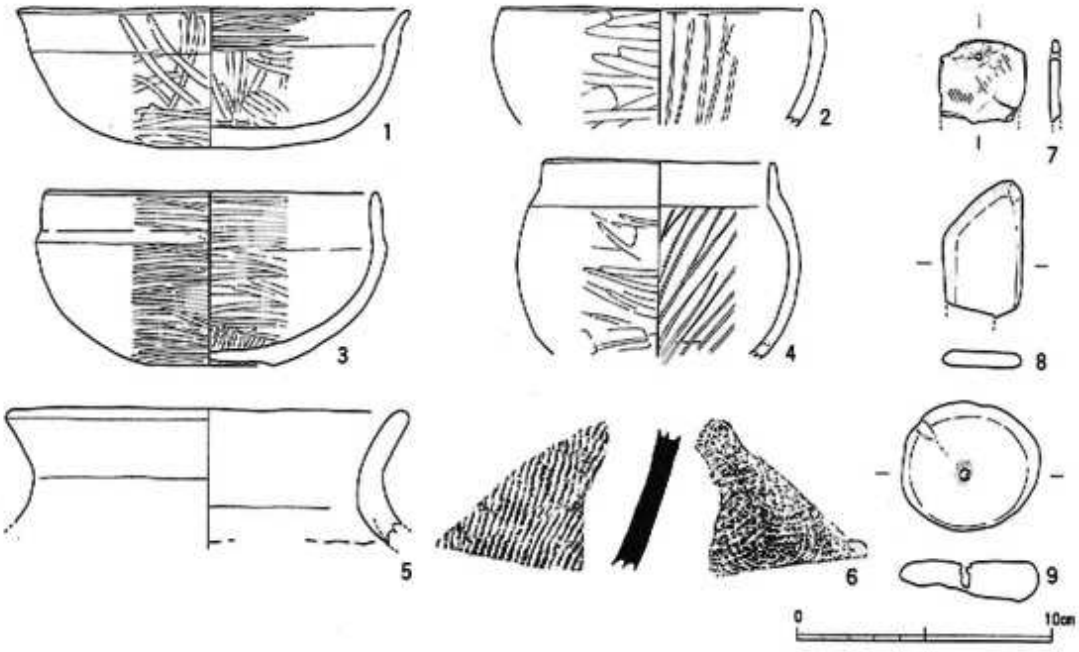
**位置**　調査区南西隅　**平面形**　西側中央に攪乱があるが，ほぼ隅丸の方形である。　**切り合い関係**　ＳＩ－07Ａを入れ子状に切る。また，ＳＫ－04も切っている。　**規模**　東西4.8ｍ×南北4.95ｍ　**主軸方向**　Ｎ－21°－Ｅ　**床面**　黒色土混じりのやや軟弱な床。　**壁**　傾斜をもって立ち上がる。北東隅と南西隅を除いて壁溝が巡る。　**柱穴**　Ｐ４，Ｐ５，Ｐ６，Ｐ10の４本が主柱穴。　**貯蔵穴**　南壁の中央東寄りの長軸75cm，短軸60cmの方形の穴。人為的に埋められている。　**炉**　３か所焼土のある場所が確認できたが，中央西寄りのものが炉と考えられる。　**覆土の状況**　自然埋没。　**遺物**　実測可能な遺物は，土師器坏２点。高坏２点。甕２点である。出土状況は２，５，６が貯蔵穴出土でその他は覆土中出土である。

ＳＩ－08

**位置**　ＳＩ－06の南側1.6ｍに位置する。　**平面形**　西側壁が攪乱により破壊されているが，基本的には長方形である。　**規模**　東西不明×南北4.45ｍ（張出し部を含めると5.5ｍ）　**主軸方向**　Ｎ－21°－Ｅ　**床面**　ローム地山の比較的硬い床。　**壁**　ほぼ垂直に立ち上がる。尚，北側壁は重機による削平のため，ほとんど壁溝の立ち上がりしか確認できなかった。また，先にも述べたように，西壁は攪乱されていたため不明であるが，残りの三辺には壁溝が巡る。　**柱穴**　Ｐ１～４の４本が主柱穴。柱穴間の心々距離は，Ｐ１－Ｐ２が3.8ｍ，Ｐ３－Ｐ４が3.75ｍである。Ｐ５～７は出入口施設に関連する柱穴と考えられる。　**貯蔵穴**　南壁のほぼ中央に位置する。２基の貯蔵穴（Ｐ８・Ｐ９）が隣接して掘られている。Ｐ８は南北方向に長い穴（長軸1.65ｍ×短軸0.7ｍ）で，一端，確認面から50cmのところまで掘られ，さらにほぼ中央に，そこから30cm程深く，一辺70cmの方形の穴を掘り，２段にしている。Ｐ９は東西方向に長い穴（長軸1.0ｍ×短軸0.65ｍ）で，これには，中央西よりに，長軸0.4ｍ×短軸0.25ｍの長方形の小さな穴を持つ。　**炉**　確認できなかった。　**覆土の状況**　自然埋没。　**遺物**　実測可能な遺物は，土師器坏１点，鉢３点，甕１点，須恵器甕１点，石製品３点である。出土状況は，１，５が床直で，２，４が貯蔵穴出土である。尚，７は有孔方板であるが一部欠損している。石質は泥岩である。８は扁平石製品で，石質は泥岩である。９は有孔円板であるが，不完全貫通で，石質は砂岩である。




第29図　ＳＩ－08平・断面図




第30図　ＳＩ－08出土遺物実測図

| No | 器種 | 寸法（cm） | | | 形態分類 | 成・整形手法分類 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 出土状態 | 残存量 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 口径 | 器高 | 底径 | | | | | | | | |
| 1 | 坏(H) | 15.3 | 5.5 | － | A 2 | c 2 | 石英，輝石 | 良好 | 暗褐色 | 床面 | 1/2 | |
| 2 | 鉢(H) | 12.6 | － | － | D | | 赤色スコリア粒 | 普通 | 赤褐色 | 土坑 | 1/5 | |
| 3 | 鉢(H) | 13.2 | 6.7 | 5.0 | B | | 輝石，砂粒，赤色スコリア粒 | 良好 | 暗褐色 | 覆土 | 2/3 | 外面煤付着 |
| 4 | 鉢(H) | 12.6 | | | B | | 赤色スコリア粒 | 普通 | 赤褐色 | 土坑 | 1/5 | |
| 5 | 甕(H) | 15.0 | | | A | | 石英，輝石，砂粒，小石 | 普通 | 褐色 | 床面 | 1/20 | |
| 6 | 甕(S) | － | － | － | | | 緻密 | 良好 | 灰色 | 覆土 | 破片 | |

第11表　ＳＩ－08土器観察表

## 2　土坑と出土遺物

今回の調査区内では４基の土坑が確認できた。ＳＫ－01，ＳＫ－02は竪穴住居跡とほぼ同時期のもので，ＳＫ－03，ＳＫ－04は，出土遺物がないため時期は不明であるが，ＳＩ－07での切り合い関係から，竪穴住居跡よりも古い時期に位置づけられる。

ＳＫ－01

**位置**　ＳＩ－03の南0.5ｍに位置する。　**平面形**　楕円形　**規模**　長軸90cm×短軸65cm。深さ60cm。　**覆土の状況**　凝灰岩及び土器が一括投棄され，人為的に埋め戻されている。　**遺物**　土師器坏２点，鉢１点，高坏１点である。

ＳＫ－02

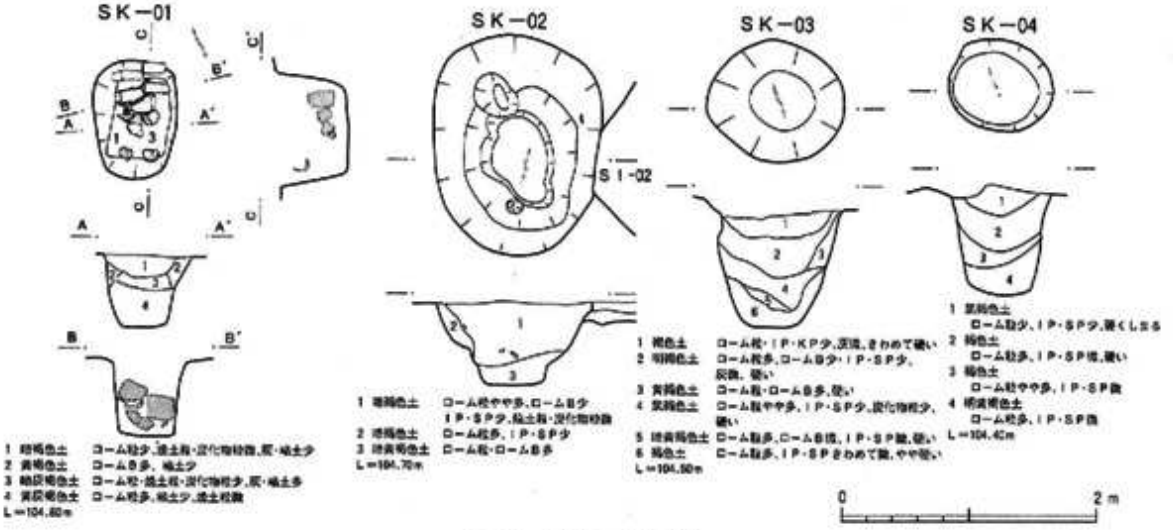
**位置**　ＳＩ－02の南西隅と切り合う。　**切り合い関係**　セクションの観察の結果，ＳＫ－02がＳＩ－02を切る。　**平面形**　楕円形　**規模**　長軸1.7ｍ×短軸1.3ｍ。深さ65cm。　**覆土の状況**　自然埋没。　**遺物**　土師器甕１点，高坏１点である。

ＳＫ－03

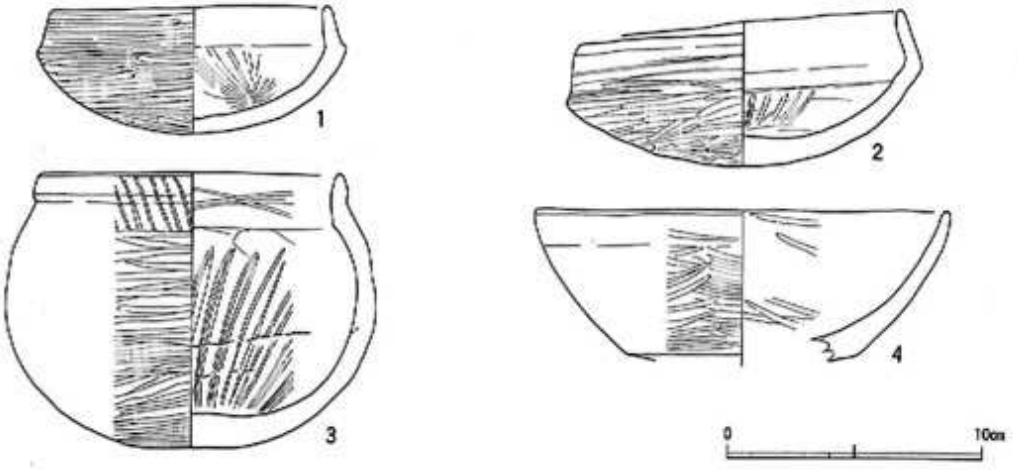
**位置**　ＳＩ－07Ａの北壁と切り合う。　**切り合い関係**　セクションの観察の結果，ＳＩ－07ＡがＳＫ－03を切る。　**平面形**　楕円形　**規模**　長軸1.1ｍ×短軸0.95ｍ。深さ90cm。　**覆土の状況**　自然埋没。非常に硬く締まっている。　**遺物**　なし。

ＳＫ－04

**位置**　ＳＩ－07Ｂの東壁と切り合う。　**切り合い関係**　セクションの観察の結果，ＳＩ－07ＢがＳＫ－04を切る。　**平面形**　楕円形　**規模**　長軸0.82ｍ×短軸0.7ｍ。深さ80cm。　**覆土の状況**　自然埋没。非常に硬く締まっている。　**遺物**　なし。



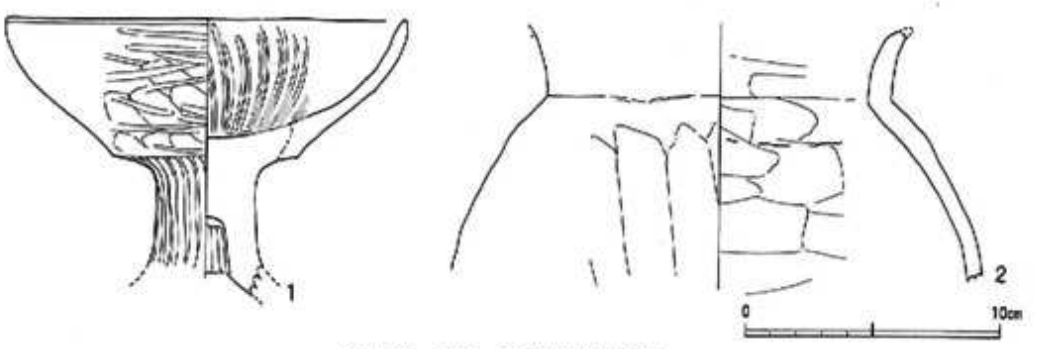

第31図　土坑平・断面図




第32図　ＳＫ－01出土遺物実測図

| No | 器種 | 寸法（cm） | | | 形態分類 | 成・整形手法分類 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 出土状態 | 残存量 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 口径 | 器高 | 底径 | | | | | | | | |
| 1 | 坏(H) | 10.8 | 5.0 | － | D | a 1 | 輝石，赤色スコリア粒 | 普通 | 暗褐色 | 覆土 | 4/5 | |
| 2 | 坏(H) | 12.6 | 6.1 | － | D | a 1 | 輝石，赤色スコリア粒 | 普通 | 橙褐色 | 覆土 | 完形 | 内面剥落 |
| 3 | 鉢(H) | 11.6 | 10.6 | － | B | b 1 | | 良好 | 暗褐色 | 覆土 | 1/2 | 外面上部煤付着か |
| 4 | 高杯(H) | 16.0 | － | － | A | | 輝石，赤色スコリア粒 | 普通 | 赤褐色 | 覆土 | 1/8 | 内面剥落 |

第12表　ＳＫ－01土器観察表



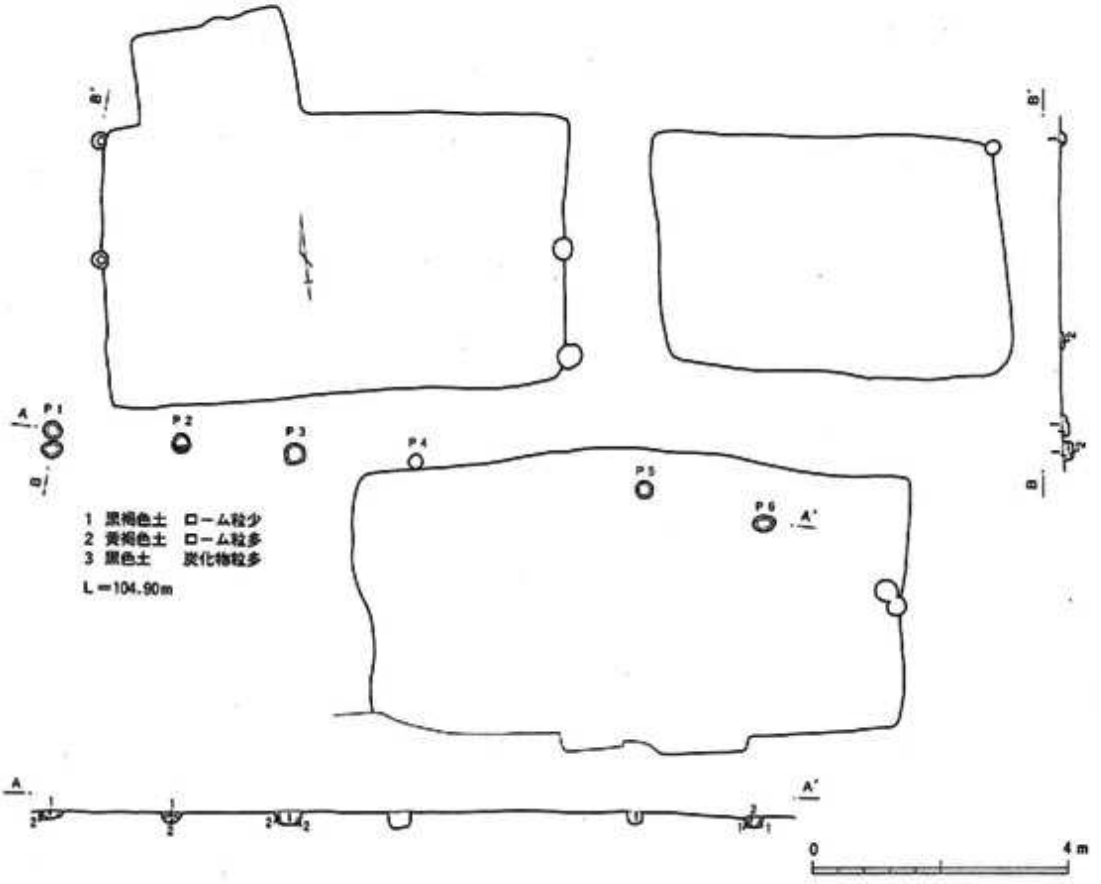

第33図　ＳＫ－02出土遺物実測図

| No | 器種 | 寸法（cm） | | | 形態分類 | 成・整形手法分類 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 出土状態 | 残存量 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 口径 | 器高 | 底径 | | | | | | | | |
| 1 | 高坏(H) | 15.6 | － | － | A | a 1 | 石英，赤色スコリア粒，輝石 | 良好 | 淡褐色 | 覆土 | 1/4 | |
| 2 | 甕(H) | － | － | － | B | a | 長石，砂粒 | 普通 | 暗褐色 | 覆土 | 1/10 | 二次焼成，煤付着 |

第13表　ＳＫ－02土器観察表

## 3　柱穴列跡

調査区のほぼ中央を北東～南東にかけて，一直線に延びる柱穴列（Ｐ１～７）が確認できた。ＳＩ－06との切り合い関係から，竪穴住居跡よりも後世のものである。但し，出土遺物が無いことから時期は不明である。それぞれの柱穴間距離は，Ｐ１－Ｐ２が1.9m，Ｐ２－Ｐ３が1.8m，Ｐ３－Ｐ４が1.75m，Ｐ４－Ｐ５が3.7m，Ｐ５－Ｐ６が1.75m，Ｐ１とＰ７は隣接する。Ｐ４－Ｐ５間以外はほぼ1.8m前後の間隔で位置する。確認面からの深さもほぼ均一で約20cmである。覆土は黒褐色でやや軟質である。




第34図　柱穴列跡平・断面図

# Ⅳ　その他の遺物

## 1　縄文時代の遺物

表土中及び竪穴住居跡覆土内から18片の縄文土器と石鏃１点が出土した。

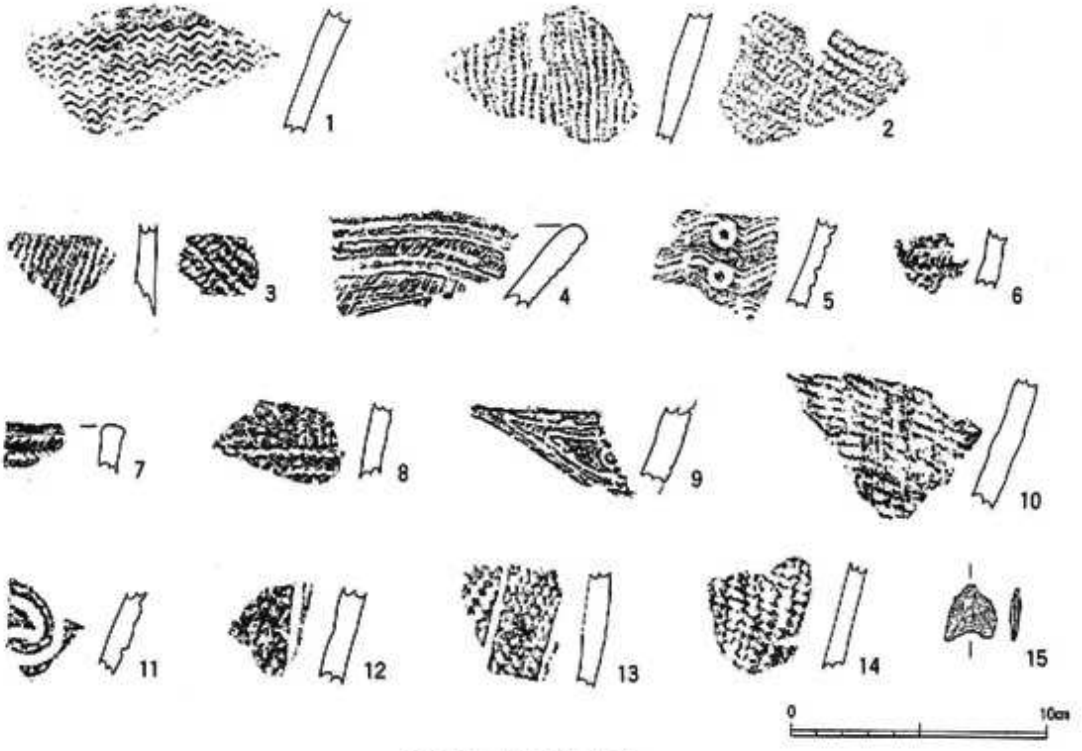
１は口縁部に向かって広がる。外面に横位の山形押型文を施す。胎土に砂粒，小石を含み，色調は暗褐色である。

２，３は同一個体と考えられる。内外面とも縄文が施される表裏縄文系土器である。外面にはＲＬの単節斜縄文が，内面にはＬＲの単節斜縄文が施される。胎土に砂粒含み，色調は暗褐色である。

４は口縁部で，外面の地文に条痕文，その上に半截竹管による２条の押し引き文が施される。胎土に白色砂粒を含み，色調は褐色である。

５は外面に半截竹管による波状文の後竹管による刺突文を施す。胎土に砂粒，繊維を含み，色調は暗褐色である。

６は外面に半截竹管による押し引き文である。胎土に白色砂粒を含み，色調は淡褐色である。




第35図　縄文時代の遺物

7は口縁部で外面に半截竹管による押し引き文を施す。胎土に白色砂粒を含み，色調は黒褐色である。

8は外面に半截竹管による押し引き文を縦位及び横位に施す。胎土に白色砂粒を含み，色調は褐色である。

9は外面に二重の沈線文の中心に竹管による刺突文を施す。胎土に砂粒を含み，色調は淡褐色である。

10は外面にＲＬの単節斜縄文を施す。胎土に砂粒を含み，色調は乳白色である。

11は外面に沈線による渦巻き文を施す。胎土に砂粒を含み，色調は乳白色である。

12は外面に縦位の沈線文，地文は摩滅のため不明である。胎土に砂粒を含み，色調は淡褐色である。

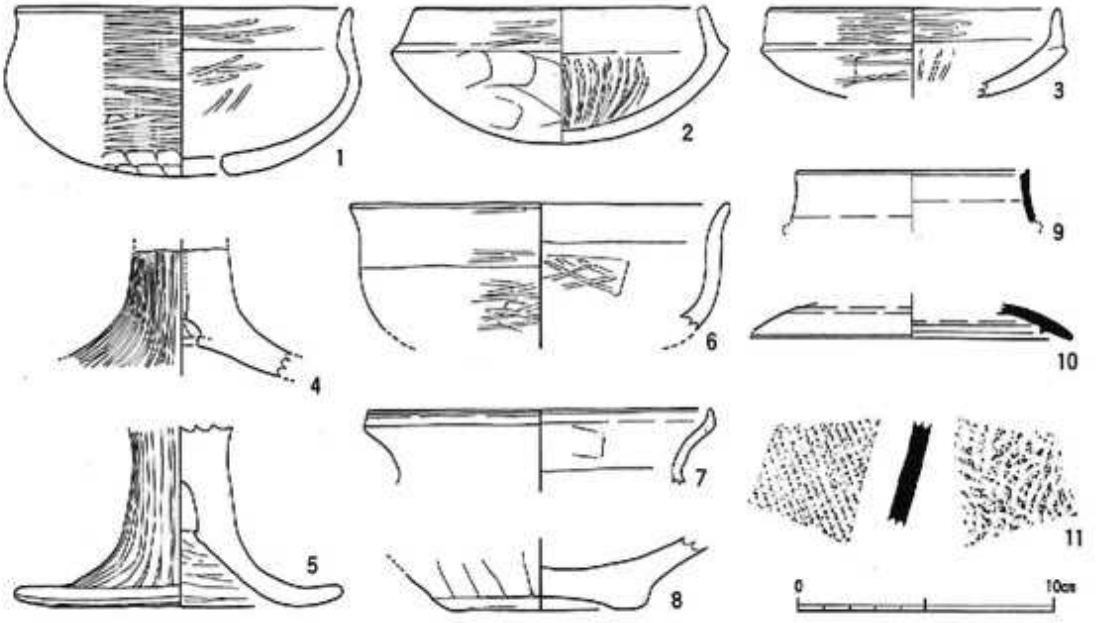
13は外面に２条の縦位の沈線文，地文にＬＲの単節斜縄文が施される。胎土に砂粒を含み，色調は乳白色である。

14は外面にＬＲの単節斜縄文が施される。胎土に砂粒を含み，色調は褐色である。

15は石鏃で，最大長1.8cm，最大幅1.8cm，厚さ0.2cm，石質は緑色凝灰岩である。

## 2　古墳時代以降の遺物

以下は，道構に伴わずに出土した遺物である。中には7，10のような若干時代の異なるものも含まれる。




第36図　古墳時代以降の遺物

| No | 器種 | 寸法（cm） | | | 形態分類 | 成・整形手法分類 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 残存量 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 口径 | 器高 | 底径 | | | | | | | |
| 1 | 坏(H) | 13.0 | 6.5 | － | A 2 | | 石英，赤色スコリア粒 | 普通 | 暗赤褐色 | 4/5 | 底面中央に焼成後穿孔，内面剥落 |
| 2 | 坏(H) | 11.2 | 5.3 | － | D | a 3 | 砂粒，輝石 | 普通 | 淡褐色 | 1/5 | |
| 3 | 坏(H) | 11.3 | － | － | E | c 1 | 石英，白色粒，赤色スコリア粒 | 普通 | 暗褐色 | 1/12 | |
| 4 | 高坏(H) | － | － | － | C | | 輝石，赤色スコリア粒 | 良好 | 赤褐色 | 1/6 | 脚部中央を棒状具で穿孔 |
| 5 | 高坏(H) | － | － | 12.8 | A 1 | | 石英，小石 | 良好 | 赤褐色 | 1/3 | |
| 6 | 坏(H) | 14.4 | － | － | A | | 密 | 普通 | 暗褐色 | 1/15 | |
| 7 | 甕(H) | 13.4 | － | － | | | やや密 | 良好 | 褐色 | 破片 | |
| 8 | 甕(H) | － | － | 7.5 | | | 小石やや多 | 普通 | 褐色 | 1/32 | |
| 9 | 坏(S) | 9.1 | － | － | | | 緻密 | 良好 | 暗灰色 | 1/18 | |
| 10 | 甕(S) | 12.6 | － | － | | | 砂粒，小石，緻密 | 良好 | 灰色 | 1/12 | |
| 11 | 甕(S) | － | － | － | | | 緻密 | 良好 | 青灰色 | 破片 | |

第14表　古墳時代以降の土器観察表

# V まとめ

## 1 遺物について

雷電山遺跡からは，実測可能な遺物として，土師器134点，須恵器７点，石製模造品４点，土製模造品１点，砥石４点，臼玉３点，鉄鏃１点が出土した。ここでは，その中でも本遺跡の時期を示すと考えられる土師器，須恵器を中心に検討を試みたい。

(1) 分類

まず，土器の検討に入るに当たって，器形及び調整の分類を行いたい。尚，以下の分類に従い土器観察表中の分類を行った。

本遺跡における器種は，土師器が坏・鉢・坩・甕・壺・甑・高坏，須恵器が蓋坏・甕・瑠である。但し，藤田氏が指摘するように，この段階における坏・埦・鉢の区分は非常に難しい（藤田1987)。特に坏Aとしたものは，埦と位置づけている場合もある（安永1992）が，ここでは煩雑さをさけるため，坏として扱う。

(器形分類)

坏

A　口縁部内面に稜を有し，口縁部が短く外傾する（内斜口縁)。口縁部に最大径がある。平底のもの（A１）と丸底のもの（A２）に分けられる。

B　口縁部が直立若しくは緩く内湾する。頸部に明確な稜を持たない。平底のもの（B１）と丸底のもの（B２）に分けられる。

C　外面に稜を有し，口縁部が短く内湾あるいは内傾する。頸部に最大径がある。口縁部高／器高が1/4前後のものである。平底のもの（C１）と丸底のもの（C２）に分けられる。

D　丸底で，体部外面中位に明瞭な稜を有し，口縁部が内傾するもの。口縁部高／器高が1/3以上のものである。

E　丸底で，体部外面中位に明瞭な稜を有し，口縁部が直立するもの。口縁部高／器高が1/3以上のものである。

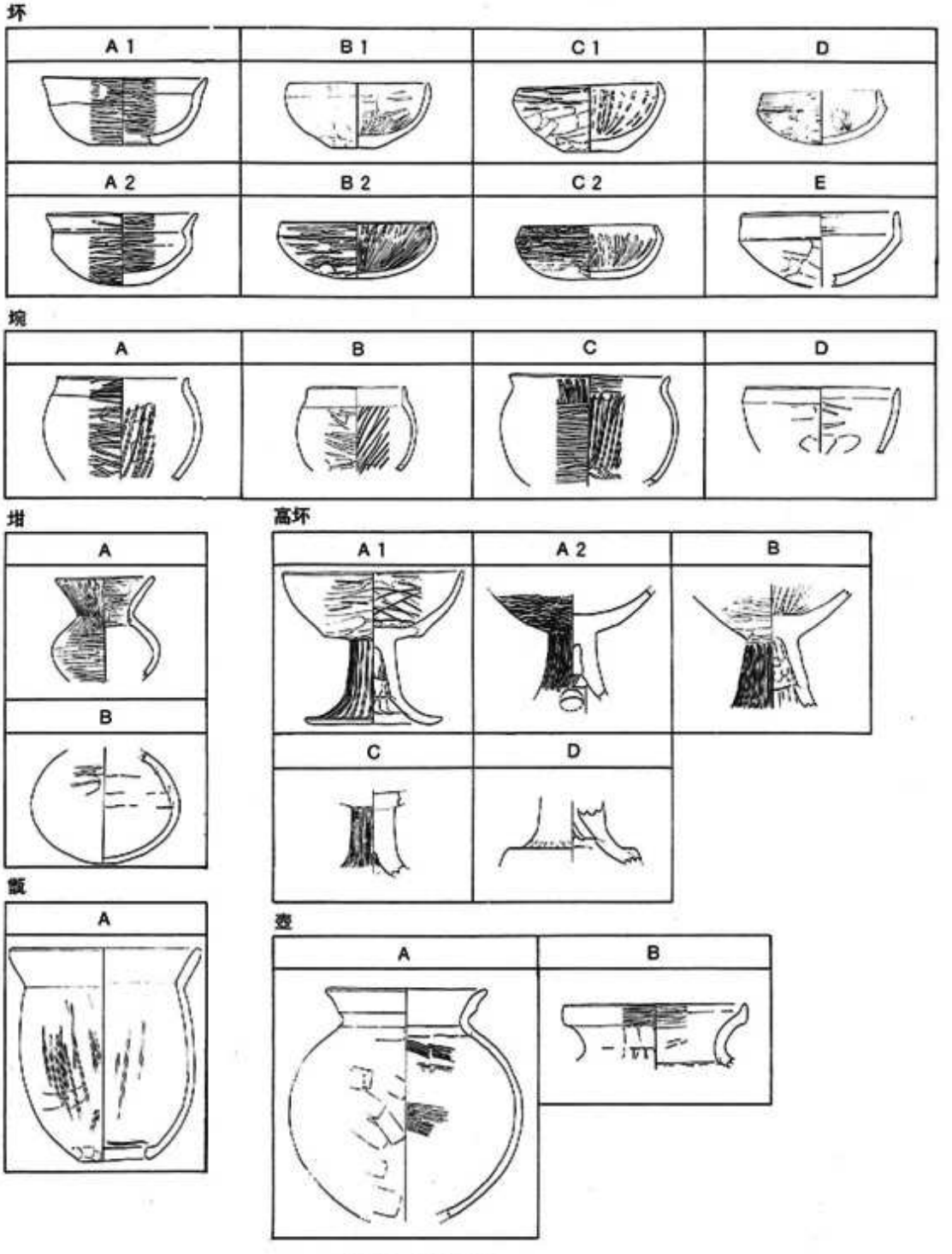
鉢

A　口縁部が内湾あるいは内傾するもの。

B　口縁部が短く立ち上がるもの。

C　口縁部が短く外反するもの。

D　体部から口縁部にかけて直線的にのびるもの。




第37図　器形分類(1)

**坩**

A　小形で，偏平気味の胴部をもち，口縁部が直線的なもの。

B　大形で，球形に近い胴部のもの。

**甕**

A　口縁部が「く」字に外反するもの。

B　頸部で一旦直立してから開く「コ」字状の口縁を呈し，口唇部が丸くおさまるもの。

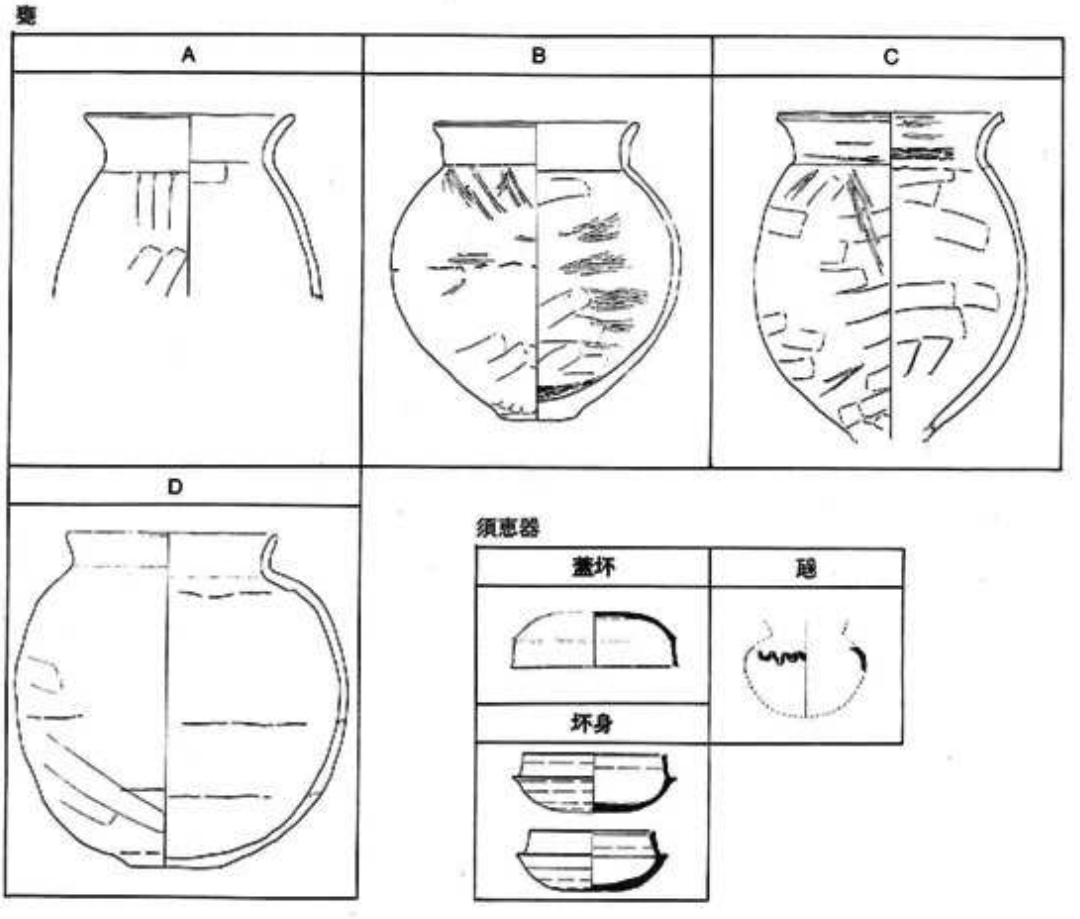
C　頸部で一旦直立してから開く「コ」字状の口縁を呈し，口唇部に面取りのみられるもの。

D　口縁部が直立し球形の胴部を持つもの。

**壺**

A　球形で，口縁部外面に明瞭な稜を有するもの。

B　頸部で外反したのち，口縁部が直立するもの。




第38図　器形分類(2)

**高坏**

A　坏部は，坏部下端に稜を有し内湾気味に立ち上がり，脚部は柱状で裾部で屈曲して大きく開くもの。脚部に穿孔の無いもの（A１）と有るもの（A２）に分けられる。

B　坏部は，稜を持たず椀状で，脚部が「ハ」字状に開くもの。

C　中実柱状のもの。

D　脚部に突帯状の稜を有するもの。

**甕**

A　筒抜けのもの。全体がわかるものは５号住25だけである。25は緩く外反する口縁部にあまり胴の張らない胴部を有す。

**(調整分類)**

**坏**

a　内面口縁部のヨコナデをそのまま残し，底面を密に放射状ヘラミガキ，外面口縁部ヨコナデのもの。

1　体部ナデ・ケズリ後全面ヘラミガキ。

2　体部ナデ・ケズリ後，体部のみヘラミガキ。

3　体部ナデ・ケズリ後口縁部のみヘラミガキ。

4　体部ナデ・ケズリ。

b　内面放射状ヘラミガキのもの。

1　外面口縁部ヨコナデ，体部ナデ・ケズリ後全面ヘラミガキ。

2　外面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ，体部ナデ・ケズリ。

c　内面口縁部横位のヘラミガキ，外面口縁部ヨコナデ，体部ナデ・ケズリ後全面ヘラミガキのもの。

1　底面密な放射状ヘラミガキ。

2　底面粗な放射状ヘラミガキ後横位の粗なヘラミガキ。

d　内面横位のヘラミガキ，外面口縁部ヨコナデものも。

1　体部ナデ・ケズリ後体部のみヘラミガキ。

2　体部ナデ・ケズリ後全面ヘラミガキ。

e　内面ナデ，外面口縁部ヨコナデ，体部ナデ・ケズリ後全面ヘラミガキ。

f　内面底面を一定方向にヘラミガキ，さらに口縁部を横位のヘラミガキ，外面口縁部ヨコナデ，体部ナデ・ケズリ後全面ヘラミガキ。

**鉢**

a　内面口縁部ヨコナデ，胴部ヘラナデ後縦位のヘラミガキ，外面口縁部ヨコナデのもの。

1　胴部ヘラケズリ後全面に粗な横位のヘラミガキ。

2　胴部ヘラケズリ後胴部のみ粗な横位のヘラミガキ。

b　内面口縁部ヨコナデ後横位のヘラミガキ，胴部ヘラナデ後縦位のヘラミガキ，外面口縁部ヨコナデのもの。

1　胴部ヘラケズリ後縦位の粗なヘラミガキ後，さらに胴部を横位の密なヘラミガキ。

2　胴部ヘラケズリ後縦位の粗なヘラミガキ後，さらに胴部を横位の粗なヘラミガキ。

**坩**

a　外面口縁部縦位のヘラミガキ，胴部ナデ・ケズリ後中位を横位のヘラミガキ。

**壺・壺**

a　口縁部ヨコナデ，胴部内面ヘラナデ，外面ヘラケズリ及びナデのもの。

b　胴部内面ヘラナデ，外面ヘラケズリ及びナデ後粗なヘラミガキのもの。

1　口縁部ヨコナデ後内面粗なヘラミガキ。

2　口縁部ヨコナデ。

c　口縁部内外面ヘラミガキ，胴部内面ヘラナデ，外面ハケ後ヘラミガキ。

d　口縁部内面ハケのもの。

1　口縁部外面ヨコナデ，胴部外面ハケ，内面ヘラナデ。

2　口縁部外面ハケ。

3　口縁部外面ヨコナデ，胴部外面ヘラケズリ及びナデ。

**甑**

a　口縁部内外面ヨコナデ，胴部内面ヘラミガキ，外面ヘラケズリ後ヘラミガキ。

**高坏**

a　坏部外面ケズリ及びナデ後ヘラミガキ，脚部縦位のヘラミガキ，脚部内面に紐積み痕を残すもの。

1　坏部内面放射状のヘラミガキ。

2　坏部内面横位のヘラミガキ。

3　坏部内面不規則なヘラミガキ。

以上の分類に従い分類したものを，各住居跡毎にまとめたものが第15表である。この表から判ることをまとめてみる。

（坏）

和泉式からの系譜が追える所謂「内斜口縁」と言われているＡは，実測可能なもの６点出土しているが，そのほとんどが丸底タイプのＡ２である。因みに坏全体の平底の占める割合は２割ほどである。このことは，安永氏の指摘するように（安永1992）平底から丸底へという変化において，丸底化が進んだ段階と言える。Ｃ２類はほとんどの住居跡から出土している。類例は，権現山北遺跡７号住，稲荷塚遺跡におけるＣ類，烏森遺跡におけるＥ類（田代1986），喜沢海道間遺跡におけるＢ－３類（野口1986），赤羽根遺跡47号住（岩淵ほか1984）などが挙げられる。これらの遺跡は，和泉期後半から鬼高期初頭に位置付けられている。Ｄ，Ｅ類は所謂「模倣坏」で，古

| | 坏 | | | | | | | | 鉢 | | | | 埦 | | 甕 | | | | 壺 | | 甑 | 高坏 | | | | | 須恵器 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | A1 | A2 | B1 | B2 | C1 | C2 | D | E | A | B | C | D | A | B | A | B | C | D | A | B | | A1 | A2 | B | C | D | |
| SI-01 | ○ | | | ○ | | ○ | | | | | ○ | ○ | | | ○ | | | | | | ○ | ○ | | | ○ | | TK23 |
| SI-02 | | | | ○ | | ○ | | | | | | ○ | ○ | | | ○ | | | | | ○ | ○ | | | | | |
| SI-03 | | | | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | | | | ○ | | | | | | | | ○ | | | |
| SI-04A | | ○ | | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | |
| SI-04B | | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | ○ | | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | | | | | |
| SI-05 上層 | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | | | TK47 |
| SI-05 下層 | | ○ | | | | ○ | | | ○ | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | | |
| SI-06 | | | ○ | ○ | ○ | | | | | ○ | | | | | ○ | ○ | | | | | | ○ | | | | | |
| SI-07A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | TK208 －TK23 |
| SI-07B | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | ○ | | | | | | | ○ | | ○ | | | |
| SI-08 | | ○ | | | | | | | | ○ | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | | | | |

第15表　器種構成表

代下野の土器様相を検討した田熊・梁木両氏分類のC・D類（田熊・梁木1989），稲荷塚遺跡における藤田氏分類B類に当たる。現在でも，この「須恵器模倣坏」の出現をもって，[注①] 鬼高期の始まりとするのが一般的である（服部・岡田1968）。

（鉢）

坏よりも深目のものをここでは鉢として取り扱った。烏森遺跡分類においては埦として位置づけられ，坂野氏分類では鉢の範疇に位置づけられている（坂野1991）。今回の分類においては，埦とするには深目のものをまとめて扱ったため，埦よりも鉢の方が適当と考えた。この器種はほとんどの住居跡において1～2点出土している。

（坩）

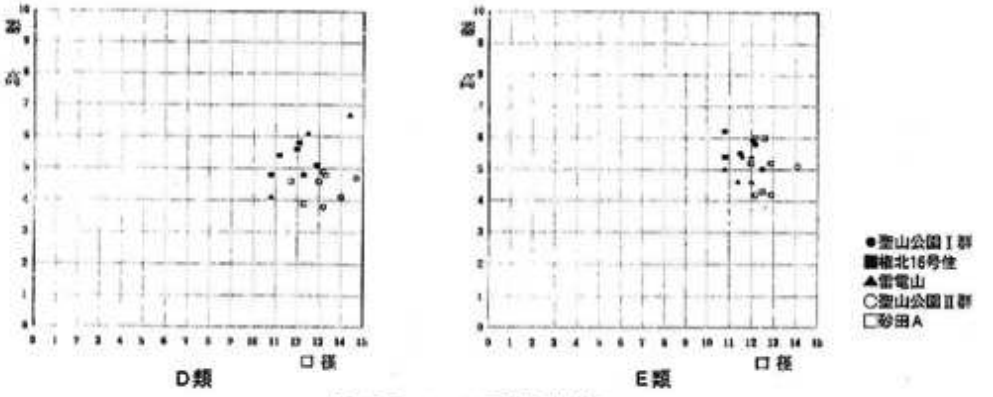
坩は少量ではあるが出土が見られる。全体像のわかるものはＳＩ－04Ｂの1点のみであるが，口縁部は直線的で，胴部が偏平気味である。類例は，烏森遺跡分類Ｅ類に近似するが，本例は口径が胴部径を下回っており違いを見せる。この点では喜沢海道間遺跡8号住例は大形ではあるが，形態的には似ている。

（甑）

甑も少量ではあるが出土が見られる。これも全体像のわかるものはＳＩ－05上層の1点のみである。ここでは他のものが破片であるため分類はしなかったが，ＳＩ－01出土のものは孔径が小さく底の作りが分厚いことから鉢形の形状を示すタイプのものと考えられ，ＳＩ－02出土のものは，底部から胴部への開き具合から甕形のタイプと考えられ，ＳＩ－05上層のものが筒形であるのと違いをみせる。

（壺）

Ａはあまり類例を見ないが，外形だけを見ると，二重口縁壺の成れの果てのような形をしている。この点だけを取ってみれば，二ノ谷遺跡Ｄ４・７－２に類似するが，口縁部内面が単口縁と同様な外反の仕方をする点違いを見せる。Ｂは権現山北遺跡7号住，16号住に見られる有段口縁の壺である。二ノ谷遺跡表土中及びＤ６・ＳＫ－038なども同様のものである。坂野氏などはこれらを




第39図　D・E類法量比較図

山陰・北陸系と位置づけている(坂野1991)。和泉期～鬼高期初頭にかけてみられる土器である。

(高坏)

全体像のわかるものはＡ１のみである。Ａ１の類例としては，稲荷塚遺跡２住，８住，喜沢海道間遺跡８号住などが挙げられる。和泉式本来の高坏に比べると，器高に対して坏部の占める割合が1/2近くと高くなり，坏部の開き方も直線的から内湾気味へと変化している。前者に関しては，須恵器高坏の影響を受けているかのようにもみえる。尚，稲荷塚遺跡でも述べられているように，２住例→８住例への形態変化が考えられるとの指摘もあり，なお一層の短脚化が進んでいくと考えられる。Ａ２は烏森遺跡等で小数例見られる程度である。Ｂは全体像はわからないが，坏部下端の稜を持たない点特徴的である。このような稜を持たないタイプは布留系高坏・後期型高坏(米田1991) 等に見られる。Ｄのように脚部に段を持つものは，稲荷塚２住，４住，赤羽根遺跡高坏Ｄ類などがこれに当たる。

(甕)

ここでは，口縁部の形態のみで分類をした。本来ならば胴部形態を含めて，長胴化傾向におけるどの位置に当たるものかを加味すべきであるが，全体像のわかるものが少ないため，このような分類となった。因みに，「く」の字口縁と「コ」の字口縁の割合はほぼ半々である。尚，Ｃは口縁部形態は「コ」の字であるが，口縁端部が面取りをされシャープであり，須恵器的な印象を与える。

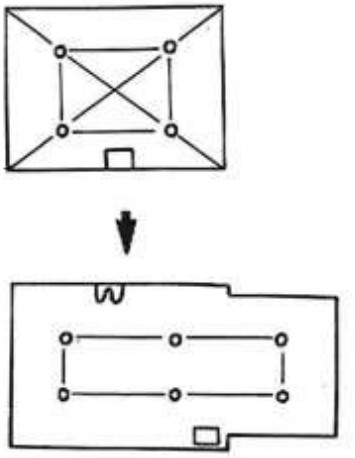
(須恵器)

須恵器蓋坏，坏身，甑が出土している。甑は破片のため何とも言えないが，蓋坏，坏身は図面復元で全体像がわかる。まず，坏身の方であるが，ＳＩ－01とＳＩ－05から出土している。いずれも上層からの出土である。特にＳＩ－05に関しては，出土状態でも述べたように，住居跡が埋まる途中で投棄された状態で出土した一群の中に含まれる。口径が9.6cmと小さく，たちあがりが内傾し明瞭な段を有し，底部は丸い等の点から，中村氏の陶邑編年でいくと一番口径の小さくなる段階であるＩ－５段階(ＴＫ－47)に位置づけられる。これに対し，ＳＩ－01は法量的にはこれより大きく，たちあがりも直立的であり口縁部は内傾する段を有する。但し，底部の回転ヘラケズリは2/3前後である。このことからＩ－４段階(ＴＫ－23)に位置づけられる。蓋坏に関しても，天井部がやや丸みを帯び，口縁部が直下に下がり，端部に明瞭な段を有し，天井部の2/3前後まで回転ヘラケズリである点などから，Ｉ－３～Ｉ－４段階(ＴＫ－208～ＴＫ－23)に位置づけられる。

以上の点からまとめてみると，坏に関しては，Ａ・Ｃ類がセット関係のものと，Ｃ・Ｄ・Ｅ類がセット関係のものとに分けられる。後者に当たるのがＳＩ－03，ＳＩ－04Ｂ，ＳＩ－07Ｂである。坏以外の器種についてはほとんど同様の器種構成になるが，強いて言えば，高坏Ａ１においてＳＩ－01のものとＳＩ－05上層のものを比べると脚部の作りなどから，ＳＩ－05上層のものがやや後出的である。このことは，伴出する須恵器の段階差とも一致する。このことから，ほぼ同様の土器様相ではあるが若干の時間差があることを窺わせる。

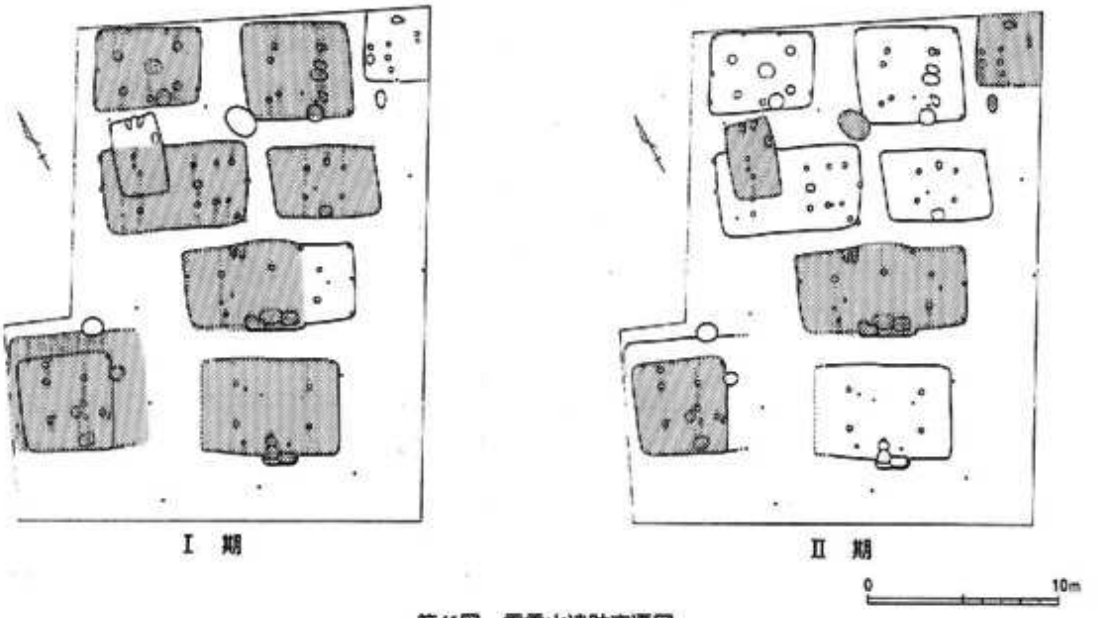
## 2　遺構について

全部で10軒の竪穴住居跡が確認できた。その内，切り合い関係の見られたものは，ＳＩ－04ＡとＳＩ－04Ｂ，ＳＩ－07ＡとＳＩ－07Ｂである。またカマドを持つ住居跡はＳＩ－04ＢとＳＩ－06の２軒で，ＳＩ－08を除く他の住居跡は炉である。さらにＳＩ－06に関して言えば，柱穴の配置及び切り合い関係から第40図のような住居の拡張が考えられる。そして，この拡張の際にカマドが設置されたものと考えられる。このように遺構の面から見ると，２時期あることが考えられ，この点は先に述べた遺物の検討とも一致する。遺物及び切り合い関係などから考えると，第41図のような変遷が考えられる。Ⅰ期がＳＩ－01，ＳＩ－02，ＳＩ－04Ａ，ＳＩ－05，ＳＩ－06，ＳＩ－07Ａ，ＳＩ－08，Ⅱ期がＳＩ－03，ＳＩ－04Ｂ，（ＳＩ－06），ＳＩ－07Ｂ，それからＳＩ－05上層の土器群がこれに当たると考えられる。



第40図　ＳＩ－06変遷模式図

次に，この遺跡における特徴的な点をいくつか挙げてみる。まず１つ目は，住居跡の配列である。その整然とした配置は，当初から計画的に配置されたかのようである。このような整然とした並び方をするものとしては，居館跡における掘立柱建物跡の配置形態に類似する。例えば，和歌山県鳴滝遺跡（和歌山県教委1983）や，大阪府難波宮下層遺跡（大阪市文化財協会1989）な




第41図　雷電山遺跡変遷図

どである。竪穴住居跡の配置についても，居館跡においてはある程度整然としているようである。例えば群馬県丸山遺跡（西田1987），荒砥荒子遺跡（鹿田1984），原之城遺跡（中澤1988）など群馬県内の5世紀後半～6世紀中頃にかけての居館跡内にこのような配置が見られる。但し，本遺跡においては，これらの居館跡に特有に見られる濠あるいは冊による区画が調査区内においては見られない。その代わりになるかどうかわからないが，古墳の周溝のように谷が台地を取り巻くことは地理的環境の所で述べた通りである。

次に，それらを構成する個々の住居跡の平面が長方形を基調[注②]とする点である。このように，平面が長方形を主体とする住居跡構成を示すこの時期の遺跡の類例はほとんどない。普通，集落跡における長方形竪穴の占める割合は，稲荷塚遺跡で11軒中3軒，喜沢海道間遺跡で10軒中1軒，砂部遺跡で45軒中8軒（藤田ほか1990）など1～2割程度である。[120]また，それらは規模的にも小さなものが多い。これに対し，本遺跡においては10軒中確実に7軒が長方形を呈し，しかも大形のものを含む。これも，遺跡全体として見た場合には違った傾向になるとも考えられるが，とにかく，遺跡の南東端においては，このような長方形竪穴の集中が見られる。先に述べた一般に見られる小形長方形竪穴に関しては，炉・貯蔵穴・柱穴等の内部施設が完備していない場合が多いことから，竪穴の使い分けが指摘されているが（岩崎1983），本遺跡においては炉・貯蔵穴・柱穴をそれぞれが完備されていることから，個々の竪穴が一つの消費単位として成り立っているといえる。

また，ＳＩ－06，ＳＩ－08のように南側中央に張り出しピットを持つ住居跡が存在する。張り出しピットを伴う大形住居跡に関しては，芹沢氏が関東を中心に類例をまとめ考察されているが（芹沢1993），その出現時期は5世紀中葉から後半段階と考えられ，概ね6世紀前葉から中葉にかけてが多いようである。この点に関しては，本遺跡もこの時間幅の中に位置付けられる。また，注目すべき点は，「一遺跡内に複数存在する場合においては，……互いに隣接し主軸方向も一定する方向にある。」との指摘である。そしてこれらは，「集落内において最も大型ないしはこれに準ずる住居跡にほぼ限定される」とのことである。尚，この種の建物の位置付けを芹沢氏は，遺跡の立地等を加味し，新田開発を目的とした新興集落の中心的建物との位置づけをされている。本遺跡における竪穴住居跡がそれに当たるかは，広い遺跡内の一部での調査結果であることから断定はできない。

いずれにせよ，計画的な配置の基に作られた集落であることには間違いなく，またそれを構成する個々の住居跡も長方形を基調とする点で特徴的であり，これらのことから，一般の集落跡とは違った位置付けを考える必要があろう。尚，歴史的環境のところでも述べたが，本遺跡から南へ2.5kmのところには本県の古墳時代中期後半を代表する塚山古墳群が所在する。その中の塚山西古墳からはＴＫ－23を中心とする須恵器が出土していることから，本遺跡の存続時期と平行する時期にこの古墳が造られたと考えられる。また，かつて本遺跡からは古手の石製模造品が出土していることからすると，今回の調査区の北側にさらに古い時期の集落が営まれていた可能性が

考えられ，このことからすると，すでに塚山古墳造営時点から係わっていた集団の遺跡とも考えられる。

| | 平面形 | 規模(m) 東西×南北 | 主軸方向 | 壁溝 | 主柱穴 | 壁柱穴 | 貯蔵穴 | 炉 | カマド | 建て替え回数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SI−01 | 長方形 | 5.4×3.9 | N−25° −E | − | 4 | 7 | 1 | 1 | − | − | |
| SI−02 | 長方形 | 5.4×4.6 | N−21° −E | − | 8 | 3 | 1 | 2 | − | 1 | |
| SI−03 | 不明 | 不明 | N−23° −E | − | − | − | − | − | − | − | |
| SI−04A | 長方形 | 7.0×4.2 | N−26° −E | − | 6 | 4 | − | 1 | − | − | SI−04Bに切られる |
| SI−04B | 長方形 | 2.45×4.0 | N−28° −E | ○ | 1 | − | 1 | 1 | ○ | − | SI−04Aを切る |
| SI−05 | 長方形 | 5.45×3.65 | N−25° −E | ○ | 4 | − | 1 | 1 | − | − | 覆土上層に土器だまり |
| SI−06 | 長方形 | 8.45×4.7 | N−23° −E | ○ | 6 | 5 | 3 | − | ○ | 1 | 拡張 |
| SI−07A | 不明 | 不明 | N−21° −E | − | − | − | − | − | − | − | SI−07Bに切られる |
| SI−07B | 方形 | 4.8×4.95 | N−21° −E | ○ | 4 | − | 1 | 1 | − | | SI−07Aを切る |
| SI−08 | 長方形 | 不明×4.45 | N−23° −E | ○ | 4 | − | 2 | − | − | − | |

第16表　住居跡一覧

## 3　結びにかえて

最後に田川・姿川流域の古墳時代中期後半の集落の変遷について若干の検討を加えてみる（第17表）。

Ⅲ，Ⅳは５世紀を４等分した時の第Ⅲ四半期，第Ⅳ四半期の意味で使った。また，Ⅳａ，Ⅳｂ[注④]に関しては，今までⅢからⅣへの変遷において須恵器模倣坏の出現をメルクマールとしながらも各遺跡各様の展開が見られることがわかってきている。すなわち，今まで鬼高Ⅰ期の代表格とされてきた権現山北遺跡16号住の土器様相を見てみると，坏の８割が「模倣坏」で占めている。これに対し，雷電山Ⅰ群のように「模倣坏」をほとんど含まない土器組成を持つ遺跡の調査例が増えつつある。このことから，今回の調査で確認できた雷電山Ⅰ期の段階のように，まだまだ和泉的様相を残しながらも，高坏の短期化，Ｃ類坏の小型化など新しい動きがみられ，しかし，Ｄ，Ｅ類（模倣坏）がほとんど見られない段階[注⑤]があり，その後模倣坏が主流になる段階へとの変遷が考えられ，今まで漠然と言われてきた「模倣坏」導入前後のあり方が若干ではあるが見えてきたような気がする。尚，カマドの導入については，早いところではⅣａ段階にあるが，基本的にはⅣｂ以降から一般化するようである。

いずれにせよ，この時期は須恵器の導入，カマドの導入など新しい生活スタイルの始まりの時期であり，これらの導入にあたっては各集落毎に様々な受け入れ方をしたであろう。今後さらに地域毎あるいは遺跡毎の詳細な検討を行ってきたい。

| | 姿川流域 | 田川流域 | 基　準 | | 塚山古墳群 |
|---|---|---|---|---|---|
| Ⅲ | 向野原ＳＩ－01 | 権北７号住　鳥森 | 坏Ｃ類出現<br>高坏減少 | ＴＫ－216<br>ＴＫ－208 | 塚山古墳 |
| Ⅳａ | 稲荷塚 | 雷電山Ⅰ群　喜沢海道間 | 坏Ｃ類小型化<br>高坏短脚化 | ＴＫ－23 | 塚山西古墳 |
| Ⅳｂ | 聖山Ⅰ群　雷電山Ⅱ群 | 権北16号住 | 坏Ｄ・Ｅ類主体<br>坏Ａ消滅[注⑥] | ＴＫ－47 | 塚山南古墳 |

第17表　古墳時代中期後半編年案　　＿＿＿はカマドあり

（注）

①最近では，今まで言われていた「模倣坏」以前にすでに須恵器の模倣が始まっていたとの見解が中村氏，坂野氏などから出されており，特に，中村氏においては，「模倣坏」以前の「源初坏」の提唱がなされている。また，最近は和泉式や鬼高式という言い方をせず，古墳時代中期土器，古墳時代後期土器という言い方もされている。ここでは一応従前の考え方を踏襲しておく。

②便宜上，ここでは長軸長と短軸長との差が50cmを越えたものを長方形として扱う。

③但し，自治医大周辺遺跡においては，烏森遺跡が12軒中6軒，三ノ谷遺跡が9軒中3軒，二ノ谷遺跡が6軒中1軒となる。この3遺跡は中期後半のほぼ同一時期に営まれた集落との見解であるが，烏森遺跡のみが長方形竪穴の占める割合が多い点注目される。

④正確にはⅣbは5世紀末～6世紀初頭を想定している。

⑤一部に模倣坏あるいは源初坏とも呼べるものが入ってきているが，基本的にはⅣbの段階になり模倣坏が器種組成の中心になると考える。

⑥この段階には坏Aはほとんどみられなくなる。

（参考文献）


イ　岩崎卓他　1983「古墳時代集落研究序説」『古墳文化の新視覚』古墳文化研究会

岩淵一夫ほか　1984『赤羽根』（財）栃木県文化振興事業団

オ　大阪市文化財協会　1989『難波宮跡・大坂城跡発掘調査中間報告』

シ　鹿田雄三他　1984「荒砥荒子遺跡の方形区画遺構」『研究紀要1』群馬県埋蔵文化財調査事業団

セ　芹沢清八　1993「第3節　張り出しピットを伴う大型住居跡について」『砂田A遺跡』栃木県教育委員会

タ　田熊清彦・梁木誠　1989「古代下野の土器様相（Ⅰ）」『栃木県考古学会誌』第11集　栃木県考古学会

田代隆　1986『烏森遺跡』（財）栃木県文化振興事業団

田代隆・小森哲也　1988『二ノ谷遺跡』（財）栃木県文化振興事業団

ナ　中澤貞治　1988『原之城遺跡発掘調査報告書』伊勢崎市教育委員会

中村浩　1978『陶邑』Ⅲ

ニ　西田健彦　1987『丸山・北原』群馬県教育委員会

ノ　野口静男　1986『喜沢海道間遺跡発掘調査報告書』小山市教育委員会

ハ　服部敬史・岡田淳子　1968「土師器の編年に関する試論」『八王子中田遺跡』八王子中田遺跡調査会

坂野和信　1991「和泉式土器の成立について」『土曜考古』16　土曜考古学会

フ　藤田典夫ほか　1987『稲荷塚・大野原』（財）栃木県文化振興事業団

藤田典夫ほか　1990『砂部遺跡』（財）栃木県文化振興事業団

ヤ　安永真一　1992「二宮町高田出土の古墳時代中期の土師器」『栃木県考古学会誌』第14集　栃木県考古学会

ヨ　米田敏幸　1991「土師器の編年　1近畿」『古墳時代の研究』6土師器と須恵器　雄山閣

ワ　和歌山県教育委員会　1983『鳴滝遺跡調査概報』

# 図　版

① 遺跡遠景（上が北）

② 調査区全景（北より）

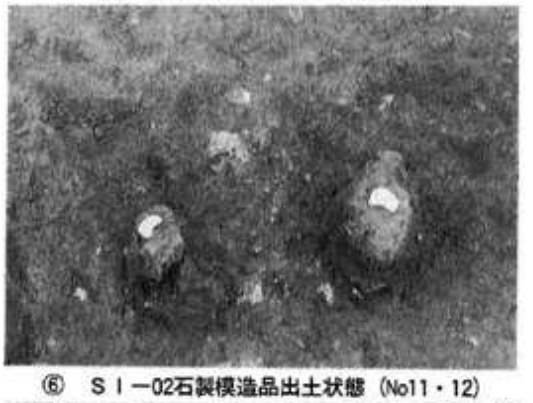
① 調査区全景（南東より）

② ＳＩ－01完掘状態（南より）

③ ＳＩ－01遺物出土状態（南より）

④ ＳＩ－01遺物出土状態（No 8）

⑤ ＳＩ－02完掘状態（南より）



⑥ ＳＩ－02石製模造品出土状態（No11・12）

⑦ ＳＩ－03完掘状態（南より）

⑧ ＳＩ－03遺物出土状態（南西より）

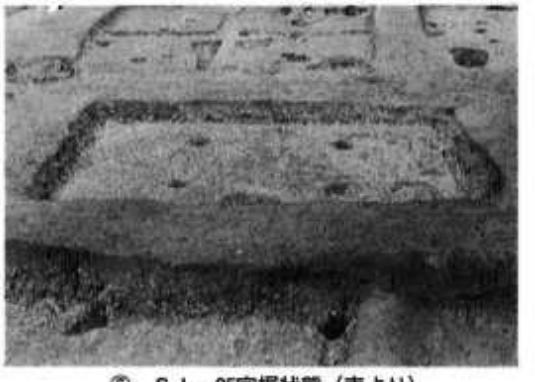
① ＳＩ－03粘土出土状態（南より）

② ＳＩ－04Ａ・Ｂ完掘状態（南より）

③ ＳＩ－04Ａ・Ｂ遺物出土状態（南より）

④ ＳＩ－04Ｂ遺物出土状態（北東より）

⑤ ＳＩ－04Ｂカマド（南より）



⑥ ＳＩ－05完掘状態（南より）

⑦ ＳＩ－05遺物出土状態（南より）

⑧ ＳＩ－05遺物出土状態（南より）

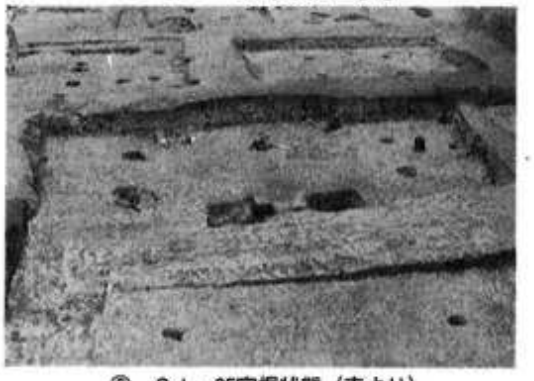
① ＳＩ－05遺物出土状態

② ＳＩ－05遺物出土状態（No32）

③ ＳＩ－05南壁際（No５他，東より）

④ ＳＩ－05土製錘出土状態

⑤ ＳＩ－05鉄製品出土状態



⑥ ＳＩ－05完掘状態（南より）

⑦ ＳＩ－06カマド（南より）

⑧ ＳＩ－06カマド内玉類出土状態

① ＳＩ－06南土坑（南より）

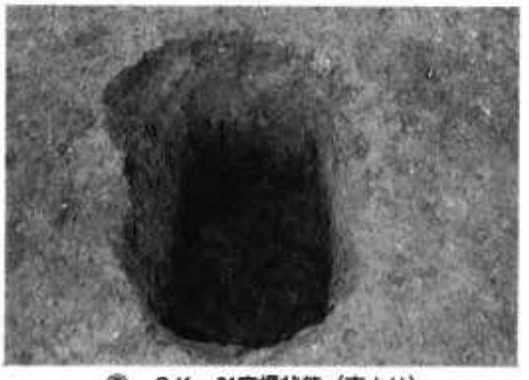
② ＳＩ－06南土坑（No1，東より）

③ ＳＩ－07Ａ・Ｂ完掘状態（南より）

④ ＳＩ－07Ｂ南土坑（西より）

⑤ ＳＩ－08完掘状態（南より）

⑥ ＳＩ－08遺物出土状態（南より）



⑦ ＳＫ－01完掘状態（南より）

⑧ ＳＫ－01遺物出土状態（南より）

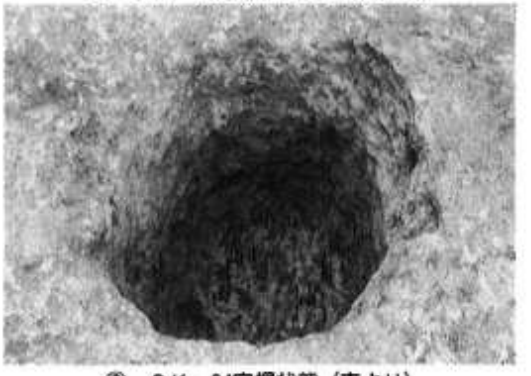
① ＳＫ－01遺物出土状態（北より）

② ＳＫ－01遺物出土状態（南より）

③ ＳＫ－02完掘状態（南より）

④ ＳＫ－02遺物出土状態（南より）

⑤ ＳＫ－03完掘状態（南より）



⑥ ＳＫ－04完掘状態（南より）

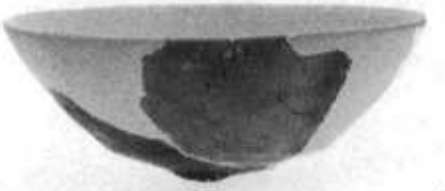
⑦ 調査作業風景

⑧ 調査作業風景

6

8

9

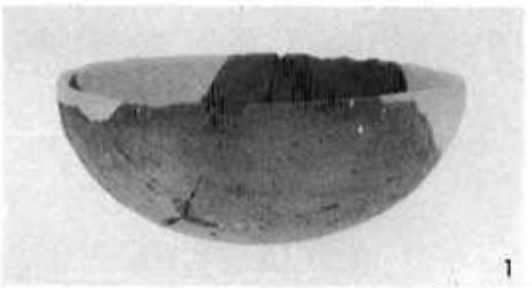


11

10

12

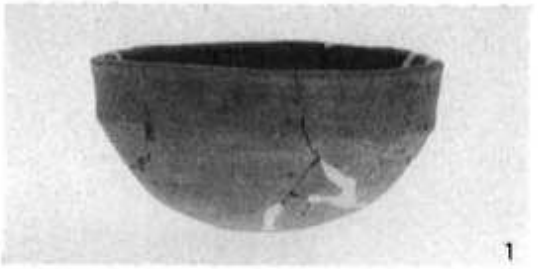
① ＳＩ－01出土土器

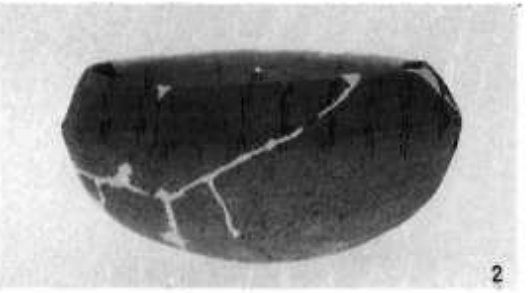


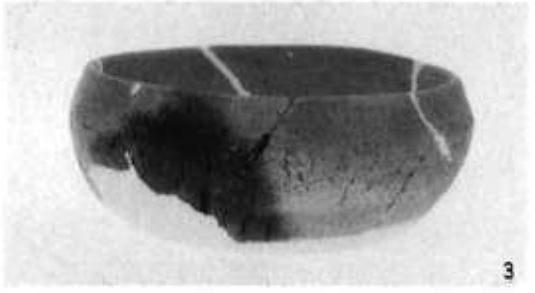
1

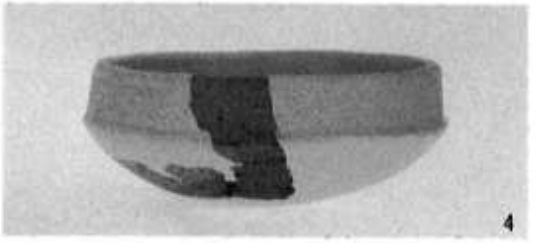
3

② ＳＩ－02出土土器


1

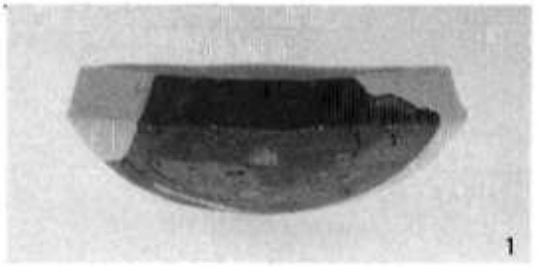

2

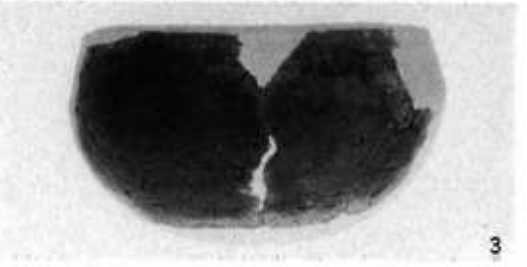

3


4

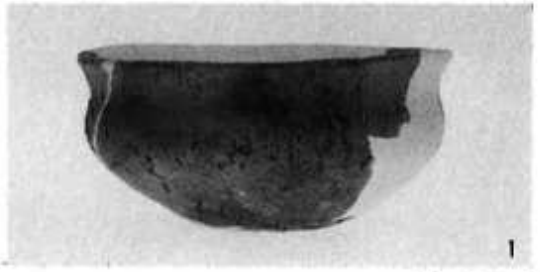
7

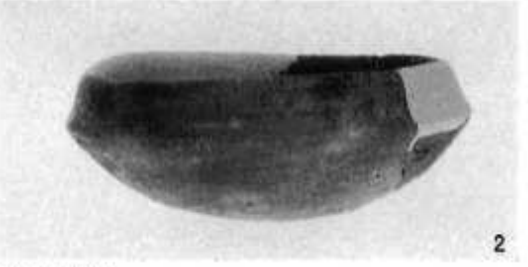
① ＳＩ－03出土土器


1

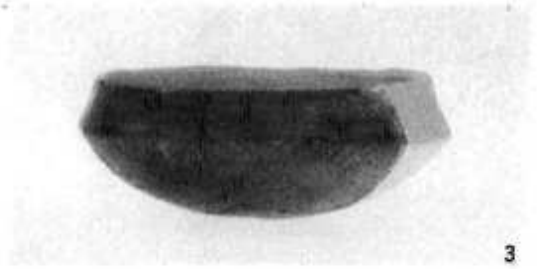

3

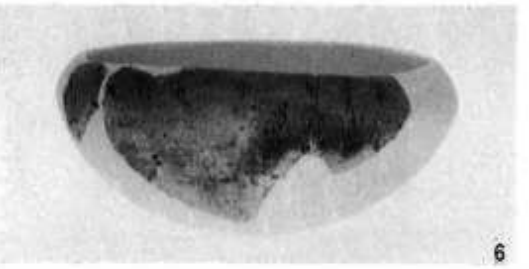
② ＳＩ－04Ａ出土土器

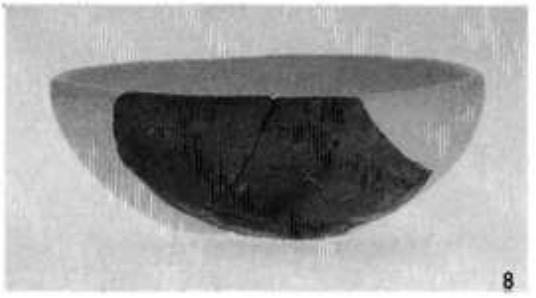

1


2

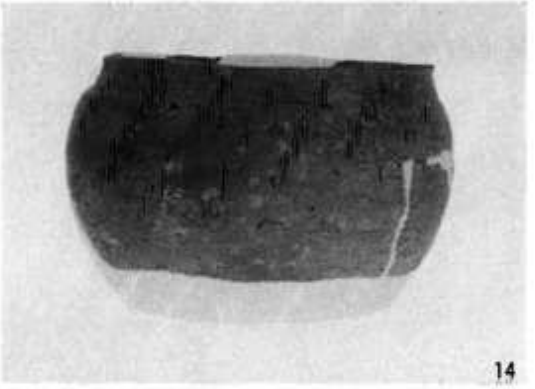
③ ＳＩ－04Ｂ出土土器(1)


3

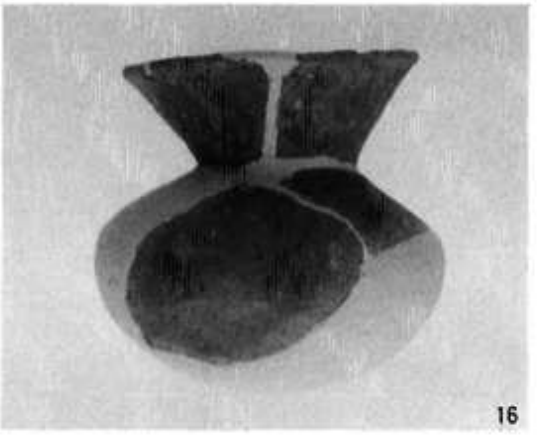

6


8

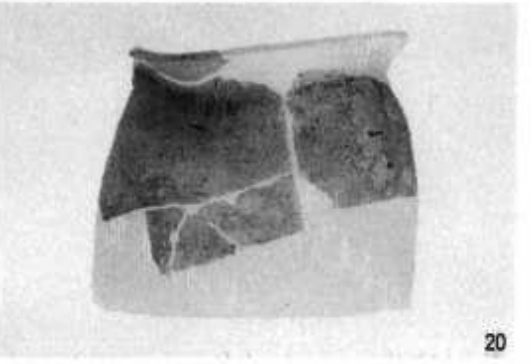
12


14

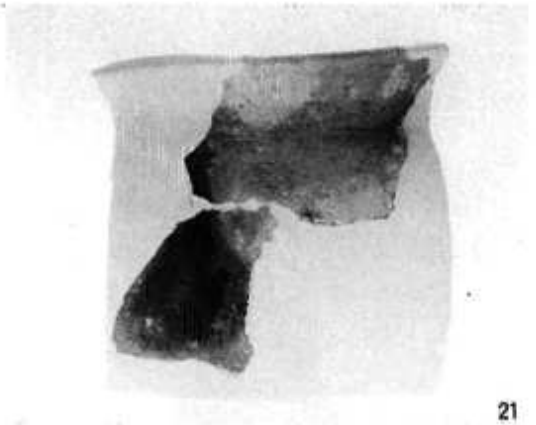
17

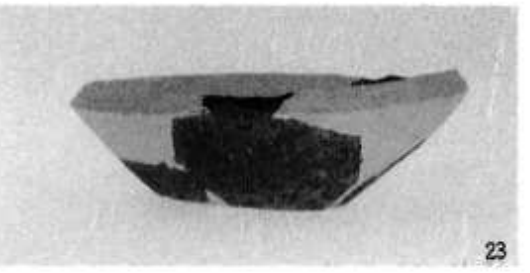

16

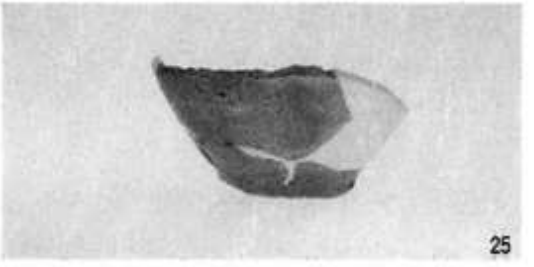
19


20

① S I ー04B出土土器(2)

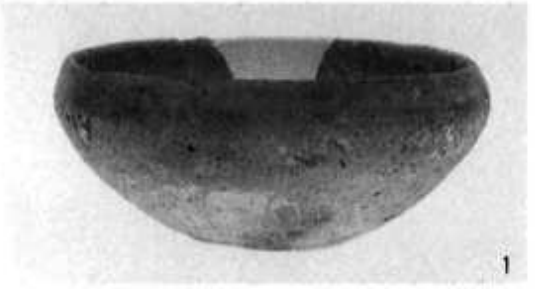

21

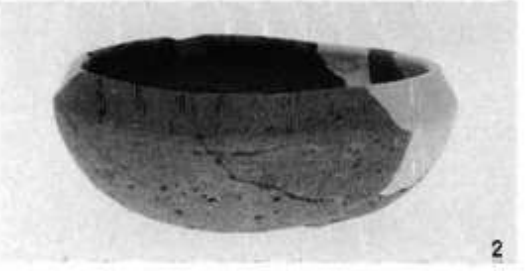

23

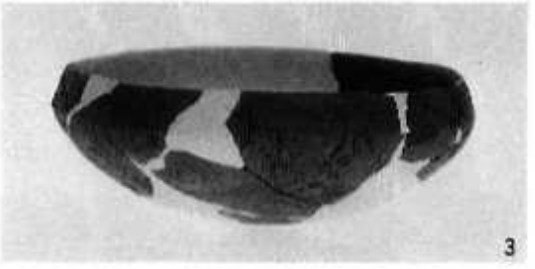

25

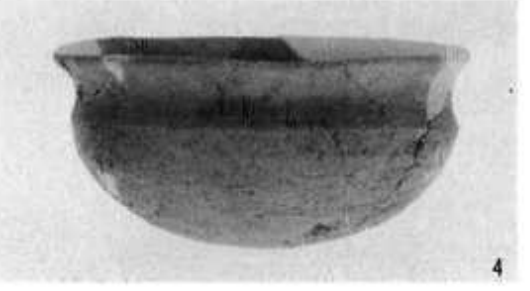
22

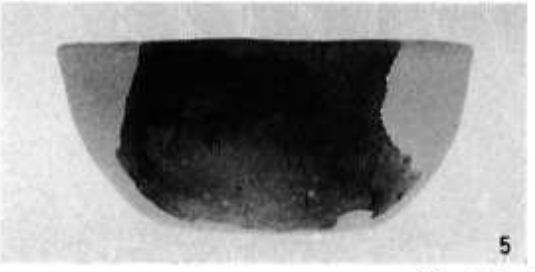
① ＳＩ－04Ｂ出土土器(3)

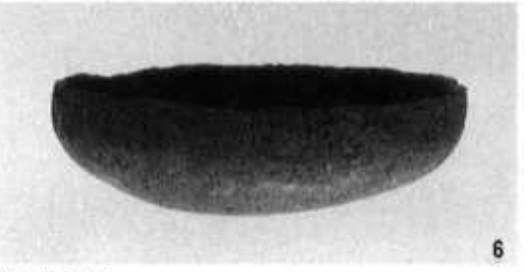

1


2

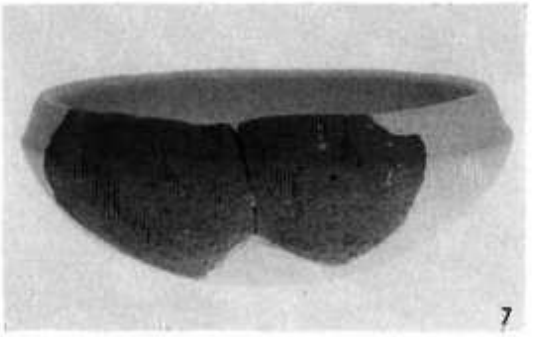

3

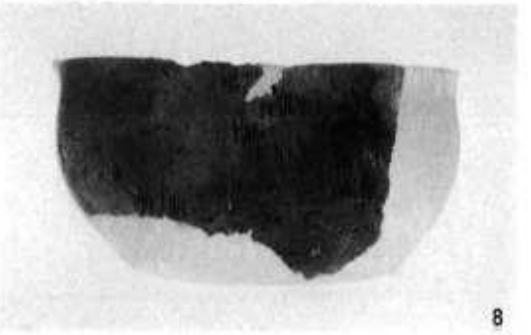

4

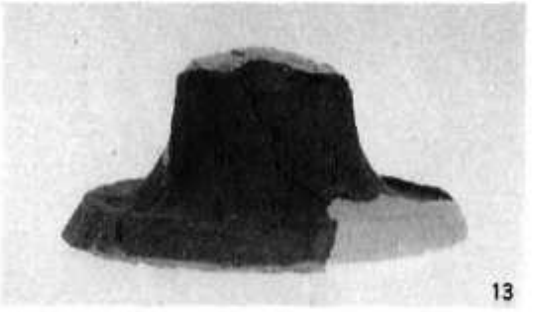

5

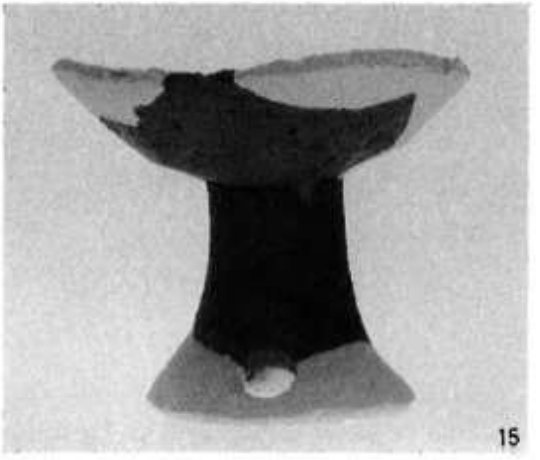

6

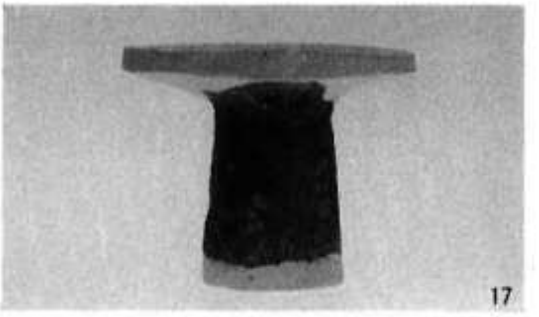
② ＳＩ－05出土土器(1)



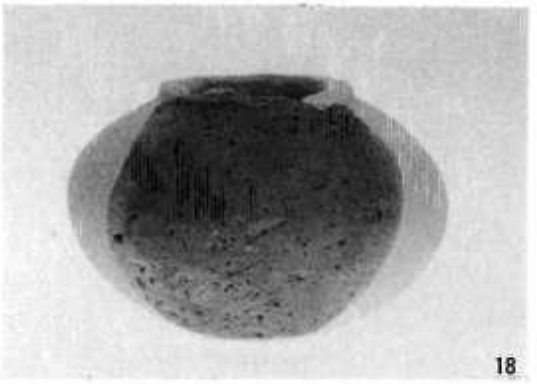



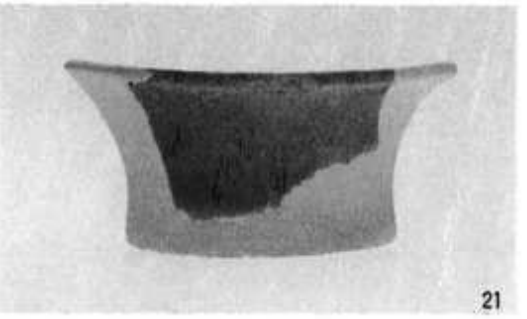


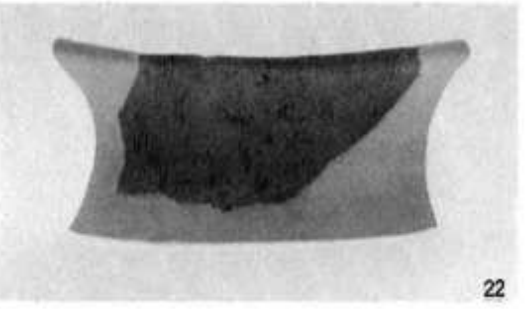


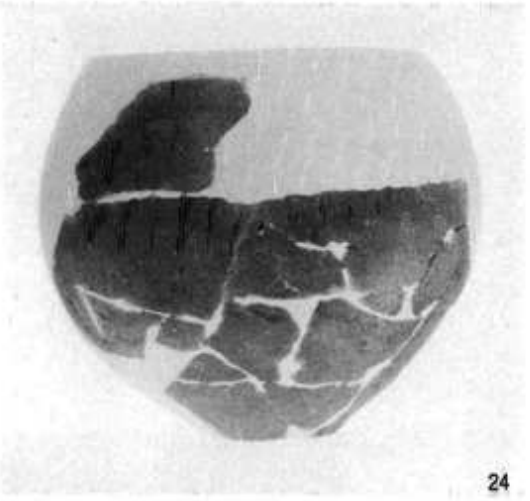




① ＳＩ－05出土土器(2)


18

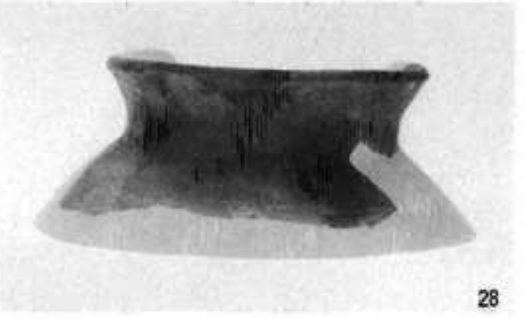

21


22

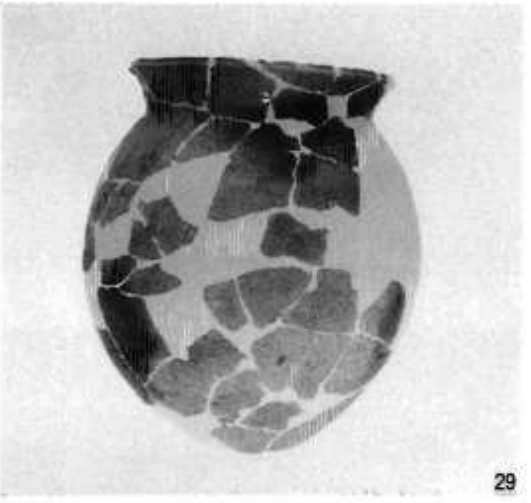

24

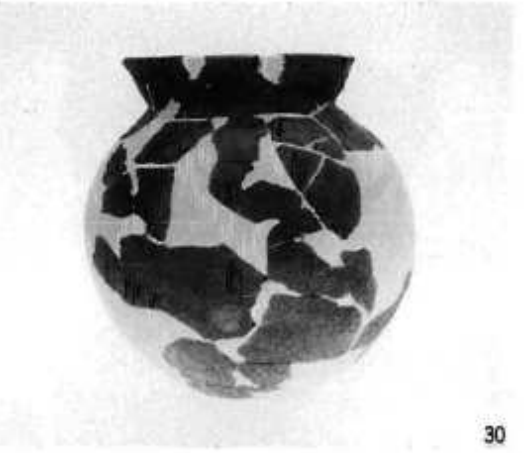
26

27


28

① ＳＩ－05出土土器(3)


29


30

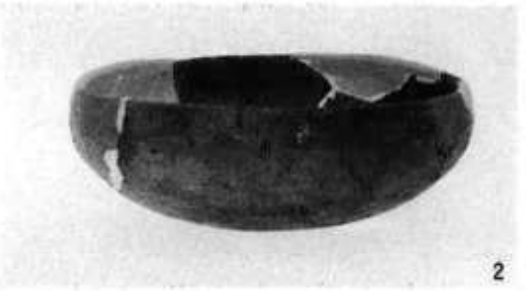
31

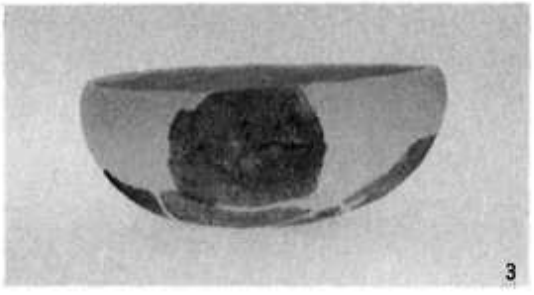
33

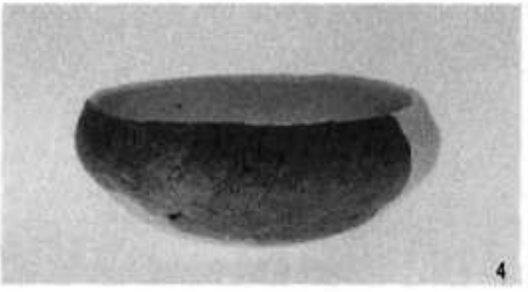
36

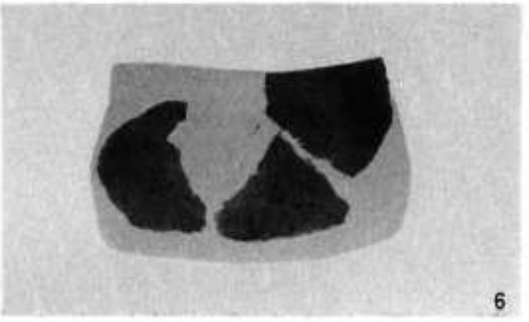
38

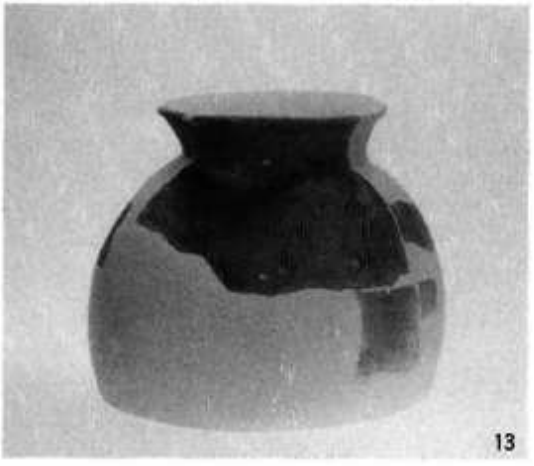
① S I −05出土土器(4)



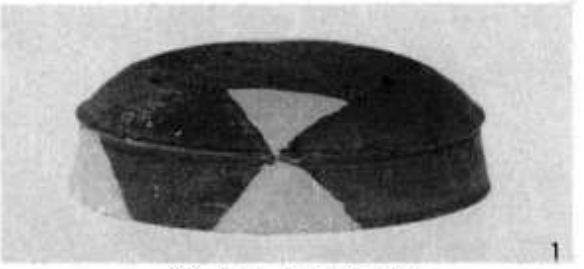



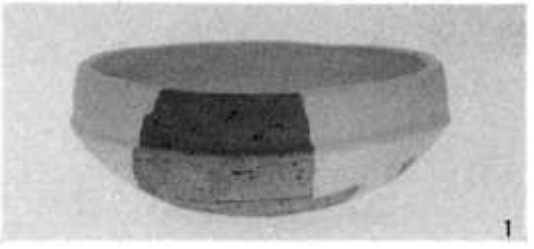


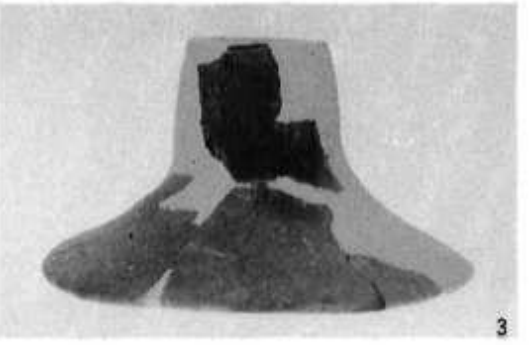



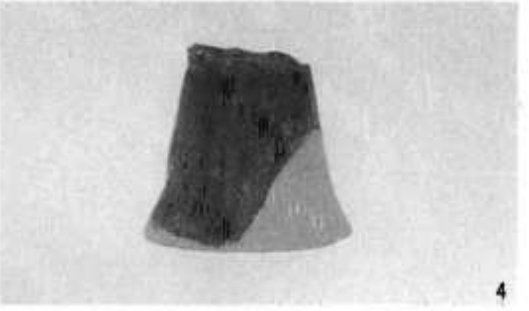
① ＳＩ－06出土土器



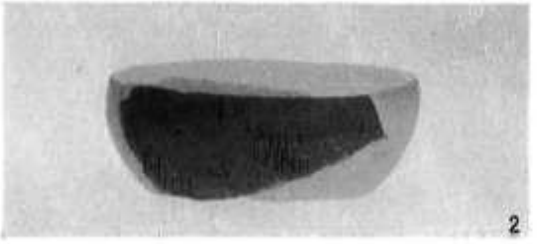

① ＳＩ－07Ａ出土土器

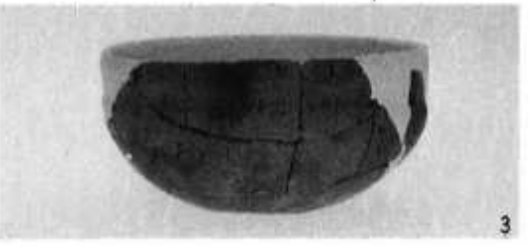


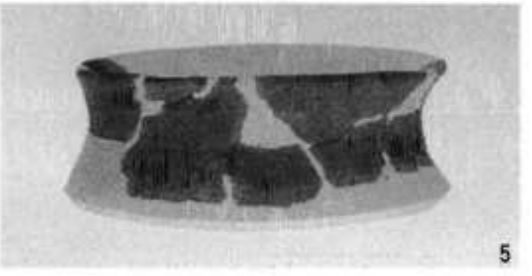





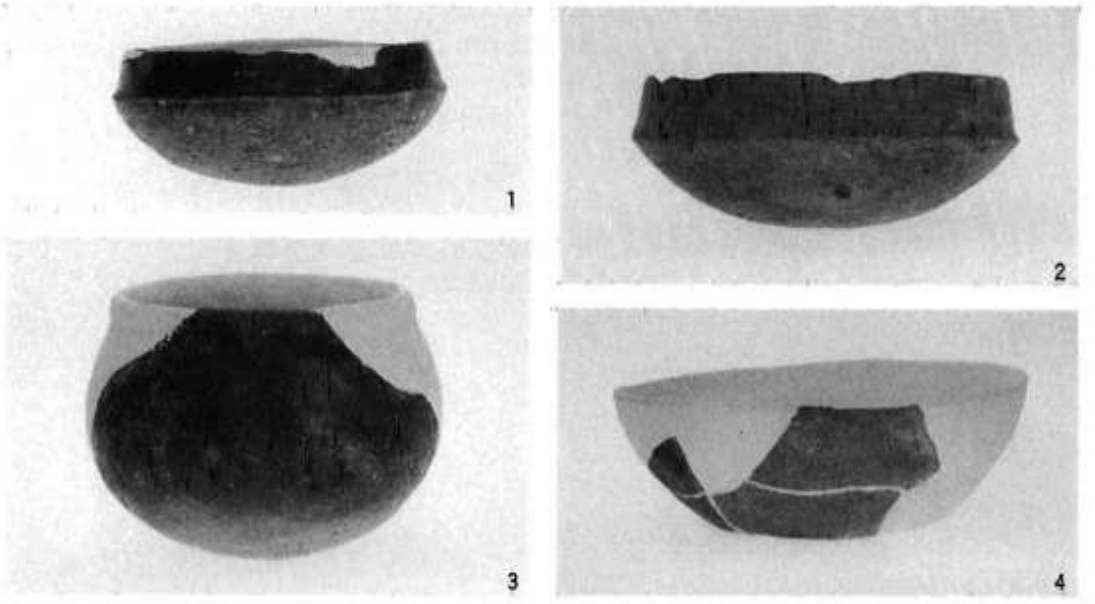

② ＳＩ－07Ｂ出土土器



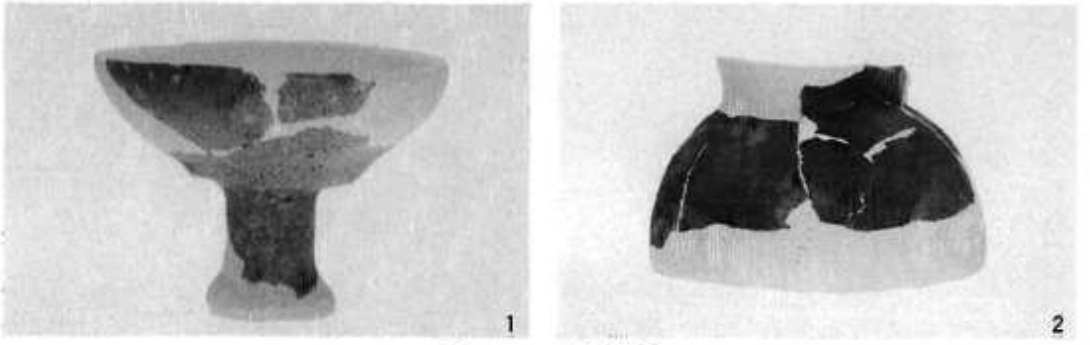





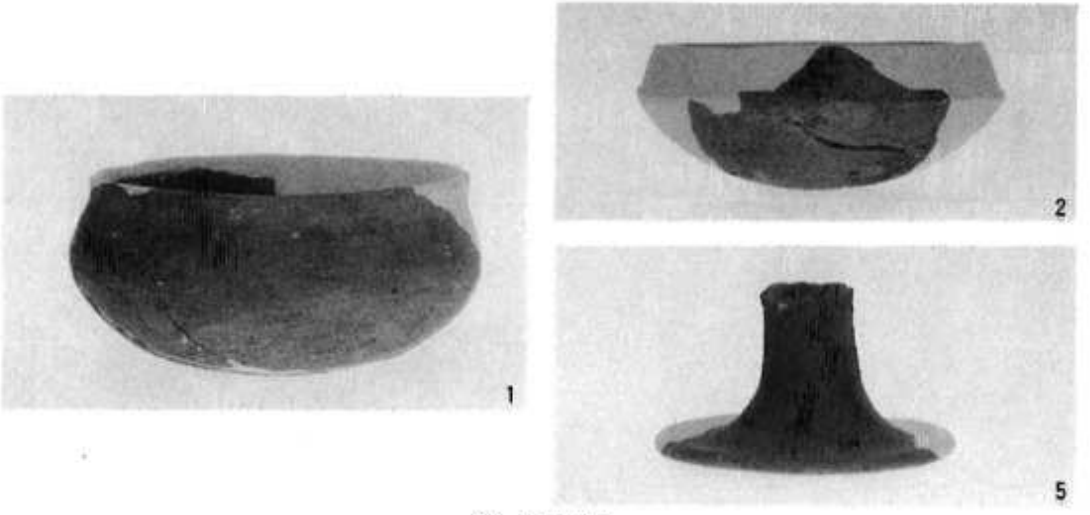

③ ＳＩ－08出土土器




① ＳＫ－01出土土器




② ＳＫ－02出土土器




③ 表採土器

10 11 12

① S I −02

28

② S I −04B

5

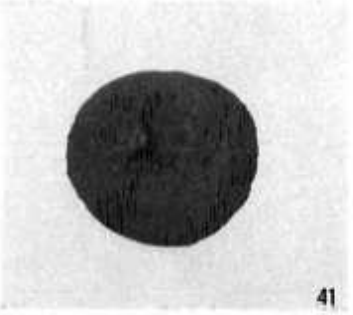
③ S I −04A

39

④ S I −05

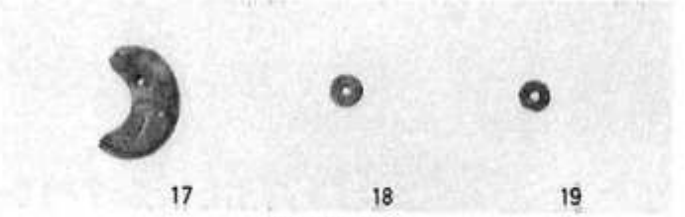
40

⑤ S I −05



41

⑥ S I −05

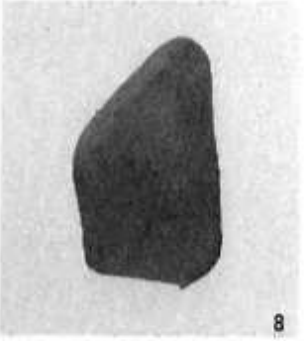


17 18 19

⑦ S I −06

7

⑧ S I −08

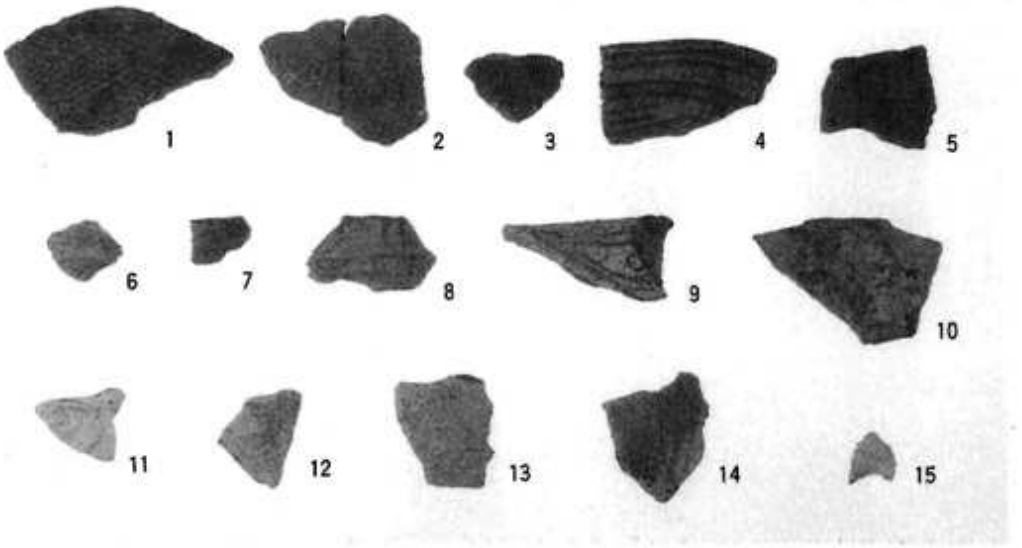


8

⑨ S I −08

9

⑩ S I −08




① 縄文時代の遺物

② S I ー06カマド出土炭化米
×5.6

③ 同炭化米（下より）
×5.7

宇都宮市埋蔵文化財調査報告第35集

**雷 電 山 遺 跡**

平成6年3月発行

発行　宇都宮市教育委員会文化課

（宇都宮市旭1-1-5）

TEL　(0286) 32-2765

印刷　伴印刷株式会社

（宇都宮市栄町6番10号）

TEL　(0286) 22-8901